

2017年度  
日本語教育実習（国外）  
報告書

愛知県立大学日本語教員課程

## **本報告書刊行によせて**

2013年から始まった愛知県立大学日本語教員課程の「日本語教育実習(国外)」は、これまで4年にわたりインドネシアのガジャマダ大学において行ってきましたが、今年は学術交流協定大学であるシベリア連邦大学（ロシア）で実施する運びとなりました。実習担当者にとってもロシアは初めての地であり、ロシア留学経験者から現地の情報を集めつつ、試行錯誤を重ねながら、プログラムをつくっていきました。

英語もあまり通じない、そして日本語を話せる人はほとんどいない、キリル文字に囲まれたロシアでの生活は、ことばがまったく通じない場所で生活しなければならない日本語学習者が体験するコミュニケーションの困難さを身をもって理解する貴重な機会になったと思います。

今回、多くの学びに繋がる本実習を実施できたのは、シベリア連邦大学日本センターのスタッフの皆様、英語・日本語学科の先生方、学生のみなさん、ほかにも多くの方々のお力添えのおかげです。

また、国際関係学科の半谷史郎先生が初めてのロシアでの実習を全面的にサポートしてくださったおかげで、安心して実習をスタートすることができました。

ご協力くださったすべての皆様に感謝申し上げます。

外国語学部国際関係学科 教授 宮谷 敦美

なお、本実習引率教員の渡航費などの諸経費は、2017年度日本語教育実習経費によるものである。

# 2017 年度 日本語教育実習(国外)報告書

## 目 次

本書刊行によせて	宮谷敦美	i
<b>1. 実習の概要</b>		
ロシア・シベリア連邦大学での日本語教育実習	宮谷敦美	2
<b>2. 会話活動に関する報告</b>		
実地経験を通して知った進行役の役割	成田彩夏	8
二つのクラスの会話活動を通した自分自身の反省点と課題	簾内亜里沙	20
教室活動案作成の重要さ	中村茉穂	34
会話活動をふりかえって	加藤志真	44
会話活動の授業を経験して学んだこと	松岡咲季	54
教室活動を通じて感じた進行役として大切なこと	齋藤陽奈子	65
教室活動を通して学んだ教案作りの大切さ	松澤実紀	78
<b>3. 日本文化紹介</b>		
顔文字紹介を通して学んだこと	加藤志真、簾内亜里沙、成田彩夏、松岡咲季	88
オノマトペ絵本	齋藤陽奈子、中村茉穂、松澤実紀	92
<b>4. プロジェクトワーク</b>		
共同作業のポイントと異文化理解を通して学んだこと	成田彩夏	96
学生の意欲を持続させながら活動する難しさ	簾内亜里沙	97
プロジェクトワークを振り返って	齋藤陽奈子	98
ロシアの学生とのプロジェクトワークを通じて学んだこと	中村茉穂	99
プロジェクトワークをふりかえって	加藤志真	100
異文化を持つ仲間とプロジェクトをする中で感じたこと	松岡咲季	101
イメージを共有することの大切さ	松澤実紀	102
<b>5. それぞれの学び</b>		
振り返りの大切さ	成田彩夏	106
事前に多くの選択肢を用意することの重要性	簾内亜里沙	107
実習を振り返って	齋藤陽奈子	108
現場で感じたこと	中村茉穂	109
国外実習をふりかえって	加藤志真	110

実習を通して学んだ意識化することの大切さ	松岡咲季……………	112
日常の発言に注意することの大切さ	松澤実紀……………	113
<b>6. 帰国報告会</b>		
帰国報告会アンケート結果……………		116

# 1. 実習の概要



# ロシア・シベリア連邦大学での日本語教育実習

宮谷 敦美

2017年度の「日本語教育実習（国外）」は、愛知県立大学の海外学術交流協定大学であるロシア、シベリア連邦大学で9月4日（月曜日）から15日（金曜日）に実施された。2016年度までは、インドネシアのガジャマダ大学で行っており、ロシアでの実習は今回が初めてである。

この実習は、日本語教育実習（国内）を履修済み、または並行履修している学生が参加できる。本年度は、7名の学生が参加した。実習の事前準備講座は、5月下旬から9月にかけて月2回程度、ゼミ形式で行い、授業時間外には、インターネット・ポートフォリオシステムを活用し議論を深めていった。

実習生が取り組んだ活動は、①トピック会話、②日本文化紹介、③ロシア人学生とのプロジェクトワークである。①②は、これまでも行ってきたものであるが、今年初めて③のプロジェクトワークを取り入れることにした。アクティブラーニングやPBL型学習が教育現場で取り入れられるようになってきているが、実際に学習経験をしたことがない活動を設計することは大変難しい。そこで、留学生との共修であるプロジェクト型学習を本実習で体験することで、プロジェクトワークの運営方法について考えるきっかけを作ることにした。

## 1. シベリア連邦大学英語・日本語学科2、3年生を対象としたトピック会話授業

本年度のトピック会話のメインテーマを「あなたならどうする？ コミュニケーションにおける価値観（文化差）を理解する」とした。この枠組みのなかで、実習生は、2年生（初中級）と3年生（中級）向けにそれぞれ4種類のトピックを選んだ。それぞれのトピックについて、話したいことをリストアップし、実際にロシア人の学習者に対する質問事項と、自分自身についてはどのように説明するか、文章例を作成した。その後レベルにあわせてミニトピックを三つに絞り、導入方法や具体的なタスクと教材の作成を行った。



写真：第1回（5月24日）の会話トピックブレーンストーミング

会話授業の内容を表1に示す。

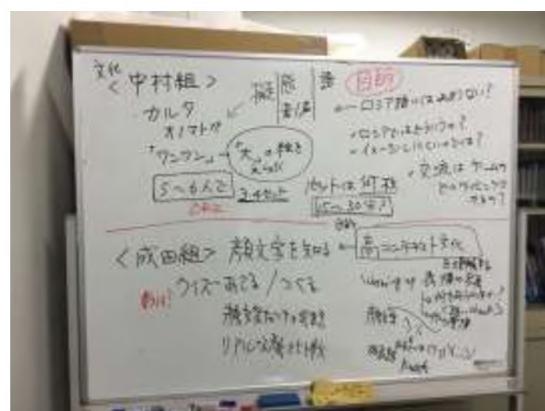
[表1 会話授業のトピック一覧]

回	2年生（初中級）	3年生（中級）
1	トピック「動物」 ①好きな動物、嫌いな動物 ②動物のイメージ ③ペットを飼っている？	トピック「学校生活」 ①科目 ②校則 ③給食
2	トピック「数字」 ①誕生日 ②好きな数字 ③縁起の良い/悪い数字	トピック「パーティー」 ①結婚式とプレゼント ②鍋パーティー
3	トピック「学校行事」 ①授業科目 ②行事 ③給食	トピック「占い」 ①自分の星座 ②星座占い ③ロシアの占い
4	トピック「パーティー」 ①誕生日パーティー ②正月	トピック「ペット」 ①猫派？犬派？ ②動物にまつわることわざ・表現 ③ペット産業

## 2. シベリア連邦大学日本センターにおける日本文化紹介活動

実習生が2つのグループになり、テーマを設定し、ワークショップ形式の日本文化紹介活動を行った（期間中各1回）。この活動では、①「文化」をステレオタイプで扱わないこと、②参加者個々の経験を引き出し新しい「ものの見方」を得られるような「相互交流型」活動を設計することを目指した。

本年度学生が扱ったテーマは、①顔文字、②絵本で学ぶオノマトペ、である。



写真左：第3回（6月21日）ブレーンストーミングの様子

写真右：第5回（7月19日）のテーマ決定時の板書

### 3. シベリア連邦大学英語・日本語学科3、4年生とのプロジェクトワーク

今回取り組んだのは「クラスノヤルスク（シベリア連邦大学が所在する都市名）に来る日本人のための、観光パンフレット作成」プロジェクトである。参加したのは、日本語教育実習生7名と、シベリア連邦大学英語・日本語学科3、4年生5名である。実習生とロシア人学生がペアになり、1つのテーマ（自然、歴史、食事、買い物など）について、観光案内を作成した。

プロジェクトワークのスケジュールを表2に示す。当初は、全6回（1回90分、最後の1回は成果発表会）で計画したが、途中で時間が足りなくなったため、成果発表会の前に2時間作業と打ち合わせのための時間を追加した。

[表2 プロジェクトワーク授業内容]

月日	授業テーマ	活動内容
第1回 9月5日(火)	ミッションを理解する	ブレーンストーミング ①旅行するときに、知りたい情報は何か、考える ②クラスノヤルスクについて日本ではどんな紹介があるか ③日本人はどんなことに興味をもっているのか
第2回 9月6日(水)	ターゲットとコンセプトと構成を決める	①読み手（ターゲット）を全体で決める ②読み手にとって、どんなコンセプトが魅力的か考える ③ページ数、形を決める ④構成を考えて、担当を決める
第3回 9月7日(木)	内容を決める	①トピックについて書く内容をまとめる ②レイアウトと、必要な写真を考える
第4回 9月11日(月)	文章作成をする	実習生とロシア人学生が協力して、日本語での文章を作成する
第5回 9月12日(火)	文章作成つづき	実習生とロシア人学生が協力して、日本語での文章を作成する
追加 9月14日(木)	スライド作成と発表準備	実習生とロシア人学生が協力して、作成した成果物に関する発表準備を行う
第6回 9月14日(木)	成果発表会	日本センター、英語日本語学科教員の前で発表を行う
オプション 9月15日(金)	学外報告	クラスノヤルスク地方文化庁での発表 (シベリア連邦大学の学生は1名のみ参加)

#### 4. 実習プログラム

[表3 実習プログラム全体スケジュール]

	午前	午後	夜
9月4日(月)		キャンパスツアー	準備打ち合わせ
9月5日(火)	2年生会話活動①	プロジェクト①	ふりかえり
9月6日(水)	3年生会話活動①	2年生会話活動② プロジェクト②	ふりかえり
9月7日(木)	3年生会話活動② ふりかえり	プロジェクト③ 市内観光	日本交流団体との懇親会
9月8日(金)	自由時間		日本文化紹介①② ふりかえり
9月9~10日	ホームステイ 日曜日夜、準備打ち合わせ		
9月11日(月)	シベリア滞留者 墓地参拝	3年生会話活動③ プロジェクト④	ふりかえり
9月12日(火)	2年生会話活動③	プロジェクト⑤	日本文化紹介③ ふりかえり
9月13日(水)	3年生会話活動④	2年生会話活動④	日本文化紹介④ ふりかえり
9月14日(木)	プロジェクト⑥	プロジェクト発表会	ふりかえり
9月15日(金)	文化庁訪問		さよならパーティー
9月16日(土)	自由時間		帰国

#### 5. 参加学生

外国語学部英米学科	4年 加藤 志真
外国語学部英米学科	4年 成田 彩夏
外国語学部英米学科	4年 松岡 咲季
外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語専攻	4年 篠内 亜里沙
外国語学部国際関係学科	4年 斎藤 陽奈子
外国語学部国際関係学科	4年 中村 茉穂
外国語学部国際関係学科	3年 松澤 実紀



## 2. 会話活動に関する報告



## 2年生会話活動（第1回）

# 「実地経験を通して知った進行役の役割」

成田 彩夏

2017年9月5日（火）10:15～11:50 実施

2年生トピック会話（第1回）「動物」

担当（進行役）：成田彩夏

記録：中村茉穂、齋藤陽奈子

参加学生：9名

私が担当したのは、初日の会話活動（初級 動物）だった。内容としては、好きな動物、嫌いな動物とその動物の特徴（Nは部分がAです。）と、動物のステレオタイプを扱った。進行役をして最初に痛感したのは、教室活動は授業開始前から始まっているということだった。前日に使用する教室の下見をしていたのも関わらず、しっかりと机の向きや学習者とサポーターの配置を決めておらず、授業直前に焦ってしまった。前日まで教室活動の内容ばかり気にかけていて、教室の準備のことは考えていなかった。授業が始まって感じたことは、グループで話し合ったことをうまく全体でシェアできていないということと、ひとつひとつの活動につながりがなく、教室活動が全体的にとりとめなく進んでいたということだった。

まず、グループ活動の全体シェアのことだが、全体シェアに入るときに「（グループ活動が）終わりましたか。」と聞いてしまった。このことで、終わっていないグループにはプレッシャーを与えてしまったし、終わったグループもこれ以上話してはいけないという雰囲気になり、その話題を深堀りすることなく静まりかえってしまった。グループ活動に区切りを付けたいときは、「あと〇分で終わってください」とか、「〇〇さんが面白いことを言っていました。〇〇さんから始めましょう。」などとグループ活動の終わりをほのめかしたほうが自然だし、学習者にとってプレッシャーが少ないと思った。また、グループ活動をだらだらと長引かせないように、最初から「〇分時間を取ります」などと指示しておくのもいい方法だと思った。また、全体シェアの最初に誰を当てるかということも気を使わなければならぬと思った。最初にクラスの中でも話せる学習者を当ててしまうと、次の学習者が発言しにくくなってしまう。全体シェアの場になると、話せる学習者のほうが話したそうなそぶりを見せたり、目があつたりするのでそちらに振りたくなってしまうが、他の学習者の立場になって考えると最初に手本のような答えが出てしまうと、次に発言したくなくなってしまうと思う。私自身の大学での授業の経験からしても、しゃべれる学習者の次には当たらないよう

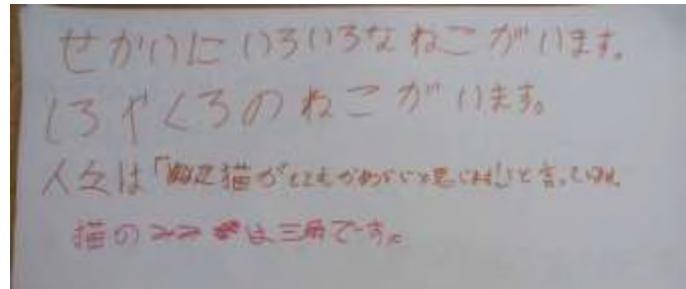


[会話活動を行った教室]

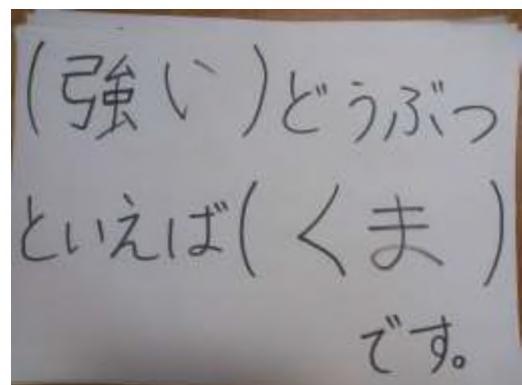
に下を向いていた覚えがある。また、発言する人が偏らないためにも、あまり発言していない人に敢えて振ることも必要だと思った。全体シェアでの学習者とのやりとりでは、その都度やりとりが途切れてしまうという課題があった。例えば、好きな動物とその理由を聞いた後に、「そうなんですね。」と言って他の学習者にまた好きな動物を聞くというやり方をしてしまったので、学習者とのやりとりが一往復で終わってしまいそのあとが続かなかった。さらに、「そうなんですね。」以外のレパートリーがあまりなく、いつも同じ答えになってしまった。ひとつ質問を投げたらその答えに関連した質問を他の学習者に投げるというように、途切れることなく教室全体を巻き込んだ全体シェアができるとよいと思った。

次に、ひとつひとつの活動につながりが悪く、教室活動全体にとりとめがなくなってしまったことについてだが、これは先ほどの学習者とのやりとりが一往復で途切れてしまったことと似ていると思う。例えば、話題を「好きな動物、嫌いな動物」から「動物のステレオタイプ」に移すときにいきなり、「次は動物のステレオタイプについて話します」と言って始めてしまった。今までの活動を受けて繋ぎの言葉や、まとめの言葉を入れなかつたので、不自然だったし、どうしていきなりステレオタイプについて話さなくてはいけないのか、学習者にとってあまり活動の意義が見いだせなかつたと思う。「好きな動物、嫌いな動物」では個人の好みについて話したが、次は一般的な認識（ステレオタイプ）はどうなのか話し合うというような繋ぎの言葉を入れられたらよかつたと思う。その場で考えて言うのは難しいので、繋ぎの言葉やまとめの言葉あると、場が和んでリラックスした雰囲気で教室活動ができると思う。教室活動がとりとめなくなってしまった原因は、まとめ活動にもあると思う。まとめ活動として最後に好きな動物ランキングを作ったが、時間があまりなく尻切れとんぼになってしまった。まとめ活動をするなら最低10分くらいは残しておく必要があると思った。

全体を通して感じたことは、進行役の役割は全体を仕切ることではなく、教室にいる全員（学習者とサポーター）のサポートをすることだということだった。進行役は他のどのサポーターよりも、サポート（脇役）に徹する覚悟で教室活動に臨めば、全体を意識した進行ができると思う。



[グループでまとめた動物の特徴]



[ステレオタイプのワークシート]

今回の会話活動では、教室活動の準備の段取り（机や人の配置）、学習者とのやりとり、教室活動全体の流れやまとまりについて現場での経験を通して学ぶことができた。

### 実習生からのフィードバックコメント

成田さんが担当するクラスは、実習生の中でも最初のクラスということもあり、準備にもたついた印象がある。教室の下見を行ったが、そのあとの打ち合わせでどのような配置でサポートーがつけばいいのかということについては話さなかつた。結果、当日にサポートーがどう動けばいいかわからず、進行役に頼ってしまった。教室活動は授業開始前から始まっていると書いてある通り、活動案に書いていない時間の過ごし方というのを実習生全員で意識していく必要があった。授業開始前だけでなく、グループ活動が早く終わってしまったときの時間の使い方についても、活動案に書いてないから次の活動に移るまで待つのではなく、学習者の復習につながるような会話活動をサポートーや進行役がしていけたらより良い活動になると思う。

また、成田さんの活動を通して、進行役が発する言葉というのは、全体に与える影響が大きいということに気づくことができた。進行役ではない立場から活動を見ていると、進行役が「そうなんですね。」だけで学習者の発話内容を返していると、会話として見ていて違和感を覚えた。特に進行役は全体で話すときに自分の発話を聞かれてしまうので、学習者との会話が一方通行にならないよう、話題を操作する必要があると思う。繋ぎの言葉についても、進行役は活動案を頭にいれて進めているので忘れがちだが、しっかりと次の活動に移ることを明言することで、全体の活動自体にまとまりができるはずである。

最初のクラスということでプレッシャーも大きかったと思うが、成田さんの活動から気づけたこと、学んだことは多くあった。実際に学習者を前にしたからこそ気づけた進行役の役割であり、私自身も、進行役を体験してみないとわからない点があったので、今回の実習で得たものを今後の活動に活かしていきたい。（中村茉穂）



[動物ステレオタイプを相談中]

事]

## 教室活動案（2年生・第1回）

担当者	成田彩夏	
トピック	動物	
学習項目	1.好きな動物、嫌いな動物 2.動物のイメージ 3.ペットを飼っている？	
学習者とのコミュニケーション目標	ペットや好きな動物について説明する	
教具・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネームホルダー×12</li> <li>・カード(白紙)×12</li> <li>・A3の紙(白紙)×6(3枚予備)</li> <li>・タスクシート(A4)×12</li> <li>・ひらめきマーク(提示用)×1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペン×3</li> <li>・絵カード(動物)20種×3セット</li> <li>・単語リスト×12部</li> <li>・タスクシート(A3)×12</li> <li>・質問カード6種×3セット</li> </ul>

### ウォーミングアップ

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
ウォーミングアップ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生は学習者の名前を、学習者は実習生の名前を覚える。</li> <li>・ゲーム性を取り入れることでアイスブレーキングをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上にネームホルダー、ペン、カード(白紙)を置いておく</li> <li>・名前、学年、ペットがいるかいないかなどを聞く→レベルが均等になるように4人×3グループに割り振る。1グループに最低1人はペットを飼っている人がいるようにする。</li> <li>・席に着いた人から名札を作る</li> <li>・グループごとに自己紹介リレー(自分より前に名乗った人の名前を言ってから自己紹介を始める) A : 「Aです。」 B : 「Aさんの隣のBです。」 C : 「Aさんの隣のBさんの隣のCです。」 ...</li> </ul>	実習生は1グループに1~2人  教材： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネームホルダー</li> <li>・ペン</li> <li>・カード(白紙)×12</li> </ul>

### 好きな動物、嫌いな動物

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
語彙導入・確認	・動物の日本語の名称を知る	進行役「みなさん、クラスノヤルスクに動物園がありますか。」	教材： <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵カード</li> </ul>

10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色の名称や、動物の大きさを表す形容詞を知る</li> </ul>	<p>学習者「あります。」          進「動物園に行きますか。動物園に何がいますか。動物園にいます、動物園にいません、カードを分けてください。」          絵カードを配る。          絵カードを動物園にいる動物／いない動物で分類しながら、名前が分からぬ動物は名前を教える。          進「ここから（動物園にいる方を指さして）1枚選んでください。何を選びましたか。」          グループで1枚ずつ選んでもらう。          学A「ライオン」 学B「クマ」 学C「キリン」          進「ライオン、クマ、キリンについて書いてください。何色ですか、大きいですか、小さいですか。例えば、私はペンギンを選びました。“ペンギンは黒いです。ペンギンは小さいです。”と書きます。」          A3の紙、単語リストを配る。          動物の色、大きさ、形に関する形容詞を使ってその動物の説明 A3 に紙に書く（N は A です。）          進「何を書きましたか。」…          各グループ順番に当てる。          進「今から、動物についてもっと話しましょう。」</p>	<p>(動物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語リスト</li> <li>・A3 の紙×3</li> <li>・ペン</li> </ul> <p>日本人は書くサポートをする</p>
タスク理解のためのやりとり 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「N は～が A です」の形を提示する</li> </ul>	<p>進「(サポートー1) さん、ペンギンはどんな動物ですか。」          サ1「ペンギンは足が黄色いです。」          ジェスチャーを交えて説明、2人くらいに聞く。</p>	
グループワーク 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の特徴について話すこと慣れる</li> </ul>	<p>進「グループで、ライオン、クマ、キリンの体、例えば、足や尻尾について話し合ってください。」          グループで、先ほどにやり取りを参考にして、先程選んだ動物の特徴を</p>	<p>日本人は会話がスムーズに進むようサポートする</p>

		<p>話し合う。</p> <p>進「ライオン、クマ、キリンについて何を話しましたか。」</p> <p>各グループ順番に当てる。</p>	
タスク理解のためのやりとり 3分	・「N は～が A です」の形を提示する	<p>進「次は、好きな動物について話します。(サ 2)さん、好きな動物は何ですか。」</p> <p>サ 2「うさぎです。」</p> <p>進「うさぎはどんな動物ですか。」</p> <p>サ 2「うさぎは耳が長いです。」</p> <p>サポートー何人かに聞く</p>	
グループワーク 5分	・「N は～が A です」をアウトプットする	<p>タスクシートを配る</p> <p>進「グループで好きな動物を聞いてください。好きな動物を説明してください。」</p> <p>グループで、先ほどにやり取りを参考にして、好きな動物とその特徴を聞き合う。</p> <p>聞き合ったことをタスクシートに書きこむ。</p>	教材： タスクシート(A4)
タスク理解のためのやりとり 3分	・「N は～が A です」の形を提示する	<p>進「(サ 3)さん、嫌いな動物は何ですか。」</p> <p>サ 3「ぶたです。」</p> <p>進「ぶたはどんな動物ですか。」</p> <p>サ 3「ぶたは足が太いです。」</p> <p>サポートー何人かに聞く</p>	
グループワーク 5分	・「N は～が A です」をアウトプットする	<p>進「グループで嫌いな動物を聞いてください。嫌いな動物を説明してください。」</p> <p>グループで、先ほどにやり取りを参考にして、嫌いな動物とその特徴を聞き合う。</p> <p>聞き合ったことをタスクシートに書きこむ。</p>	教材： タスクシート(A4)
全体シェア 5~10分	・自分のことだけではなく、人のことについても説明できるようになる	<p>進「今から、隣の人の好きな動物を教えてください。答えたい人？」</p> <p>各グループ 1人ずつ当てる。</p> <p>進「次は、隣の人の嫌いな動物を教えてください。答えたい人？」</p>	教材： タスクシート(A4)

		各グループ1人ずつ当てる。	
--	--	---------------	--

## 動物のイメージ

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
語彙導入・確認 5~10分	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の日本語の名称を知る</li> </ul> <p>・「～といえば・・・」の文型を提示</p> <p>・ステレオタイプという語彙を理解する</p>	<p>①「好きな動物、きらいな動物」をやっている場合</p> <p>動物園に何がいるか聞く（絵カードを動物園にいる／いないで分ける）</p> <p>→名前が分からぬ動物がいれば教える</p> <p>②「好きな動物、ほしい動物」をやった場合</p> <p>上の会話は行わない</p> <p>以下①②共通</p> <p>進「今から、動物のステレオタイプについて話します。（サ1）さん、強い動物といえば何ですか。」</p> <p>サ1「強い動物といえばライオンです。」</p> <p>進「（サ2）さん、強い動物といえば何ですか。」</p> <p>サ2「強い動物といえばライオンです。」</p> <p>進「（サ3）さん、強い動物といえば何ですか。」</p> <p>サ3「強い動物といえばライオンです。」</p> <p>進「（サ4）さん、強い動物といえば何ですか。」</p> <p>サ4「強い動物といえばライオンです。」</p> <p>進「みんな強い動物といえば…（ひらめきカードを見せる）ライオンと言います。みんな言います。みんな思います。これはステレオタイプです。では、大きい動物といえば何で</p>	<p>教材：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵カード</li> <li>・単語リスト</li> <li>・ひらめきカード(A4、提示用)</li> </ul> 

		<p>すか。」</p> <p>何種類か聞いて当てる。</p> <p>進「グループでステレオタイプについて話しましょう。」</p>	
タスク理解のためのやりとり 3分		<p>進「まず、形容詞を選びます。1人1つです。同じものを選んではいけません。選びましたか。(学)さん、何を選びましたか。」</p> <p>学「かわいいです。」</p> <p>進「では、かわいい動物と言えば何か、グループで話し合ってください。2分で決めて書いてください。他の3つも2分ずつで決めて書いてください。」</p> <p>進「ここに書きます。グループの人聞いてください。」</p>	<p>教材：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語リスト</li> </ul>
グループワーク 10分	・動物のステレオタイプについて意見を言う	学習者は聞きたい形容詞を一つ選び、その形容詞に当てはまる動物を同じグループの学生と話し合い、タスクシートに書く。	<p>教材：</p> <p>タスクシート A3×12枚</p>
全体シェア 5~10分	・「～といえば・・・」をアウトプットする	<p>進「みんなのステレオタイプを教えてください。(学)さん、なんの形容詞を選びましたか。」</p> <p>学「ずるいです。」</p> <p>進「ずるい動物と言えば何ですか。」</p> <p>学「ずるい動物と言えばきつねです。」</p> <p>進「そうですか。ずるいを選んだ人はいますか。」</p> <p>何種類かの形容詞について聞いていく。</p>	<p>教材：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タスクシート(A3)</li> </ul>

### ペットを飼っている？

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
語彙導入・確認 5~10分	・ペットとは何か理解する	進「今から、ペットについて話します。ペットは動物です。家にいます。私はペットを飼っています。犬を1匹飼っています。」(写真を見せる)	

		進「私のペットの名前はランです。13歳です。キャベツが好きです。オス、男の子です。」	
タスク理解のためのやりとり 3分	・ペットについての質問の仕方を提示する	<p>進「(サ)さん、何を飼っていますか。」</p> <p>進「何匹飼っていますか。」…</p> <p>進「名前は何ですか。」…</p> <p>進「好きな食べ物はなんですか。」…</p> <p>進「何歳ですか。」…</p> <p>進「オス、男の子ですか、メス、女の子ですか。」…</p>	
グループワーク 目安 10 分	・実際に相手に質問をして、情報を聞き出せるようになる	<p>進「答える人と質問する人を決めます。ペットを飼っている人？」</p> <p>手を挙げてもらう、ペットを飼っている学生を各グループ1人選ぶ</p> <p>進「(学A)さん、(学B)さん、(学C)さん、答えてください。質問する人？」</p> <p>手を挙げて質問する人を確認する。</p> <p>進「質問する人はカードを2枚引きます。書いてあることを聞きます。」</p> <p>質問カードを見せる。ペットを飼っている人は質問される役になる。他の学生は質問カードを引き、カードに書いてあることを聞き出す。タスクシートにわかったことを書きこむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問カード 6種 (なにを、なんぴき、なまえ、すきなたべもの、なんさい、オス・メス)</li> <li>タスクシート(A4)</li> </ul>
全体シェア 5~10分	・聞き出した情報を整理してアウトプットする	<p>進「みんなさんのペットについて教えてください。(学D)さん、(学E)さん、(学F)さん、(学A)さんのペットについて教えてください。違うグループの人は聞いたことを書いてください。」</p> <p>聞き出した情報を基に、飼い主以外の学生がペットを紹介する。聞いている学生はタスクシートに書きこむ。</p>	教材： <ul style="list-style-type: none"> <li>タスクシート(A4)</li> </ul>
まとめの活	①	①ミニトピック1、2を行った場合	

動 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの意見をまとめられるようになる</li> </ul>	<p>進「最後に、好きな動物ランキングときらいな動物ランキングを作ります。司会をやりたい人？書記をやりたい人？」</p> <p>いれば任せる。いなかつたら進行役がそのまま進める。</p> <p>進「1番目、2番目、3番目に好きな動物を決めます。（学）さん、好きな動物は何ですか。」</p> <p>学「犬です。」</p> <p>進「犬が好きな人？」</p> <p>举手してもらい、人数をホワイトボードに書く。同様進めで好きな動物、嫌いな動物ランキングを作成する。</p> <p>それぞれ A3 の紙にまとめ、発表する</p>	
	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際はすべての動物がステレオタイプに当てはまらないことを理解する</li> </ul>	<p>②ミニトピック 2、3を行った場合</p>	

## 作成教材

### すきな どうぶつ

れい)

A : Bさん、すきな どうぶつは なんですか。

B : うさぎです。

A : うさぎは どんな どうぶつ ですか。

B : うさぎは みみが 長いです。

だれ	すきな どうぶつ	どんな
B	うさぎ	みみが 長い

### きらいな どうぶつ

れい)

A : Bさん、きらいな どうぶつは なんですか。

B : ぶたです。

A : ぶたは どんな どうぶつ ですか。

B : ぶたは あしが みじかいです。

だれ	きらいな どうぶつ	どんな
B	ぶた	あしが みじかい

ペット:ともだちの ペットについて きいて ください

だれ	なにを	なんびき	なまえ	すきな たべもの	なんさい	オス、メス
れい) あやか	いぬ	1ひき	らん	キャベツ	13さい	オス



## 2年生会話活動（第2回）、3年生会話活動（第3回）

# 二つのクラスの会話活動を通した自分自身の反省点と課題

簾内 亜里沙

2017年9月6日（水）12:00～13:35 実施

2年生会話活動（第2回）「数字」

担当（進行役）：簾内亜里沙

記録：松澤実紀、松岡咲季

参加学生：8名

2017年9月11日（月）12:00～13:35 実施

3年生会話活動（第3回）「占い」

担当（進行役）：簾内亜里沙

記録：松澤実紀、中村茉穂

参加学生：4名

私は、シベリア連邦大学での会話活動を初級クラスと中級クラスで計2回行った。トピックは初級クラスでは「数字」、中級クラスでは「占い」で教案を作成した。今回の国外実習は、対象学生の日本語レベルが出国直前まで判明していなかったこともあり、特に初級クラスの教案作成に悩み、時間を掛けた。そのため、中級クラスの教案が初級クラスのものよりもしっかりと作り込めていなかったことが大きな反省点である。

私の初級クラスの会話活動は2回目の授業であったため、教室の形態や学習者の日本語レベルをある程度把握した上で行うことができた。進行役の立ち位置、声の大きさ、表現のコントロールなど、意識的にできたものもあれば、あまりできなかつたものもあった。授業では、数字カードを使った語彙導入を学習者が楽しんで行ってくれたため、活動のスタートは概ね良い雰囲気だったと思う。その後、実習生を配置したグループ活動に移ったが、進行役として各グループの進行状況やどんな内容を話しているかを把握するように努めた。全体的に、各活動のメリハリがしっかりできていなかつたため、間延び感が否めなかつた。タイマーをもっと効果的に用いることができれば良かったと思う。

誕生日というミニトピックで、国や学校の誕生日として、建国記念日や創立記念日について触れた時、前日の打ち合わせの際に“記念日”が“祝う日”であるというインプットを行つた方が良いと言われていたが、当日は実行することができなかつた。実は、あるグループを見ていた時に、ロシアの建国記念日に何かイベントがあるのかという話題が出たのだが、その時に「祝いますか」という尋ね方をしたら、学習者に伝わらず、結局「祭り・フェスティバル」という単語を使って建国記念日を祝うイベントがあると聞いた。このやり取りを通して、全体で「記念日」をインプットする際に「祝う」という単語がわからない場合は、どうすればいいのだろうと悩み、その言葉をピックアップするのをやめたという経緯がある。実習を通して、私は辞書的な説

明をする傾向があることを指摘された。自分でも、長々とその言葉の意味について説明してしまうことは自覚しており、そのせいで余計に学習者を混乱させてしまったこともあったと思う。その傾向を踏まえると、間違った判断ではなかったと思うのだが、今後は知らない言葉のインプットの方法を練習して身に付ける必要がある。初級クラスの会話活動全体を振り返ると、クラスの雰囲気は悪くなく、最後の全体シェアも良かったと思うが、各活動の時間配分の仕方と授業中に何度か行った全体シェアでひとつのコミュニケーションを作ることができていなかつた点が大きな課題であった。

中級クラスの会話活動については、トピックが「占い」であったが、振り返ってみると「性格を表す言葉」に焦点が当たりすぎてしまっていたように思う。主に扱った内容が「星座占い」であり、星座ごとのステレオタイプの性格と自分やクラスメイトの性格を比較するという目標であった。自分の性格を考えるために用意した性格を表す言葉と星座の性格を表す言葉で、共通した言葉を多用するべきだったと反省している。例えば「忍耐強い」と「我慢強い」をどちらかに統一してリストを作成するべきであった。微妙にニュアンスの違う類似した言葉もタスクシートに記載してしまったため、その言葉の説明をしなければならないサポートーに大きな負担をかけてしまった。進行役ではあるが、私自身も辞書的な説明をしないことを心掛け、自分なりに人物の例を挙げて、その言葉の表す性格を連想してもらうように促した。この会話活動ではロシアの占いについても話し、日本の占いと比較したかったのだが、ロシアの占いに関してあまり聞き出すことができずに授業が終わってしまった。タスクシートの作成段階で、もっと工夫が必要だったことが大きな反省点である。また、初級の会話活動で課題となっていた全体シェアも結局うまくいかず、振り返りを生かすことができなかつた。もっと話題を深掘りして、学習者から聞き出すようにすることや、学習者に説明させる質問の仕方を意識的に身に付けていく必要があると感じた。

2週間の実習で、初級の会話活動は1週目に行い、中級の会話活動は2週目に行った。2週目からは前日の打ち合わせで教案に対して厳しい指摘を受けた。私が最後まで理解しきれなかつた部分として、学習目標・学習項目とコミュニケーション目標の違いがある。各ミニトピック、あるいはトピック全体で目標とするものについて、この2つの違いがよくわからなかつた。学習目標は文型のことかというと、そうでもなく、この2つを明確に理解してから教案を作成するべきだったと思った。授業前日に言われても、脳内で何度もシュミレーションした活動を大幅に修正することはできないし、進行役になると、緊張して前日の打ち合わせのことは記憶の片隅にも残っていなかつたりするからだ。このことについて意識的に考えながら教案を作成できたらよかつたのではないかと思う。



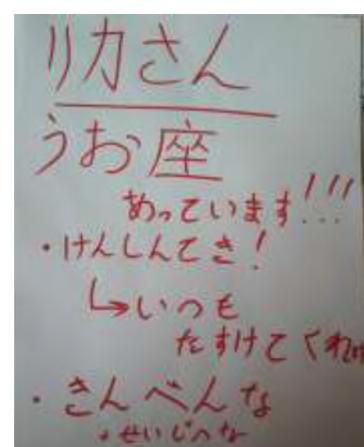
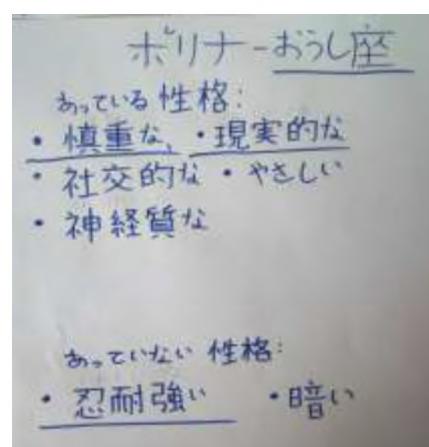
## 実習生からのフィードバックコメント

授業のウォームアップはどちらのクラスも非常に良い雰囲気で進んでいた。やはりゲーム感覚でかつ学びのあるものは、学習者が「勉強している」という意識を持たずに寛ぎに楽しめるから、簾内さんが取り入れた数字の語彙導入は、初級の人だけでなく、中級の人にとっても復習になる非常に有効なウォーミングアップだったと思う。

中級の活動では簾内さん自身も述べているように「性格を表す言葉」に重点が置かれ、サポーターも学習者も言葉の説明や理解に時間を費やしてしまった。また、類似した語彙についても、日本人である私たちでさえうまく説明しきれない部分があったので、似たような言葉は統一していれば説明する時間を、占いの方に回せたかもしれないと思った。性格について学習者と話す場合は、学習者内面に踏み込むことになるので、簾内さんが自身の性格を例として自己開示したのは良かった。私も、簾内さんの授業から、自己開示の大切さを学んだ。

中級の学習者は、日本語が話せるからこそ予想以上に盛り上がってしまったり、話が進んでしまったりして、全体の流れをコントロールするのが難しかったと思う。一部指示が行き届かなくてうまく活動の切り替えができなかった部分もあったが、全体的に簾内さんの進行は声がはっきりしていて、明るい雰囲気の中で進められていたので、学習者も楽しく参加できていたようだった。

今回の活動を通して、私も教案の作成段階での反省を実感していた。今回の経験を生かして、今後は目標をしっかりと持ち、実際に教室活動を行う際の想定をしっかりと行き教室活動案を作るようしたい。(松澤実紀)



## 教室活動案（2年生・第2回）

担当者	簾内亜里沙
トピック	<p>数字に関する迷信</p> <p>ミニトピック1：誕生日 目標) 数字と日付の言い方を覚え、話すことができる。</p> <p>ミニトピック2：好きな数字 目標) 好きな数字について理由も付けて言うことができる。</p> <p>ミニトピック3：縁起の良い/悪い数字 目標) 数字に関する縁起の良い/悪いものについて話すことができる。</p>
学習者とのコミュニケーション目標	数字に関する迷信や両国の数字に対する考え方を簡単に話すことができる。
教具・教材	<p>ネームカード用 A4 白紙 or 名刺カード×12枚 + 実習生分</p> <p>ネームホルダー(首から下げるやつ)×12個 + 実習生分</p> <p>0~31の数字カード×4</p> <p>タスクシート×12枚</p> <p>四つ葉のクローバーの絵か写真×1枚</p>

## ウォーミングアップ

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
00:00 ウォーミングアップ (5分)	前回の復習。 学習者の日本語レベルを見る。	<p>前回の復習を兼ねた自己紹介。</p> <p>①日本語ができない 進「隣の人とペアになってください。隣の人の好きな動物を聞いてください。」</p> <p>②日本語ができる 進「隣の人とペアになってください。隣の人を動物に例えてください。隣の人は、どんな動物に似ていますか？」</p>	<p>ネームカード用意 ネームホルダー(首から下げるやつ) ×12個 + 実習生分</p> <p>4人×3グループ 進行役=進 サポートー=サ</p>
00:05 語彙導入・確認 (10分)	数字をきちんと言えるかどうかを見る。	<p>1~31の順番に早出し対決。</p> <p>1~31のカードをシャッフルして、各グループの学習者に配る。</p> <p>グループ分の0カードを各グループの実習生が最初に置いて、スタート。(例)</p>	<p>1~31の数字カード 0カード×4枚</p> <p>数字カードを出すとき、出す数字を言わなければならない。</p>

		<p>サ「0(ぜろ)！」</p> <p>A「いち！」1のカードを0の上に。</p> <p>CD「に！」※Dの手が下。</p> <p>サ「Dさんのはうが早かったです！」</p>	<p>数字が簡単そうなら、次は日付で行う。</p> <p>例)「ついたち！」</p> <p>実習生が参加するか否かはグループで決める。</p>
--	--	---	---

### ミニトピック1:誕生日

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:15 ミニトピック1-2 (3分)	誕生日を聞く、答える。 進行役と実習生のやり取りで会話モデルを見せる。	<p>誕生日を聞く、答える。</p> <p>進「サ1さん、誕生日はいつですか？」</p> <p>サ1「私の誕生日は、○月×日です。」「簾内さんの誕生日はいつですか？」</p> <p>進「私の誕生日は、1月15日です。」</p>	<p>※サポートー1=サ1</p> <p>日付の数字の読み方の紙を配布。</p> <p>数字があまりできないようなら、自分の誕生日を書き出すことから行う。</p>
00:18 ミニトピック1-3 (10分)	誕生日の月日が言える。	<p>グループで誕生日を聞き合う。</p> <p>①数字があまりできない場合 グループのメンバーの誕生日を聞く。</p> <p>各グループにサポートーも入ってもらい、サポートーの誕生日も含む。</p> <p>メンバーの簡単な自己紹介を考える。</p> <p>例)名前、誕生日、好きなこと・もの グループごとに前に出て、誕生日順に並んでもらう。</p> <p>自分の誕生日の次の誕生日の人の紹介をする。</p> <p>②数字ができる場合 学習者に起立してもらい、誕生日順に並んでもらう。</p> <p>1月→12月</p> <p>最後に順番に自分の誕生日を言ってもらって、合っているかどうか確認。</p>	

00:28 ミニトピック 1-4 (10分)	学校や国、有名人の誕生日を話し合う。	<p>教養ネタ。 タスクシートの誕生日問題をグループで話し合う。</p> <p>1. シベリア連邦大学の誕生日(創立記念日) 2. 愛知県立大学の誕生日 3. ロシア連邦の誕生日(建国記念日) 4. 日本の誕生日 5. プーチン大統領の誕生日 6. ユーリイ・アレクセーエヴィチ・ガガーリン Юрий Алексеевич Гагарин 7. 浅田真央 8~10は学習者に考えてもらう。 →話を膨らませる。</p> <p>個人→グループ 進「グループで、ロシア人と日本人の有名な人を3人ずつ決めてください。あとで、名前と何をした人かを説明してもらいます。」</p>	<p>主にタスクシートを使う。</p> <p>1. 2006年11月4日 2. 1966年5月1日? 3. 6月12日 4. 2月11日 5. 1952年10月7日 6. 「地球は青かった」の人 1934年3月9日 7. 1990年9月25日</p> <p>話を膨らませる方向性 →何をしてる/した人? どんな人? 日本人には有名? ロシア人には有名? 一緒に検索検索!</p>
------------------------------	--------------------	---	---

## ミニトピック2: 好きな数字

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:38 ミニトピック 2-1 (5分)	季節の確認。	<p>春夏秋冬+梅雨は何月～何月までかを日本とロシアで考える。 ※ロシアに梅雨の概念はあるのか? →わからない学習者が多ければ、全体で確認をする。 グループで好きな季節はどれか、好きではない季節はどれか、理由を付けて話す。 その後 or 同時に、好きな月について話す。理由も聞く。</p>	<p>タスクシートを使う。</p> <p>季節の変わり目の感じ方は人それぞれ。 厳密にこだわらない。</p>

00:43 ミニトピック 2-2 (3分)	好きな数字について聞く、答える。  進行役と実習生のやり取りで会話モデルを見せる。	好きな数字について、理由を付けて話す。  進「サ 2 さん、どんな数字が好きですか？」 サ 2 「8 が好きです。誕生日の数字ですから。」 サ 2 「簾内さんは、どんな数字が好きですか？」 進「7 が好きです。ラッキーセブンですから。」	理由は簡潔なものを提示したい。  色々な理由で ok. ・好きな選手の背番号 ・誕生日 など。  →ラッキーセブン ヨーロッパの考え方。日本に伝わった。
00:46 ミニトピック 2-3 (10分)	好きな数字について、理由を付けて話す。相手に好きな数字を聞く。	ペアで好きな数字を聞き合い、理由も聞く。  進「隣の人に好きな数字について、聞いて下さい。理由も聞いてください。」 進「聞きましたか？次は、前に座っている人に聞いてください。」 次に、シチュエーションを提示して、よく選ぶ数字や選ばない数字について話す。	理由を述べようとして困っていたら助けに入る。
00:56 ミニトピック 2-4 (15~20分)	好きな数字の一般化をする。	グループごとに、ロシア人の好きな数字は何か話し合う。 なぜその数字が好きなのかも考えてもらう。  進「好きな数字が同じ人はいましたか？みんな、違いましたか？」 →各グループに聞く。 進「では、みなさん、ロシア人に、人気のある数字は何ですか？話し合ってください。」 →3~5 分くらい。  進「ロシア人に、人気のある数字について、この紙にまとめてください。どうしてそう思ったのか、理由もつけてください。」 →グループごとに紙にまとめる。 進「みなさん、まとめましたか？」	A3 紙×4 枚 (4 グループ分)

		<p>ロシア人に、人気のある数字は何ですか？このグループは何でしたか？理由は何ですか？」</p> <p>→グループごとに意見を述べてもらう。</p> <p>進「どうですか？他のグループのみなさんは賛成ですか？」</p> <p>→他のグループに聞く。</p>	
--	--	--	--

### ミニトピック3：縁起の良い/悪い数字

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:71 ミニトピック3-1 (5分)	良い・悪い数字の話をする。	<p>ロシアと日本で、1～10 の数字のうち、よい数字とよくない数字を分ける。</p> <p>理由も合わせて、話し合う。</p> <p>進「1～10 の数字のうち、よい数字はどれですか？よくない数字はどれですか？グループで話し合ってください。」</p>	<p>どちらにも属さない・わからない数字もあるので、絶対全部分類しなければならないわけではない。</p> <p>1～10 の数字カード使用</p> <p>A3 紙×8枚 (2枚×4グループ)</p>
00:76 ミニトピック3-3 (5分)	2つの意味を持つものについて話す。	<p>2つの意味を持つ“4”について話す。</p> <p>進「これは、四つ葉のクローバーです。四つ葉のクローバーを見つけます。幸運です。良い意味です。」</p> <p>進「これは、数字の4です。良くない意味です。」</p> <p>進「どうしてですか？グループで話し合ってください。」</p> <p>各グループの実習生は、数字の4がどうして良くない意味なのか、解釈を学習者に話してください。</p>	四つ葉のクローバーの絵か写真。
00:86	数字に関連す	縁起の良い/悪い数字を実際の物	縁起の良い=ラッキ

ミニトピック 3-2 (10 分)	る縁起の良い/悪いもの・ことの話をする。	と関連させて考える。 ①プレゼントする花の本数について。 進「お母さんの誕生日です。花をプレゼントします。2本と3本、どちらがいいですか？」 進「2本がいいと思う人は手を挙げてください。」 進「3本がいいと思う人は手を挙げてください。」 進「どうしてですか？グループで話し合ってください。」 その他のシュエーションを用意して、グループで話し合う。	一 縁起の悪い=アンラッキー  ロシアでは、奇数が良しとされる。 →話を膨らませる。 ・何の花をプレゼントする？ ・本数に意味はある？ (バラにはあるよね)
01:01 ミニトピック 3-4 (15~20 分)  00:96 END	まとめる。	グループごとに、ロシアの数字に関する縁起の良い or 悪いものを1つ決め、A3紙にまとめる。  グループごとに発表。	各グループ被らないように、何について書くかだけ、全体でシェアしてから、まとめに入る? A3紙×4枚 (4グループ分)

## 作成教材（2年生）

<p>ミニトピック3</p> <p>・なんじょうびはいつでザカナ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; height: 150px;"> <tr><td style="width: 33%;">なまえ</td><td style="width: 33%;">なんじょうび</td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td>シリアれんばうだいがく</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>あいもけんそつ然いがく</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ロシアれんぼうきょうわこく</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>にほん</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ブーゲンバーグリヨウ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ヨーライ・アレクセーエヴィチ・ガガーリン Юрий Алексеевич Гагарин</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>あさだ まよ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	なまえ	なんじょうび		シリアれんばうだいがく			あいもけんそつ然いがく			ロシアれんぼうきょうわこく			にほん			ブーゲンバーグリヨウ			ヨーライ・アレクセーエヴィチ・ガガーリン Юрий Алексеевич Гагарин			あさだ まよ									<p>ミニトピック3</p> <p>・なんじょうひはいつでザカナ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; height: 150px;"> <tr><td style="width: 33%;">にほん</td><td style="width: 33%;">ロシア</td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td>日本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>・じもだちに せいいでください</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; height: 150px;"> <tr><td style="width: 33%;">だれ</td><td style="width: 33%;">すきなすうに</td><td style="width: 33%;">せゆう</td></tr> <tr><td>わたし</td><td>うさぎ</td><td>ランチ</td></tr> <tr><td>わたし</td><td>うさぎ</td><td>ランチ</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>お、かわいい！ わたしはうさぎです。ランチ</p> <p>――――――――――――――――</p> <p>――――――――――――――</p>	にほん	ロシア		日本			だれ	すきなすうに	せゆう	わたし	うさぎ	ランチ	わたし	うさぎ	ランチ																											
なまえ	なんじょうび																																																																								
シリアれんばうだいがく																																																																									
あいもけんそつ然いがく																																																																									
ロシアれんぼうきょうわこく																																																																									
にほん																																																																									
ブーゲンバーグリヨウ																																																																									
ヨーライ・アレクセーエヴィチ・ガガーリン Юрий Алексеевич Гагарин																																																																									
あさだ まよ																																																																									
にほん	ロシア																																																																								
日本																																																																									
日本																																																																									
日本																																																																									
日本																																																																									
日本																																																																									
日本																																																																									
だれ	すきなすうに	せゆう																																																																							
わたし	うさぎ	ランチ																																																																							
わたし	うさぎ	ランチ																																																																							

### 教室活動案（3年生・第3回）

担当者	簾内亜里沙
トピック	占い ミニトピック1：自分の星座 目標) 十二星座の名称を知り、自分の星座が言える。 ミニトピック2：星座占い 目標) 自分の性格と星座の性格を比較することができる。 ミニトピック3：ロシアの占い 目標) ロシアの占いについて話し、ロシアと日本では、占いの何に注目しているのかを比較する。
学習者とのコミュニケーション目標	星座占いを中心ロシアの占いについて話し、ロシアの占いについてまとめるか、日本の占いとの違いをまとめる。
教具・教材 (何をいくつ、どうやって提示するか+誰が準備するか、を明示すること)	タスクシート×8枚 名前付き星座の絵プリント×2枚 or 4枚 各星座の性格リスト×2枚 or 4枚 朝の占いの映像 or 写真×2枚 新聞や雑誌などの占いの写真×2枚 血液型占い、手相占いのイメージ図 or 絵×2枚

#### ミニトピック1：自分の星座

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
00:00 ウォーミングアップ (5分)	誕生日の星座を明らかにしつつ、学習者同士の話す機会を与える。	起立してもらい、誕生日の月ごとに並んでもらう。	同じ星座が被らないようにグループ分け。  4人×2グループ 時々 2人×4ペア
00:05 ミニトピック1-1 (5分)	星座を知っているか、星座の名称(語彙)の確認。	タスクシートと名称付き星座の絵プリントを使う。  星座の絵プリントをヒントに、「星座」欄を埋める。	タスクシート…  「星座記号」「期間」「星座」「友達」の名前の表。  名前付き星座の絵プリント
00:10 ミニトピック1-2 (3分)	他の人に星座を聞く。	タスクシートの各星座の「友達の名前」欄を埋める。  進「サ1さん。サ1さんの星座は	進行役=進 サポートー1=サ1

		<p>何ですか？」</p> <p>サ 1「私の星座は乙女座です。簾内さんの星座は何ですか？」</p> <p>進「私の星座は山羊座です。」</p>	
00:13 ミニトピック 1-3 (5分)	十二星座をコンプリートする。	<p>タスクシートの表の「友達の名前」をコンプリートする。</p> <p>全員立って、教室内の人々に聞きに行く。</p> <p>進「みなさん、立ってください。周りの人に星座を聞いてください。その星座のところに名前を書いてください。」</p>	<p>もしかしたら 12 星座いないかもしないことも考慮に入れる。</p> <p>=全部埋められなくて活動を終える。</p>

### ミニトピック2：星座占い

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:18 ミニトピック 2-1 (10分)	性格を表す言葉の確認。	<p>タスクシートを使う。</p> <p>性格を表す言葉をプラス・マイナスで分類する。</p> <p>その後、自分が自分に当てはまるか選び、グループ or ペアで話し合う。</p> <p>自分が自分に当てはまるか、理由を簡単に言えると良い。</p>	性格を表す言葉は後の星座ごとの性格に出てくる言葉を多めに。
00:28 ミニトピック 2-2 (10分)	星座の性格と自分の性格について話す。	<p>各星座の性格リストを使う。</p> <p>自分の星座とリストを見比べて、それが合っているかどうか、意見を言い合う。</p>	<p>各星座の性格が3つ程度載ったプリント</p> <p>×グループ or ペア数</p> <p>わからない語彙があれば、学習者同士で確認し合う。</p>

00:38 ミニトピック 2-3 (10~15 分)	他の人の性格と星座の性格について話す。	他のメンバーor ペアの相手について、その人の性格と星座の性格が合っているかどうか、合っていないならば、どんな性格か、発表する。  学習者が 8 人のため、全員発表。	まとめ方 A3 用紙 すのうちさん やぎざ あつている…がんこ ちがつている …きちょうめん
----------------------------------	---------------------	---	---

### ミニトピック3: ロシアの占い

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:48 ミニトピック 3-1 (10 分)	日本では、何を占うのか、占いの内容について知る。	<p>映像あるいは写真で、日本の日常に溢れる占いを見せる。(2~3分) 何を占っていたのか、ペアで話し合う。(1分程度)</p> <p>進「さっきの映像で、何を占っていましたか？」 全体に問い合わせて、発言しなかつたら、各ペアに聞いていく。</p> <p>進「このような占いは、日本にたくさんあります。ロシアにもありますか？」</p> <p>ある→グループで、実習生に教えてあげる。テレビ局ごとに違うのか？など。</p> <p>ない→日本の占いを見て、どう思ったか。面白いかどうか。感想を聞く。</p>	<p>プロジェクトがない場合、最低 2 台のパソコン(実習生の)で映像や写真を映せるようにする。</p> <p>恋愛運、ビジネス運、金運、健康運… 日テレ？どこかのテレビ局の朝の占いが良いな。</p> <p>新聞の占い欄も用意できたら良いな。</p>
00:58 ミニトピック 3-2 (10 分)	占いの種類、ロシアの占いと日本の占いはどのようなものがあるか、話し合う。	<p>グループで、ロシアにはどんな占いがあるか話す。 →実習生に教える形にする。</p> <p>時々、実習生も学習者に日本の占いについて話す。</p>	<p>あらかじめロシアでどんな占いがあるか調べておく。</p> <p>実習生はあらかじめ日本でよくする占いを考えておく。 星座占い、血液型占いなど。</p>

00:68 ミニトピック 3-3 (10分)	自分が良くする占い、好きな占いについて説明する。	次に、自分がよくする占いについて話す。 どんな占いか? 何を占うのか? 理由も。 タスクシートに簡単に占いの名前、どんな占いか、何を占うのかをメモできるといい。	※3-2と3-3は同時進行。内容を混ぜてok。 どんな占いがあるか?→それは何を占うのか?
00:78 ミニトピック 3-4 (10分)	全体で、ロシアにはどんな占いがあるのかシェアする。	全体で、ロシアにはどんな占いがあって、何を占っているのかシェアする。 各グループにそれぞれ占いをあげてもらい、簡単に説明してもらう。	
00:88 ミニトピック 3-5 (15~20分)	日本とロシアの占いを比較する。	日本人とロシア人は、占いで、何を一番チェックしているのか。何を見ているのか。 例)ラッキーカラー  グループで話し合って、紙にまとめて、発表してもらう。	ロシア人と日本人(実習生)で同じか? あるいは、グループごとの傾向でもよい。  ～する傾向がある。 ～という点が…だ。 ～するより…する方が多い。
01:03 END			

## 作成教材（3年生）

星座カード 第一 占術編				星座カード 第二 占術編			
スカorpion	魔術士	魔術士	魔術士魔術士	アストリーム	近い 中の(隠れ)	アストリーム	近い 中の(隠れ)
アーチ	1月21日～4月18日			1月21日～4月18日	1月21日～4月18日	1月21日～4月18日	1月21日～4月18日
牡羊座	4月19日～4月30日			4月19日～4月30日	4月19日～4月30日	4月19日～4月30日	4月19日～4月30日
ツイン	4月30日～6月21日			4月30日～6月21日	4月30日～6月21日	4月30日～6月21日	4月30日～6月21日
巨蟹座	6月22日～7月23日			6月22日～7月23日	6月22日～7月23日	6月22日～7月23日	6月22日～7月23日
獅子座	7月24日～8月23日			7月24日～8月23日	7月24日～8月23日	7月24日～8月23日	7月24日～8月23日
天秤座	8月24日～9月22日			8月24日～9月22日	8月24日～9月22日	8月24日～9月22日	8月24日～9月22日
天王星	9月23日～10月22日			9月23日～10月22日	9月23日～10月22日	9月23日～10月22日	9月23日～10月22日
水瓶座	10月23日～11月21日			10月23日～11月21日	10月23日～11月21日	10月23日～11月21日	10月23日～11月21日
魚座	11月22日～12月21日			11月22日～12月21日	11月22日～12月21日	11月22日～12月21日	11月22日～12月21日
牡牛座	12月22日～1月20日			12月22日～1月20日	12月22日～1月20日	12月22日～1月20日	12月22日～1月20日
水星	1月21日～2月18日			1月21日～2月18日	1月21日～2月18日	1月21日～2月18日	1月21日～2月18日
金星	2月19日～3月20日			2月19日～3月20日	2月19日～3月20日	2月19日～3月20日	2月19日～3月20日
木星	3月21日～4月18日			3月21日～4月18日	3月21日～4月18日	3月21日～4月18日	3月21日～4月18日
土星	4月19日～5月17日			4月19日～5月17日	4月19日～5月17日	4月19日～5月17日	4月19日～5月17日
天王星	5月18日～6月21日			5月18日～6月21日	5月18日～6月21日	5月18日～6月21日	5月18日～6月21日
海王星	6月22日～7月23日			6月22日～7月23日	6月22日～7月23日	6月22日～7月23日	6月22日～7月23日
冥王星	7月24日～8月23日			7月24日～8月23日	7月24日～8月23日	7月24日～8月23日	7月24日～8月23日
月	8月24日～9月22日			8月24日～9月22日	8月24日～9月22日	8月24日～9月22日	8月24日～9月22日
太陽	9月23日～10月22日			9月23日～10月22日	9月23日～10月22日	9月23日～10月22日	9月23日～10月22日

せいごく せいじゆく ★星座の性格	
おひつじ座 中	やさしくて、 こよくなつで、 じょうごその 優 慎 的な、 優 慎 的な、 正 直 者
おうし座 犀	しんちよう にんたいばよ ざんじつで 慎 重 な、 忌 腹 強 い、 慎 美 的な
ふたご座 ツイン	しゃこうでき こうどうでき けいせき 社 空 的な、 交 流 的な、 冷 静 な
かに座 四	ちよせかんです わいせきだ 直 感 的な、 礼 貫 正 しい、 やさしい
しし座 亜	せきにんわん つよ ちか まんべん 責任 感が強 い、 プライドが高 い、 動 性 な
おとめ座 真	ちでき せんせい 知 的な、 知 智 な、 おだやかな
てんびん座 双	しゃこうでき しんせん 社 空 的な、 精 切 な、 センスがいい
さそり座 風	じょうくなつで どりょくか たんきゅうしん つよ 博 热 的な、 努 力 者、 探 究 心 が強 い
いて座 ピン	らくでんでき あか かわぱつ 楽 天 的な、 明 るい、 活 劑 な
やぎ座 ヤギ	けしきつ まことの せんしょ 驚 奥 な、 真面目 な、 我 傲 強 い
みずがめ座 三ツ	こうへい まろして 公 平 な、 ユニーク な、 理 論 的な
うお座 ハ	せんしんでき せんしんでき ロマンチック な、 敏 感 的 な、 やさしい

## 2年生会話活動（第3回）

# 「教室活動案作成の重要さ」

中村 茉穂

2017年9月12日（火）10:15～11:50 実施

2年生トピック会話（第3回）「学校生活」

担当（進行役）：中村茉穂

記録：成田彩夏、加藤志真

参加学生：9名

私が担当したのは3回目の初級クラスの会話活動で、テーマは学校生活だった。すでに学習者の情報がわかっていたので、グループ内で日本語が理解できていない学習者がいたら他の学習者がサポートに入れるように、最初から学習者の日本語レベルが均等になるようにグループ分けを行った。

この活動を通じて学んだことは大きく分けて二つある。ひとつは、文化差を教室活動として扱う場合、日本の概念に相手の文化を当てはめようとしないことが大切ということである。私の教室活動案では、小学校の両国の授業科目を比べる活動として、日本の授業科目が書かれた表の横に、ロシアではその授業内でどんなことをするのかを書き出してもらうものであった。活動案を作っているときは、「理科」ならば「実験をする」など簡単な答えが出てすぐに活動は終わるだろうと思っていた。しかし、実際に学習者と行ってみると、「理科」がどんなものかうまく共有できておらず、あるグループでは「自然を学ぶ授業」「動物や宇宙や天気を学ぶ授業」だったのに対し、理科はなかったと言うグループも出てきてしまった。もちろん学校差はあると思うが、「理科」というくくりを最初から提示してしまったために、学習者の意見が出にくくなってしまったと考えられる。ならば最初に全体で、そもそもロシアではいくつ科目があるのかという質問をするなどの導入に工夫が必要だった。

次に行った学校行事の活動でも、先に日本の行事についてサポーターに聞いてからロシアの行事について話すという活動だったが、学校行事とは何かを全体で共有してからグループ活動に入った方が、ロシアでは行事としてどのようなことが挙げられるのか知ることもでき、よかったですかもしれない。また、最初に日本のことについて学習者がサポーターに質問するという活動が多くなったため、グループ内でも日本語レベルの高い学習者が多く話し、低い学習者は聞くことで一生懸命という状況が生まれやすくなっていたと思う。文化差を扱った授業は違いを知ることができて盛り上がるが、学習者に日本の情報を与えるタイミングをしっかりと考えて活動案を作らなくて行けないと学ぶことができた。

学んだことのもうひとつは、活動案を作るときにどうしてその活動を行うかの目的をしっかりと自分で理解する重要性である。私は初級クラスの3回目担当だったので、何回か他の教室活動の反省を行って、自分の活動案で修正の必要がある部分に事前に気づくことができた。しかし、変更する際にその活動で伝えたかったことや、どうし

てその活動をするのかという部分が定まっておらず、事前打ち合わせの前に学習目標や活動の理由を考えるといった状況が生まれてしまった。特に「書く」作業について、学習者に話した内容を書かせたいのか、その内容について話すことに重点を置いているのかということを、日本で活動案を作ったときにはあまり考えていなかった。そのため、前日の打ち合わせで学習者には話すことをメインに行って欲しいとサポートーに伝えたにも関わらず、実際に進行役として指示を出すときに「書いてください」と「話してください」が使い分けできず、サポートーを混乱させてしまうことがあった。他にも、学習目標として理由づけ（なぜなら～からです）や比較（Aでは～ですが、Bでは～です）を挙げていたが、実際に前に立つと意識できず、伝えることができなかつた。日本で教室活動案を作るとき、コミュニケーション目標はよく考えて立てられたが、学習目標は少し疎かになっていたため、進行役の時に意識することができなかつた。教室活動案を作るときに、何を伝えたいのかという事を活動の一つ一つで確認しておく必要があった。

また、学習者を前に進行役として活動を進めるのは初めてで、学習者に話をふるときに先に名前を呼ばないことや、時間配分のためにグループ活動の時はタイマーをセットしておくなどといったことまで気を使うことができなかつた。進行役の発言によって学習者が受け取る日本語や活動内容も変わっていくので、特に進行役は発言に気を付けて、全体を巻き込んで活動を進めていく必要があると感じた。

反省点は多くあるが、活動案を自分で考え、進行役を務め、そこから学ぶことができたので、とてもやりがいのあるものだった。活動を通して、徐々に自分から話してくれる学習者と接することができたことは、自分にとって日本語教師としての楽しさを体感でき、貴重な経験となった。



[授業前のフリータイム]

科 目	よにてじよれへだ:
国 語	ロシア語を勉強しました。
算 数	計算しました。
理 科	せんにについて勉強しました。
社会	昔の歴史について勉強しました。
体育	走ったり、ボールを使ったり、スキーをしたりしました。
音 楽	みんなで歌を歌いました。
家庭科	ドレスをつくりました。
社会科	えをかきました。

[ロシアの授業科目について]

## 実習生からのフィードバックコメント

教室活動全体を通して感じたのは、学校生活というテーマの難しさだった。日本とロシアでは学校の制度（通う年数や小学校・中学校・高校の区切りなど）が全く違うし、科目なども違っていた。入学式、卒業式、運動会などの単語は言葉だけの説明ではイメージしづらい部分もあったようなので、写真などがあるとより分かりやすいと思った。学校行事は中村さんも書いていたが、日本の理科の授業は生物、科学、物理、天文学などを含むのに対し、ロシアではそれらは別の科目としてとらえられていたりと違いが大きく、その違いを理解するのに時間がかかっていた。しかし、授業の構成が日本の学校文化を教えるだけではなく、ロシアと日本の学校文化の比較になっていたため、学習者は日本について聞くのと同時に自分の学校について話す機会が多くあったのがよかったです。さらに、日本でもロシアでも通っていた学校によって違いがあり、誰かが答えを言ったらそれで終わりではなく、自分の学校はこうだったというように話が続けられるので学習者も会話に参加しやすかったと思う。

今回の授業のテーマは学校という慣れ親しんだものだし、ロシア人にとってはロシアの、日本人にとっては日本の学校が当たり前と思っている部分が大きかったと思う。だからこそ、意外な点が相手にとって当たり前ではなかったり、逆に共通点だったりとロシア人にとっても日本人にとっても気付きが多い授業だったと思う。「日本人が日本語や日本文化を教える授業」ではなくお互いの文化を教え合って比較する授業にすることで、学校という文化差が大きいテーマがうまく生かされていた。（成田彩夏）



[小学校の授業内容について話し合い]



[グループごとの発表]

## 教室活動案

担当	中村茉穂
トピック	学校行事
学習項目	1：授業科目 2：行事 3：給食
学習者とのコミュニケーション目標	ロシアと日本の学校生活の違いについて知り、お互いの良いところや改善するべきところを知る
教具・教材	タスクシート 1、2-1、2-2、3 × 人数分(21枚程度) 時間割の紙(A3) ×1 科目名を書いた表 ×4 食材の絵一覧(パーティー組から借りる) ×1 給食の写真(A3) ×1 献立の写真 ×4 A3 の紙 ×4

### ウォーミングアップ

進：進行役 学：学習者 サ：サポーター

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
5分	前回の授業の振り返り 自分の学校生活を思い出してもらう	前回の授業の振り返りとして、日にちクイズを行う。何枚か日付を書いた紙を貼る。 進「これらが何の日かわかりますか」 学「3月8日は女性の日です。」 ※最後は9月1日で終える 進「9月1日はロシアで何の日ですか」 学「学校が始まる日です。」 進「そうですね。では、今日は学校について話しましょう。」	教材： 日にちを書いた紙

### ミニトピック1：授業科目

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
10分(15分)	科目的単語を学ぶ ロシアにしかない授業があるか知る	小学校の時間割を見せ、グループごとに日本語の授業名がわかるか確認。ロシア特有の授業があるかも聞く。 進「みなさん、これは何かわかりますか」 学「学校の予定です。」 進「そうです。時間割と言います。これは、小学校1年生の時間割です。」	予め席をグループ(学習者4人、実習生2人)になるように並べる。実習生は先に席を確保する。 教材： 小学校の時間割を印刷したもの(A3) 科目名を書いた表

		<p>グループでこれらの単語を知っているか確認しましょう。また、ロシアの授業は何があるか話しましょう。」</p> <p>学「国語は何ですか？」</p> <p>サ「漢字を覚えたり、本を読んだりする授業です。」</p> <p>サ「ロシアにはどんな授業がありますか？」</p> <p>学「国語はあります。他にも、、、」</p>	(A3)
3分(18分)	次の活動のモデルを提示する	<p>進行役と実習生で次に配るタスクシートの内容に沿って会話をする。</p> <p>進「○○さん。小学校で好きだった授業は何ですか？」</p> <p>サ「国語です。本を読むことが好きでした。全部読むと、先生がシールをくれました。」</p> <p>進「集めたくなりますね。休みの時間も本を読んでいましたか？」</p> <p>サ「いいえ、休みの時間は外でおにごっこをしていました。走ることも好きです。」</p> <p>進「いいですね。では、一番樂しみな時間は休みの時間ですか？」</p> <p>サ「はい。休みの時間が一番樂しみでした。なので、授業はあまり好きではありませんでした。」</p>	
20分(38分)	情報を伝えられるようになる 学習者の情報を引き出す 様々な語彙に触れる	<p>タスクシートを配る。グループ内で質問しあい、表を埋める。</p> <p>進「グループで好きな授業、休みの時間何をしていたか、楽しみだった時間について聞いてみましょう。理由もつけて話せるといいですね。」</p> <p>※学習者のレベルが高かったら、最後にグループ内で人気だった授業や休み時間に何をしている人がいたのか、グループごとに発表してもらう。</p>	<p>教材： タスクシート 1- 3×人数分</p>

## ミニトピック2：行事

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
2-1 10分		<p>最初にタスクシートを配る。書いてある単語が理解できているかグループごとに確かめる。ロシアの行事についても教えてもらう。</p> <p>進「上のところは、日本の学校行事が書いてあります。入学式はわかりますか？」</p> <p>学「学校行事がわかりません。」</p> <p>進「では、グループの中の日本人に聞いてみてください。また、他にも学校行がないか聞いてみましょう。日本人の人は、ロシアの学校行事について教えてもらいましょう」</p>	<p>教材： タスクシート 2-1× 人数分</p> <p>グループ内で学習者に知っている人がいれば、その人に説明してもらう</p>
3分(13分)		<p>どんな行事があったか聞き、進行役と実習生で次の活動のモデルを見せる。</p> <p>進「グループで書けましたか？なにかおもしろい学校行事はありましたか？」</p> <p>学「日本の書初め大会がおもしろいと思いました。」</p> <p>サ「私はロシアの○○の行事がおもしろいと思いました。」</p> <p>進「いろいろあって楽しそうですね。○○さんはどの学校行事が一番好きですか？」</p> <p>サ「運動会です。」</p> <p>進「運動会ですか！どうして運動会が好きですか？」</p> <p>サ「みんなで運動をすることが楽しかったからです。」</p> <p>進「好きな種目は何でしたか？」</p> <p>サ「みんなで頑張ったリレーが好きでした。」</p>	
10分(23分)		タスクシートを配り、グループ内で質問をしあう。	<p>教材： タスクワーク 2-3×</p>

		<p>進「いいですね。では、グループの中で好きな学校行事について聞いてみましょう。紙を配るので、表を埋めていきましょう。行事について質問もできるといいですね。」</p> <p>10分(33分)</p> <p>グループ内の学習者に1~4の番号を振り分け、番号ごとに集まり、学習者3人のグループを4つ作る。そこで聞いたことを発表する。</p> <p>学「私は○○さんと△△さんに聞きました。○○さんは合唱大会が好きです。歌うことが好きだからです。」</p> <p>進「何を歌ったか聞きましたか？」</p> <p>学「～～～を歌ったそうです。私はこの歌を知りませんでした。」</p>	人数分
--	--	--	-----

### ミニトピック3：給食

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
3-1 10分	給食の話題にもっていく	<p>ロシアに給食があるのか、食材の名前が言えるのか確認する。</p> <p>進「日本とロシアの学校についてみなさんわかつてきましたか？次は、私が小学校で一番楽しみな時間の話をしましょう！」</p> <p>進「私が一番楽しみな時間覚えていますか？」</p> <p>学「お昼ご飯の時間ですよね」</p> <p>進「そうです！給食の時間です。給食は何かわかりますか？」</p> <p>サ「学校で食べるお昼ご飯のことです。」</p> <p>進「そうです。みんなで同じメニューのものを食べます。これが1ヶ月の給食のメニューです。ロシアにも給食はありますか？」</p> <p>学「あります。」</p> <p>進「では、給食について考えてみま</p>	教材： 献立表

	食材の名前が理解できるか確認する	しょう。今回はみなさんにロシアの給食のメニューを考えてもらいたいです。その準備として、これらの名前を知っていますか？」 学「トマト、にんじん、これはわかりません。」 サ「白菜ですね。」	教材： 食材の絵一覧 (パーティー組のものを借ります)
3分(13分)	次の活動のモデルを提示する	進行役と実習生で次の活動のモデルを提示する。 進「みなさんよく知っていますね！では、日本人に聞きます。一番好きな給食のメニューは何ですか？」 サ「カレーが好きです。」 進「カレーの材料は何ですか？」 サ「にんじん、じゃがいも、豚肉、玉ねぎ、カレーの素です。」 進「これは何ですか？」 サ「わかめサラダです。野菜をたくさん食べられます。牛乳もあります。身体にいい給食です。」 進「栄養があっていいですね。」	教材： カレーの写真
10分(23分)	ロシアの食べ物について話すことで、次の活動へつなげやすくする	ロシアの食べ物について聞き、タスクシートにそってグループごとに活動する。 進「カレーは日本で人気がある食べ物なので、好きな人が多いですね。ロシアで人気がある食べ物はありますか？」 学「ピロシキとボルシチです。小さいころから食べています。」 進「私もロシアで食べました。じゃがいものピロシキが好きです。」  進「ではグループごとに紙を配ります。見てください。」 学「理想の給食メニュー・・・」 学「好きな給食ということです」	教材： タスクシート 3-3

		<p>か？」</p> <p>進「そうですね。自分が一番食べたい給食メニューということです。」</p> <p>進「今からみなさんにメニューを考えもらいます。後で発表します。みんなが一番食べたいと思った給食を考えた人には、良いことがあるかも？」</p> <p>全体で発表。最後に投票をして、No.1 紹介を決める。</p> <p>進「できましたか？では、発表してください。聞いている人はどこのグループのものがいいか考えて聞いてくださいね。」</p> <p>進「どこのグループの給食が良かつたですか？紙を配るので、投票してください。」</p>	
15分(38分)			<p>教材：</p> <p>投票の紙</p> <p>景品のお菓子</p>

### まとめ

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
まとめ 10分	学校生活のまとめを行う	<p>日本とロシアの学校生活を通して初めて知ったこと、驚いたことを挙げてもらう。</p> <p>進「では、今回の授業で初めて知ったことやびっくりしたことをグループで話してください。」</p> <p>時間に余裕があれば全体で発表。</p>	<p>教材：</p> <p>A3 の紙×4</p>

## 作成教材

1~5は、日本の小学校の学校行事（がっこうぎょうじ）です。何をしますか。日本人にきいてください。

	ぎょうじ	いつしますか。	なにをしますか。
1	にゅうがくしき		
2	そつぎょうしき		
3	がくびいかない		
4	えんそく		
5	うんどうかみ		

ロシアの学校には、どんな行事がありますか。

	ぎょうじ	いつしますか。	なにをしますか。

タスクシート1			
なまえ	好きな科目	休み時間	一番楽しみだったこと

タスクシート2		
だれが	好きな行事	好きな理由

タスクシート3

グループで、簡単の「簡単」メニューをつくりましょう。

メニュー
材料
メニューのポイント

## 2年生会話活動（第4回）

# 「会話活動をふりかえって」

加藤 志真

2017年9月13日（火）12:00～13:35 実施

2年生会話活動（第4回）「パーティー」

担当（進行役）：加藤志真

記録：簾内亜里沙

参加学生：8名

私は会話活動で初級の学習者を担当しました。会話活動の教室活動案は文化活動の後に作成したため、どんなことを考える必要があるのか、どんな意図で活動をしているのかを意識して作っているのかなど気をつける点について少しづつ先生の指摘から学んでいました。しかし文化活動とは異なり二つの教案をペアの実習生と私で作ったため、担当する教案の量が文化活動より多く同時に授業当日は進行役を一人で担当することを知っていたため責任も重かったです。

私の会話活動トピックは「パーティー」でミニトピックは誕生日と年末・お正月でした。当初は二つのミニトピックを準備していましたが、当日は年末・お正月のミニトピックのみを扱いました。授業の流れは日本の年末年始を知ってもらうため、数枚の年末・お正月に関する絵カードをグループに配りその絵についてサポーターに質問し最後に聞いたことを文章にまとめてもらいました。そして日本の年末年始を知った後は、次にロシアの年末年始について紹介してもらう活動を行いました。付箋紙に年末年始に関わるキーワードを書いてもらう活動をしてもらい、サポーターは気になつた事柄について質問し、全体シェアで日本にはない習慣などを聞いたり発表してもらったりしました。最後には各グループが決めたロシアの年末年始について紹介文を書いてもらい、B紙にそれらを貼り成果物として2国間の年末年始の過ごし方の違いを対比してもらうものでした。

この会話活動を通して学んだのは、授業準備を入念にする大切さです。会話活動の時、私はとても緊張していました。授業が問題なく進むか、時間を適当に配分できるか、タスクが学習者にとって簡単すぎるのではないかなど不安要素がたくさんあつたからです。そして、授業を始める前に準備していない事が起きました。グループ分けを予め行っていたのですが、普段授業にいる子が欠席であまり授業に来ていなかつた学習者が参加したのです。グループ分けをそれぞれの学習者がどの位日本語を話すかで決めていたため、来たばかりの学習者をどのグループに参加させるべきか迷って人数調整に時間がかかりました。一回迷うとその後も自分のペースに調子を戻せないまま授業は始まりました。大勢の前で注目が自分にある中で話すのが苦手な上に、不安要素が気になっていたため私は全体に話すとき声を大きくはっきりと話すことができず、また実習の目標の一つにしていた学習者の前では笑顔でいる心がけも続けることができませんでした。進行役の振る舞いで教室の雰囲気が大きく変わるのは今まで

の授業で十分理解していましたが、どうすることもできないままタスクを与えてはグループ作業をしてもらう形になってしまいました。せっかくグループの活動に移っても、グループがそれぞれ何を話しているのかよりも気になるのはどれだけ時間が経っているかでした。そのため学習者との会話を楽しむ余裕はどこにもありませんでした。また、その後に待ち受ける全体シェアで何を話すのか、どんな会話を共有すべきなのかを考えていると、次に何をするかに気持ちが持ていかれ、学習者を見ることができませんでした。また、最後に使う予定だったB紙をタスク用に半分の大きさに切つておく事前準備が終わっていなかったため、学習者とサポーターが話している間に紙を準備する必要があったのも不安を駆り立てる原因になってしまいました。授業を終えて、結果的に気持ちにゆとりがないまま授業を進めなければいけなかつたのが一番の後悔でした。そして、どうすれば不安要素をできる限り押さええることができたのかを考えたときに、事前準備をもっとすべきだったと感じました。準備できる教材は全て配る前まで準備しておき、教室の流れをしっかり頭に入れることで学習者のグループ内の会話に注意を向けることができたと思います。同時に気持ちに余裕ができれば全体の前で話すときに堂々と話せたかもしれません。初めての進行役で必要な準備は行った上で授業に臨んだつもりでしたが、改めて事前準備が授業の質を決める事を痛感しました。

日本の年末・お正月のタスクを行う学習者の会話を見て気付いたことは、日本のお正月について良く知っている学習者とそうでない学習者がいたことです。羽根つきを知っている学習者がいたり、おみくじを引いたことがある学習者がいたりと日本のお正月についてイメージを持っている学習者がそうではない学生に説明する場面が何度かありました。一方ロシアの年末・お正月のタスクではほとんどのサポーターがロシアでの年末年始の過ごし方を知らなかったため、学習者がサポーターにお正月何をするのか説明していました。サポーターも知らないことを教えてもらうので自然と会話量が増え、学習者の話から新しい発見をすることも多いタスクだったため、全体シェアの際にサポーターが手を挙げて学習者に説明を求めたりするのが他の授業あまり見られなかつたためいい機会になったと感じました。



## 実習生からのフィードバックコメント

観察者として加藤さんの授業を見ていた私の意見と加藤さんの大きな反省点は一致していると思います。準備不足が不安に拍車を掛けているのだと進行役としての姿と授業内容を見ていて感じたことです。しかし、全体に発言する時も声は小さかったですが、表情は優しそうで、学習者に威圧感を与えることは決して無かったと思います。声色も表情同様に優しかったため、終始穏やかな空間を作り上げていました。少々静かすぎる場面もありましたが、学習者が進行役に圧倒されてしまうことはなかったです。また、教案を作成する際に、ミニトピックをもう少し多く用意しておくべきだったと感じました。直前でミニトピックを1つ削除してしまったのは、理由があつてのことかと思いますが、結果的にミニトピック1つでどこまで話を深められるか、というのが課題になっていました。ですが、加藤さん自身に大きなプレッシャーや不安があったこともあり、授業全体を見てみると、各活動の時間が長すぎて、どのグループも沈黙がちらほら見られました。サポートーも必死に話題を深掘りしようとはしていましたが、次に進行役がどんな話の展開をするのか把握できていない以上、先取りの質問をしないように意識していたため、話の広がりに苦戦していました。日本とロシアの年末・正月の話を明確に区別してしまったことで、学習者とサポートーとの話のテンポも悪くなってしまっていたのかなと思います。おそらく加藤さんが緊張しているということはサポートー側も気付いていたので、質問をランダムにサポートーに投げて、そこから日本の話題を広げてみる、というように、サポートー側も進行役に何らかの助けが出せたのではないかと反省しています。このテーマは、サポートー側がロシアに関する知識に乏しかったこともあります、学習者に多くを教えてもらう良い機会になったと思います。特に文化の差が出ていた正月は、学習者もサポートーも楽しみながら活動ができていたように見えました。（簾内亜里沙）



## 教室活動案

担当	加藤志真
トピック	パーティー
目的	学習者とのコミュニケーション目標、その目標を立てた理由 パーティーというトピックを通して会話の力（自分の話をし、相手の話を聞く能力）、日本語を書く力（書き言葉）を身につける。
目標(ゴール)	誕生日パーティー：誕生日から連想できる語彙（食べ物、飲み物、人を表現する単語、場所に関する単語）を使って自分のことを話したり聞いたり、相手のことを話したりすることができる。友達の誕生日におすすめのプレゼントを紹介することができる。（どこで買える、どんな物か、アピールポイント、値段） 正月：年末年始の過ごし方を日本とロシアで比べることで文化の違いを知ることができる。2国のお正月について文章に表すことができる。（食べ物、何をするかななど）
教具・教材 (何をいくつ、どうやって提示するか+誰が準備するか、を明示すること)	カレンダー：A3で一枚、A4で4枚、ペン：8本、誕生日パーティーの雰囲気がわかる絵:A3で一枚、単語シート（場所）：A3で一枚、A4で4枚、単語シート（人に関する表現）：A3で一枚、A4で4枚、単語シート（食べ物、飲み物）：A3で一枚、A4で4枚、表現シート：A3一枚、A4で4枚、質問文：A4で4枚、タスクシート（自分のことを書くワーク用とグループ内の人について書くもの）：A4で20人分、

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:00 7分	近くの人に名前を伝え、グループ内でいい雰囲気を作る。	加藤「ひなさん、お誕生日はいつですか？」 (カレンダーで誕生日を指しながら) 齋藤「3月5日です」 齋藤「しまさん、お誕生日はいつですか？」 加藤「12月15日です」 (指でカレンダー上の12月15日を指しながら)  【語彙導入】 (全体は教師の方を向いて話を聞いてもらう) 加藤「ひなさん、誕生日はパーテ	学習者は3、4人×4グループに分かれる (参加最大人数16人)  カレンダー（あらかじめ、教室の壁に） (各テーブルにも小さな一年分のカレンダーを用意)

15分	<p>イーをしますか？」</p> <p>齋藤「はい、します」</p> <p>(パーティーの様子がわかる絵を全体にみせる)</p> <p>加藤「誕生日にパーティーをする人？」</p> <p>(手を上げながら聞く)</p> <p>加藤（あやかさんに手を上げてもらい）「どこで誕生日パーティーしますか？」</p> <p>成田「家でします。」</p> <p>加藤「あやかさんは、誕生日パーティーを家でしますね」</p> <p>首の名前ホルダー</p> <p>加藤「さきさん、お誕生日パーティーはしますか？」</p> <p>さき「はい、します。」</p> <p>加藤「誰と祝いますか？」</p> <p>さき「友達と祝います」</p> <p>加藤「さきさんは、友達と祝いますね」</p> <p>加藤「好きな食べ物は何ですか？」</p> <p>さき「ケーキが好きです。」</p> <p>加藤「ケーキが好きですね。」</p> <p>加藤「好きな飲み物は何ですか？」</p> <p>さき「コーヒーが好きです。」</p> <p>加藤「コーヒーが好きですね」</p> <p>誕生日パーティーの雰囲気がわかる絵</p> <p>加藤「今からグループで誕生日について話します。誕生日パーティーをどこでするか、誰と祝うか、どんな食べ物、飲み物を飲むか話してください。5分取ります。」</p> <p>加藤「誕生日パーティーにはプレゼント大切ですね。みんなはプレゼントをあげるとき何が大切ですか？プリントに大切なポイントを</p>	
-----	--	--

	<p>いくつか載せています。グループで話してください。なぜ選んだのが大切なのかも考えます。5分取ります。」</p> <p>グループで話してもらう。 語彙確認をしつつ、何を大切にするか話してもらう。</p> <p><b>【進行役を中心としたタスク理解の為のやり取り】</b></p> <p>加藤「じゃあ、どんな物が大切だと思うか聞いてみたいと思います。～さん、何が大切ですか？…続ける」</p> <p>加藤「～が多いですね。/ いろんな意見がありますね。(近くのサポートに) みきさん、誕生日プレゼント最近あげましたか？」 松澤「はい、ピアスをあげました」 加藤「どこで買いましたか？」 松澤「ソラマチです。東京のショッピングモールです」 加藤「あげたピアスのアピールポイントは何ですか？」 松澤「プレゼントのピアスはハンドメイドでした。」 加藤「手作りのアクセサリーは特別感がありますね」</p> <p>タスクシート</p> <p>加藤「まほさん、誕生日プレゼント最近あげましたか？」 中村「はい、時計をあげました」 加藤「どこで買いましたか？」 中村「楽天です。インターネットで買いました。」 加藤「あげた時計のアピールポイ</p>	
--	---	--

7分	<p>ントは何ですか？」  松澤「珍しいデザインです。」</p> <p>(単語シート：プレゼント)  加藤「これは私が最近あげたり、  もらったりした誕生日プレゼント  です。みんなもこんなのがげます  か？もらったことがありますか？3  分置くので話してください。」</p> <p>写真に注目させながら話してもら  い、何グループかに少し聞いてみ  る。</p> <p>「それでは次に、ロシアではどん  な物を誕生日にあげますか？もら  いますか？3分置きます。話して  ください。」</p> <p><b>【グループワーク】</b>  <b>【ロシアのおすすめ誕生日プレゼ ントについて】</b></p> <p>加藤「私の友達にはるみちゃんと  いう子がいます。晴美ちゃんの誕  生日が10月なので、誕生日プレゼ  ントをロシアで買おうと考えてい  ます。はるみちゃんは、21歳で、  絵を描くのと、歌を歌うのが好き  な女の子です。どんなプレゼントを  買うのがおすすめか考えてくだ  さい。」</p> <p>加藤「どんなもの、どこで、アピ  ールポイントを話してください。  10分取ります。」</p> <p>グループの会話に困っていたら、  サポーターが最近買った誕生日プ</p>	タスクシート全員 はるみちゃんについ て
----	--	----------------------------

		<p>プレゼントを学習者に聞き出すところから始める。</p> <p>加藤「全体に発表してもらいます。発表者を決めてください」</p> <p>決めてもらい、発表してもらう。(8分)</p> <p>加藤「良い誕生日プレゼントが買えそうです。ありがとうございます。」</p>	
--	--	--	--

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
00:20		<p>【語彙導入】-お正月に使われる日本語の語彙を知る</p> <p>加藤（カレンダーを指差しながら） 「ひなさん、もう 3 ヶ月で今年もおわりですね。」</p> <p>斎藤「はやいですね」</p> <p>加藤「12 月 31 日は何をしますか？」</p> <p>斎藤「12 月 31 日は大晦日ですね、大掃除をします」</p> <p>加藤（他のサポに対し）「まほさん、12 月 31 日の大晦日に何をしますか？」</p> <p>サポ「テレビを見ます」</p> <p>加藤「どんなテレビを見ますか？」</p> <p>サポ「紅白歌合戦という歌の番組です」</p> <p>加藤「大晦日は忙しいですね」</p> <p>加藤「次の日は 1 月 1 日です。お正月です。ひなさんは何をします</p>	<p>(学習者が何も参加できない状態)</p> <p>カレンダー</p>

	<p>か？」</p> <p>斎藤「神社に行きます」</p> <p>加藤「神社では何をしますか？」</p> <p>斎藤「お参りをします。おみくじを引きます」</p> <p>加藤（他のサポに）「みきさん、お正月は何をしますか？」</p> <p>サポ「親戚の家にいきます。」</p> <p>加藤「家で何をしますか？」</p> <p>サポ「みんなでご飯を食べます。」</p> <p>加藤「他に何をしますか？」</p> <p>サポ「羽根つきをします」</p> <p>加藤「お正月もいろんな過ごしがありますね」</p> <p><b>【3-2】やり取りを見せる</b></p> <p>加藤「今から日本でお正月にどんなことをするか日本人に聞きます。カードを配ります（各テーブルの学習者に2枚ずつカードを引いてもらう）カードに書いてある絵について、名前、いつするのか、どこですか、何をするのかを聞きます。気になることも聞きます。5分取ります。」</p> <p>学習者はサポーターから話を聞き出す。</p> <p>加藤「どんなことを聞いたのか、それぞれ発表してもらいます。何についてきましたか？」これを2グループに発表してもらう。</p> <p>加藤「聞いた内容を紙にかきます。（自分で書いた者を用意）書いて</p>	<p>8枚のお正月絵カード (2グループは大晦日について) 単語集（お正月にかかる） タスクシート：日本のお正月ワードを書き出すためのもの</p>
--	--	---

		<p>下さい。5分取ります。」</p> <p><b>【3-3】ロシアについて</b></p> <p>加藤「日本では、こんなことをしているのですが、ロシアではどんなことをしますか？」</p> <p>加藤「ロシアで大晦日、お正月何をするか話します。」(付箋紙を持って)「何をするか書きます。5分とります。」</p> <p>→知らない単語があれば、どんどんきいて教えてもらう。これわかんない、教えて。</p> <p>各グループで2つずつ説明したい単語を選ぶ。タスクシートにいつ、どこ、何をするかを書いていく。</p> <p>共有してから スケジュールの表を最後にB4話を聞いて終わる。</p>	<p>カラーペン 4 グループ分 のり 4 本</p> <p>A3の紙 4 枚 付箋紙：4 グループ分 (計 40 枚位)</p>
--	--	---	---

## 作成教材

誕生日パーティー	
プレゼントをあげるとき　何が大切ですか	
<input type="checkbox"/> かわいい	<input type="checkbox"/> やせらしい
<input type="checkbox"/> かわいい	<input type="checkbox"/> 人気がある
<input type="checkbox"/> かわいい	<input type="checkbox"/> その他の
質問：あげますか	
<input type="text"/>	
アピールポイントは 何ですか	
<input type="text"/>	
どこで 買いますか	
<input type="text"/>	

年次・お正月			
日本の家庭・お正月について書いてみましょう			
なまえ	いつ	どこで	何をしますか
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
ロシアの家庭・お正月について書いてみましょう			
なまえ	いつ	どこで	何をしますか
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

### 3年生会話活動（第1回）

## 「会話活動の授業を経験して学んだこと」

松岡 咲季

2017年9月6日（水）10:15～11:50

3年生トピック会話（第1回）「学校生活」

担当（進行役）：松岡咲季

記録：簾内亜里沙、加藤志真

参加学生：6名

私は中上級クラスの第一回の授業で会話活動の進行役を担当した。日本の学校生活を中心に扱いロシアの学校生活についても尋ねていった。特に学校の規則と給食について扱い、グループ内でサポートーから日本の学校生活について聞き出し、次にほかのグループでシェアを行い、最後に紙にまとめるという活動を行った。会話活動を通してまず感じたことは、臨機応変な対応が大切だということである。授業開始前に教室に行ってみると、事前に想定していた学習者よりも人数が少なく、グループ分けやウォーミングアップの活動、教材の振り分け方に変更が必要だとわかった。しかし、想定外のことに対する焦りはそのままではあるが、冷静に対応することができなかつた。結局、ウォーミングアップの内容を変更してグループで自己紹介と1番楽しかった学校について話してもらったが、話してもらいたい内容についてしっかりと提示せずにそれぞれのグループに任せきってしまったので、負担が大きかつたかもしれない後で反省した。事前に考えていた教案通りに進まなくとも、その場で焦らず冷静に考えて対応できる現場力と想定外にも対応できるような活動の引出しが必要だと感じた。

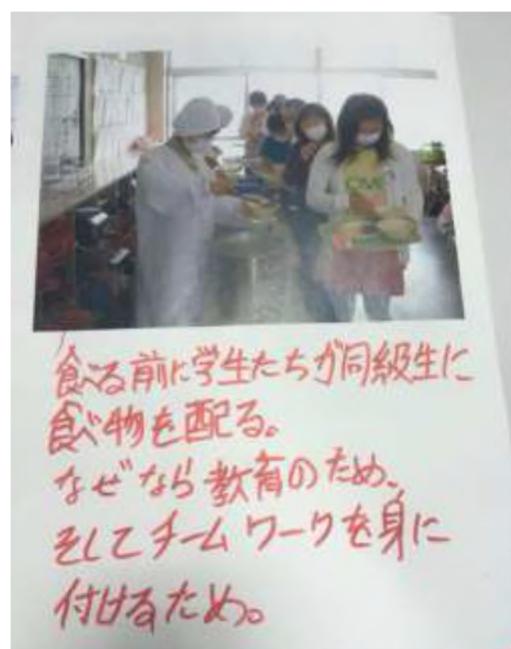
その後は流れとしては教案通りに進めていったが、活動を進めていくにあたって改善すべき点や学ぶことが多くあった。まず、全体シェアについてである。学習者にグループで話し合ってもらったことを全体でシェアする際に、私は発表している学習者に集中しすぎて学習者の目の前に立ち、全体を遮ってしまっていた。活動を進行する際には、話している学習者だけでなくほかのグループや学習者からの見え方にも気を配りながら、クラス全体を巻き込んでいけるように意識しなければならないと痛感した。また、発表してもらった内容に対するリアクションや全体への広げ方についても考えさせられた。進行役は、グループ活動の際にもグループの輪に入ってどんなことを話しているか確認し全体シェアに生かしたり、学習者に発表してもらった際に発表者のみにリアクションを返すのではなく他のグループに意見を求めたりして全体に広げることが必要だと学んだ。そうすることで、全体シェアの場を、単なる発表者の発話練習の機会ではなく、クラス全体の情報共有や意見交換などのコミュニケーションの場として作り上げができるのだと知った。進行役はクラス全体を巻き込めるように意識して進行をしていくことが求められるのだと改めて感じた。さらに、語彙や表現のコントロールについても学ぶことが多くあった。私は授業を進行する際に自

自分の話す言葉についてあまり意識できていなかった。自分では気が付いていなかったが、1番面白かった学校の規則を発表してもらう際に「1番面白かった“やつ”を教えてください。」と授業という場面でありながら大変くだけた言葉を無意識に使ってしまっていた。日本語を外国語として学ぶ学習者にとっては授業中の教師の発話1つ1つが大切なインプットであるように思われる。そのため、教師は適切な語彙や表現を使って話すように、授業中の何気ない発話にも気を付ける必要があると感じた。さらに、学習者がわかるようなやさしい日本語だけを使うのではなく、学習者に学びとなるインプットができるように、学習項目とする語彙や表現など学習者のレベルの少し上のインプットを意識的にコントロールすることも言語教育として大切なことなのだとわかった。

今回会話活動の進行役をしてみて、ただ授業を流れに沿ってこなしていくのではなく、学習者を中心に全体でのコミュニケーションの場を作り上げることが大切だと感じた。その中で、現場性をもって臨機応変に活動する対応力やクラス全体を巻き込む工夫、自分が使う言葉のコントロールや学習項目のインプットなど、様々な意識が必要なのだと痛感した。このように様々なことを感じ考え教えてもらったが実際に授業中に実行に移すことは難しく、「わかる」と「できる」ことはやはり異なるのだということを痛感した。しかし、今回実際に授業を行ってみて、今まででは想像ができなかつた、授業を作り上げるために必要なことや気を付けるべきことに気が付き具体的に想像することができ、会話活動は大変大きく貴重な経験と学びになったように感じる。



[教室の机の配置]



[学習者がまとめた日本の給食説明]



[日本の給食について話し合う]

## 実習生からのフィードバックコメント

初めての中上級クラスだったこともあり、学生が実際何人参加するのか、学生の日本語レベルはどのくらいかなど分からぬことだらけで、松岡さんの緊張は自然なことだと思いました。授業を始める前、聞いていた人数と違っていたため戸惑ったようですが、私が進行役を務めた会話授業のときも同じ状況だったので、想定外のことが起きた時に困ってしまう気持ちはとても共感できました。新しいグループの人数をどう変更すべきなのか、誰を別の机に移動させるべきなのか、活動の中で人数が変わると困るタスクはあるのかなど一度に頭の中に疑問が浮かんでしまい、結果慌ててしまったり、何もできずに時間が経ってしまったりします。進行役で実際に授業をする立場になったのはこれが初めてだったので多くの反省点が見つかったと思いますが、困ってしまった時にどう対応するのかを予め準備しておくと何かが起きたときにもすぐに対処できたのではないかと思いました。また、今回はサポートー、観察者として実習生も授業に参加していたので、他の学生に相談して状況に対応することもできたと思います。頼れる学生が周りにいると考えるだけで少し肩の荷が下りる気がしました。

進行役としての役割について、全体シェアのときに松岡さんが「単なる発表者の発話練習の機会ではなく、クラス全体の情報共有や意見交換などのコミュニケーションの場として作り上げる」と書かれており興味を持ちました。何も考えずに全体シェアの時間を設けてしまうと、各グループが話し合った内容を全体に話して他の参加者は話を聞くだけになってしまい可能性が高いです。しかし他の学生にとって新しい情報があったり、異なる意見を持つグループの意見を進行役が全体シェアの際に学習者に聞いていくことで参加者は聞いているだけの受け身の時間ではなく、新しい発見ができる場になり、最後には発表者以外の学生にとっても有益な機会になると思いました。全体シェアの時間を積極的に参加できるような時間にすることで、学生から自然に異なる意見がでたりすると日本語を自然と発する機会も増え、日本語を話したいと同時に思えるのではないかと思います。

授業内での使用する言葉のコントロールについてですが、すぐに直すのは難しいと思いました。なぜなら普段意識していない言葉を授業内のみ変えるのはすぐにできるようになる技術ではないと考えたからです。しかし、松岡さんは授業の中で進行役を勤めるときに、やさしい日本語に変えて話す意識をしていたので、授業に適さない言葉遣いをしたときも、その都度言い直して学習者に覚えてほしい本来の表現を見せていくことができていたと思いました。そうすることで、学習者も進行役の話す言葉をそのまま使うことができ日本語学習に効果的だと思います。（加藤志真）



[グループでシェアする]



[作成した成果物を見せ合う]

## 教室活動案

担当	松岡咲季
トピック	学校生活
学習項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目</li> <li>・校則</li> <li>・給食</li> </ul>
学習者とのコミュニケーション目標	日本とロシアの学校生活について知り簡単な比較をすることで、お互いの理解を深める。
教具・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア決定のためのカード 4 セット</li> <li>・タスクシート（科目と校則）8 枚</li> <li>・タスクシート（給食）8 枚</li> <li>・写真（日本の給食）5 枚   ・写真（献立表）5 枚</li> <li>・給食風景の写真（手洗い、服装、運搬、盛り付け、配膳、机の形、あいさつ、片付け）8 枚</li> <li>・成果物用給食風景の写真 8 枚</li> <li>・カラーペン</li> </ul>

## ウォーミングアップ

活動分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:00	<p><b>【ウォーミングアップ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話しやすい雰囲気を作る</li> <li>・ペアをつくる</li> <li>・学習者の情報を得る</li> <li>・学習者に学校生活を思い出してもらう</li> </ul>	<p><b>【絵と文を配り、同じ人とペアを組む】</b></p> <p>教師「みなさんこんにちは。」 学習者「こんにちは。」 教師「私は愛知県立大学の松岡咲季です。今日は楽しく話しましょう。」 教師「好きなカードを引いてください。」 絵と文のカードをそれぞれ引いてもらう。 教師「カードを見てください。絵が描いてあるカードと文が書いてあるカードがあります。絵と文をペアにしたいです。自分の持っているカードとペアになるカードを持っている人を探してください。」 歩き回って学習者にペアを探してもらう。サポーターに判定してもらい、ペアを決定。</p>	<p>ペア決定のためのカード例を見せる。</p> <p>(学習者 2 人 + サポーター 1 人) × 4 グループ</p>

		<p>教師「ペアの人は見つかりましたか。」 学習者「見つかりました。」</p> <p>教師「それでは、グループでカードのことについて話します。」</p> <p>サポートーも含め、カードの内容に関連すること（学習者自身のこと）を話す。</p> <p>教師「話せましたね。」 ペアに当てて、どんなカードか尋ねる。 教師「このペアは何のカードですか。」 学習者「～～～～」</p> <p>簡単な会話をする。</p> <p>教師「それでは今日は学校のことについて、みんなで話します。」</p>	<p>グループ 全体</p>
--	--	--	--------------------

### ミニトピック①科目

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:10	<p>【ミニトピック①科目】</p> <p>自分の学校生活について話してもらう。</p>	<p>【日本とロシアにどんな科目があるか尋ねる。語彙の確認】</p> <p>教師「学校で何をしますか。」 学習者「勉強をします。」</p> <p>教師「そうですね。学校で勉強をしますね。では、小学校でどんな勉強をするか話しましょう。」</p> <p>タスクシートを配る</p> <p>教師「これは、小学校で勉強する科目です。どの科目を勉強しますか。グループで話し合って勉強する科目にチェックを書いてください。ほかに勉強する科目があれば、書いてください。」</p> <p>グループで取り組んでもらう。</p> <p>語彙を確認しながら行う。</p>	<p>グループ</p>
00:20	日本の学校生活と	【体育の授業で何をするか、日本とロシアで比	<p>タスクシート タスクシートを見せながら。</p>

	比較してもらう。	較する。】  教師「体育は日本でもロシアでもありますね。体育の授業では何をしますか。グループで話しましょう。」 グループで体育でしたことを話してもらう。	グループ
--	----------	---	------

### ミニトピック②校則

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容	注意すべき点
00:10	【ミニトピック②校則】  自分の学校生活について話してもらう。	【日本の規則を示し、ロシアにもあるか尋ねる。語彙、表現型の確認】  教師「学校には、守らなければいけないルールがありますね。規則です。タスクシートを見てください。どんな規則か話し合います。それから、みんなの学校にもあったか話し合ってください。」 グループで話し合ってもらう。	タスクシート
0:20	日本の学校生活と比較してもらう。	【場所ごとに、日本とロシアの規則を出してみる。】  教師「日本には、ロシアにはない規則がありますね。面白いですね。では、ほかにどんな規則があるか話します。ロシアにどんな規則があるか教えてください。」 グループで話し合ってもらう。場所ごとに区切ったが、出てこなかつたら、1日の流れの中から思い出してもらってもよい。	グループ

### ミニトピック③給食

活動分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	注意すべき点
00:30	【ミニトピック③ 給食ブレーンストーミング】	【ロシアの学校での昼食について書き出してもらい、質問をしながら話をふくらましていく。】	

	<p>・ロシアのこと、自己自身のことについて聞くことで、学校での昼食について思い出してもらう。</p>	<p>教師「みなさん、小学生の時を思い出してください。小学校では昼食に何を食べていましたか。紙に書いてください。その後に、1番好きなものを話してください。」</p> <p>紙に小学校での昼食を書き出してもらい、グループで自分が1番好きだったものについて話してもらう。</p>	<p>タスクシート グループ</p>
00:40	<p><b>【ミニトピック③ 給食やりとり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の給食についてふれる。</li> <li>・給食について理解してもらう。</li> </ul>	<p>【学校で配られること、メニューが決まっていてみんな同じものを食べると伝え、給食について知ってもらう】</p> <p>教師「それではみなさん、この写真を見てください。日本的小学校の昼食です。何がありますか。」</p> <p>学習者「ご飯とみそ汁です。」</p> <p>学習者「牛乳です。」</p> <p>教師「そうですね。ご飯とみそ汁と野菜炒めとから揚げと牛乳です。日本的小学校では、学校で昼食が配られます。給食です。給食は学校で配られるので、温かいご飯を食べることができます。サポートさんはから揚げが好きですか。」</p> <p>サポート「はい、好きです。」</p> <p>教師「いいですね。学校で、温かいから揚げを食べることができますね。」</p> <p>サポート「はい、うれしいです。」</p> <p>教師「今度はこの紙を見てください。何ですか。」</p> <p>学習者「カレンダーです。メニューが書いてあります。」</p> <p>教師「そうですね。9月の給食のメニューが書いてあります。メニューが決まっていて、みんな同じ給食を食べます。」</p>	<p>グループで話してもらいながら、全体でも拾っていく。 給食の写真</p>
00:45	<b>【ミニトピック③ 給食グループワーク】</b>	【写真とともに日本の給食について知ってもらう】	献立表

			給食に関する写真① タスクシート
00:60	<p>【ミニトピック③ 給食グループシャッフル全体シェア】</p> <p>聞き出したことを グループでシェア</p>	<p>写真を見ながら、日本の給食について聞きだしてもらう</p> <p>教師「みなさん、それぞれのグループに2枚ずつ写真があります。何の写真ですか。サポートーから聞き出してください。聞いたことをタスクシートにメモしてください。」</p> <p>グループで2枚の写真について話してもらう</p> <p>【グループでシェア、順番に並べる、別のグループに順番で説明】</p> <p>教師、「みなさん日本の給食について知ることができましたか。1人ずつ写真を持ってください。裏を見てください。Aの人はこちらに集まって、Bの人はこちらに集まってください。」</p> <p>グループを組み替える。</p> <p>教師「グループの中で、前のグループで聞いたことを発表してください。そのあとで、写真を、することの順番に並べてください。」</p> <p>グループ内でシェアして順番を話し合ってもらう。</p> <p>教師「できましたか。」</p> <p>学習者「はい、できました。」</p> <p>教師「では、Aグループの人は順番にBグループの人に説明してください。」</p> <p>写真を見せながら説明してもらう。</p> <p>教師「Bグループの人何か質問や感想はありますか。」</p> <p>学習者 or サポートー「○質問や感想」</p> <p>教師「では次はBグループの人がAグループの人に説明してください。」</p> <p>グループの人に説明してください。」</p> <p>写真を見せながら説明してもらう。</p> <p>教師「Bグループの人何か質問や感想はありますか。」</p> <p>学習者 or サポートー「○質問や感想」</p> <p>教師「いいですね。」</p>	(学習者4人+サポートー2人×2グループ)  写真を紙芝居のように並べてもらう

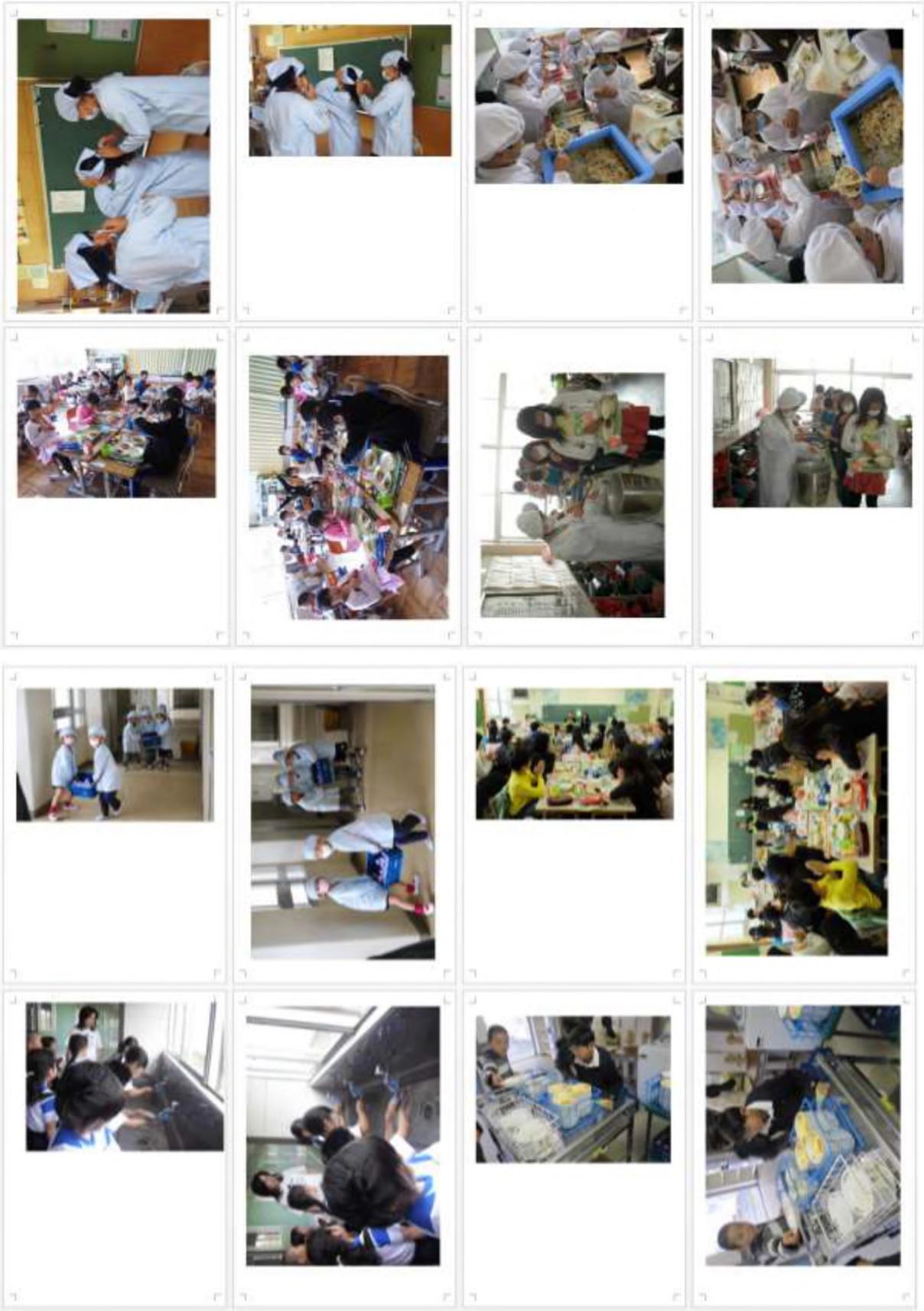
00:75	【ミニトピック③ 給食まとめ】	<p>【成果物を作成してまとめる。】</p> <p>給食に関する写真②を配る。</p> <p>教師「それではここに、写真についてわかったことを文章にして書いてください。どこかにはって、みんなに見てもらいましょう。」</p> <p>写真の下に説明文を書いてもらう。</p>	給食に関する写真② ペン
00:85	おわり	<p>おわり</p> <p>教師「今日はとても楽しかったです。ありがとうございました。」</p>	おわり

## 作成教材

学校生活（数学・算数）タスクシート		
小学校でどの科目を勉強しますか。		
日本	ロシア	英語
		算数
		英語
		社会
		音楽
		体育
		科学
		技術
		音楽
体育ですることとしないことをまとめましょう。		
音楽	日本	ロシア
すること		
しないこと		
学校生活（数学・算数）タスクシート		
こんな問題はありますか。		
<input type="checkbox"/> どうかを書いてはいけません。		
<input type="checkbox"/> 答えを書うときは、手をあげてから、書かなければいけません。		
<input type="checkbox"/> 誰かをして問題をしきれいにつけません。		
<input type="checkbox"/> くつをせいたまお、算数の筆記入ってはいけません。		
ほかにどんな問題がありますか。		
日本	ロシア	
数学		
算数 以外		
筆下し		

学校生活（数学）タスクシート	
ロシアでは、小学校で何を描きますか。	
日本の宿題について聞きました。	
いつ	
どこで	
何をしますか。	
理由	
いつ	
どこで	
何をしますか。	
理由	





### 3年生会話活動（第2回）

## 「教室活動を通じて感じた進行役として大切なこと」

齋藤 陽奈子

2017年9月7日（木）10:15～11:50

3年生会話活動（第2回）「パーティー」

担当（進行役）：齋藤陽奈子

記録：成田彩夏、松岡咲季

参加学生：6名

私が担当したのは、3年生の中上級のクラスの「パーティー」の授業である。授業では「結婚式」と「鍋パーティー」の二つのテーマを扱った。前半の結婚式では、ロシアの結婚式でどんなことをするのか、結婚祝いでどんなプレゼントをあげるのか、そして自分が結婚するとしたらどんなプレゼントを貰いたいかという三点について主に話し合った。後半の鍋パーティーでは、ロシア版の鍋をグループで考えてもらった。私の授業ではタスクシートは用意せず、結婚式の場面の写真や鍋のレシピの見本、食材の絵一覧などの教材を使い進め、比較的自由度の高い活動内容になった。その分、実際授業をやってみるまでは、どうなるか分からぬ部分が多かった。

授業を振り返ります感じたことは、学習項目や活動の目的があまりはっきりとしていなかったということである。話すトピックや語彙については準備の段階で色々と考えたが、学習項目は曖昧のまま、授業に挑んでしまった。特に後半の「鍋パーティー」の部分では、もう少し目的をはっきりさせ、それを伝えるべきだったと感じた。その鍋の目的やお勧めポイント、特徴については考えてほしいとグループごとに伝えるまでは、食べたい鍋のレシピを考えるだけになってしまっていた。自由度が高いタスクのため、もっとその目的や意図を伝えた上で活動に入ってもらわなければならなかつたと思った。

また、実際に教室活動を行って常に悩んだのは進行役としてどう動けばよいかである。例えば、全体的にグループに分けた活動をすることが多かったが、その間進行役としてどうすればよいのか戸惑ってしまった。グループで話し合った後に全体共有する場合、それぞれのグループで話していた内容も聞いておくことが大切だったと思い、グループを回った。しかし、グループ内のサポーターがうまく回してくれていたため、グループに混ざった際に発言することで逆に混乱させてしまったり、既に話した内容に戻してしまったりしないか気になってしまった。そのため、あまり発言はせずに見守るだけで終わってしまった。また、グループに分かれて会話をしているときは、グループごとにそれぞれの進め方をしていた。そのため、さらっと与えたタスクを終えてしまうグループと色々な話をしながらゆっくり進めているグループがあり、切るタイミングがとても難しいと感じた。先生にアドバイスを貰い、グループごとに残り何分程で話して欲しいと伝えてから、活動を切るようにした。しかし、それでも話しているところを切ることが申し訳なく感じてしまい、中々スムーズにできなかつた。今

回の授業は学習者が6人で比較的少なかったため、グループも少なかったが、学習者がより多い授業ではもっと切るのが難しいのではないかと感じた。進行役としてはダラダラした活動にならないためにも、時間を見ながら進行することが大事だと感じたが、すごく難しいと感じた。

前半では「結婚式」について話したが、サポートーも最近結婚式に行ったことがないという人も多く、本当にこのトピックについて話せるのか不安であった。授業を始めてみると、学習者も結婚式を行ったことのない人もおり、どうなるのか心配になつたが、サポートーたちに助けられ、何とか活動を進めることができた。最初は結婚式の場面の写真をそれぞれのグループに配り、ロシアの結婚式ではどんなことをするのか話してもらった。写真があると、分からぬ語彙をスムーズに教えることができたり、学習者やサポートーが色々と知っていることを思い出すきっかけにもなったりすると感じた。そのため、会話の授業では絵や写真などを活用していくことも大事だと思った。「結婚式」の後半では、自分が結婚する際にはどんなプレゼントが欲しいか話してもらった。しかし、結婚をしたくないと考える学習者もあり、彼には結婚したときに限らずに、欲しいプレゼントについて話してもらった。準備の段階で、そのような考えの学習者もいるのではないかと考えたが、実際にいた場合にどう対応するか考えておらず、その場でどうするか考えて決めてしまった。授業をやっていると予想外のことが起きることはよくあると思うので、柔軟に、素早く考える力が大切だと感じた。そのためにも、進行役として責任を持ってしっかりと準備をし、心の余裕をもって授業を行うことも必要だと思った。

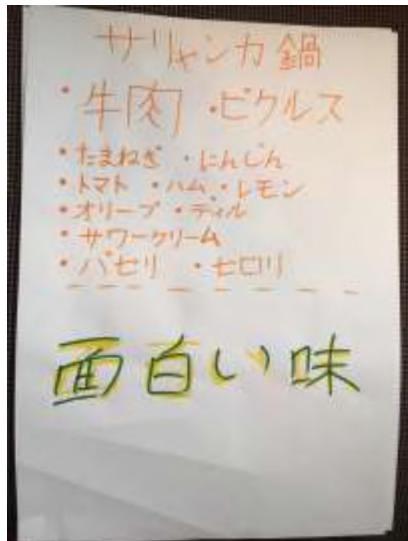
教案や教材の作成など、色々と準備を行ったが、それでも緊張してしまった。そのため、意識しようと思っていたことができなかつたこともあった。例えば、学習者を当てる順番である。話すことが得意な学習者を最初に当てないという話を前の授業の反省でしたが、話せる人を最初に当ててしまつた。他にも、自分では気づかなかつたが、「結構」「ちょっと」などの口癖が良く出てしまつたりと、進行をしている間は必死で、意識できていなかつたことも多くあつた。また、私の授業だけ教室の広さが大分違つたが、それまでの授業を見て、意外と声が響くと思い、少し安心してしまつたため、進行しているときは声を張ることを意識していなかつた。しかし、実際は広い教室であったため、全然声が響かず、聞こえにくくなつてしまつていて。普段から声が大きい方ではないので、もっと気を付けるべきだったと反省した。自分が授業を行う前に気づいたこと、学んだことを活かすことも重要だが、それが自分の授業で必ず通用すると考えてしまうといけないと思った。

進行役として教室活動をやってみて、進行役としての準備はもちろんだが、授業を行っている最も様々なことを考えながら、臨機応変に対応しながら活動をしなければならないと感じた。そして、一方的に進めるのではなく、学習者を巻き込み、しっかりと学習者の言ったことに対してコメントをするなどの反応をし、会話をすることも大

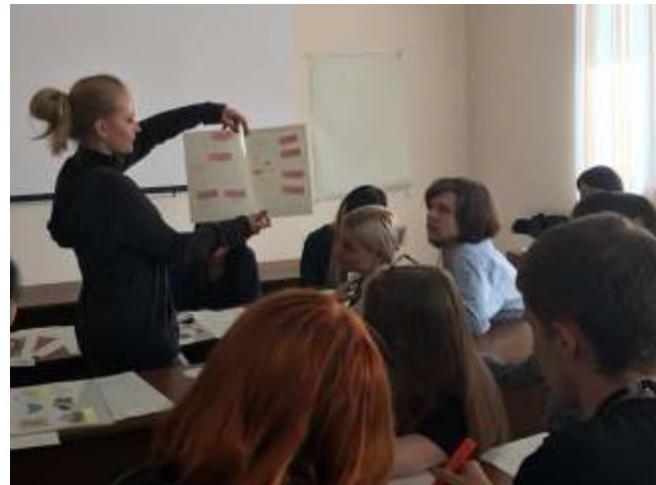


[ロシアの結婚式について話す]

切だと思った。



[学生が考えたロシア版鍋]



[グループで考えた鍋を発表]

### 実習生からのフィードバックコメント

私は中上級の「パーティー」の授業から、自由度の高い活動をより有意義な活動にするためのポイントを学んだ。それは、学習者に自由に何かを考えてもらう活動では、その背景や目的、意図を明確に伝え、学習者が具体的にイメージできるような工夫が必要であるということである。「パーティー」の授業では、鍋パーティーでのロシア版鍋をグループごとに考える活動が特に自由度が高かった。私が観察者として授業に参加して感じたことは、学習者が少し戸惑っていたということである。学習者は活動でするべきことはわかるが、何から考えたらいいかがわからないといった様子だった。確かに、私は「鍋パーティーは仲のいい人たちと家で楽しくお話ししながら鍋を食べる」というイメージを具体的に想像できるが、鍋パーティーという文化に親しみのないロシアの学生にとっては鍋パーティーについて具体的なイメージができず、そこからオリジナル鍋を考え出すのは難しかったのだと感じた。鍋パーティーがどのようなものなのかという背景を学習者にもっと伝えられたらより面白く有意義な活動になったのではないかと感じた。自由度が高い活動だからこそ、その背景や目的をしっかりと伝え学習者が想像し考えやすいように、進行役やサポーターがタスクを工夫することが必要なだと学んだ。

また、グループ活動中の進行役の動き方が重要だと学んだ。斎藤さんも言及しており、私も実際に進行役を経験して感じたが、グループ活動中に進行役はどのようにグループの話し合いに関わっていけばよいのかというのが、難しいが大切である。今回の授業では、斎藤さんはグループ活動中にそれぞれのグループを回ってグループごとの話し合いの内容を聞いていた。そして、全体シェアの際に把握している内容を使ってグループに話をふったり意見を求めたりしていた。グループを回って話し合いの内容をしっかり聞いていたからこそできた全体シェアでの振る舞いだったので、グループ活動中の進行役の動き方や意識の仕方も授業を進行するうえで重要なと

感じた。そして、グループ活動の区切り方についても考えさせられた。グループごとで進度や話の内容も異なってくるので、グループの話し合いを区切るのはとても難しいと感じた。齋藤さんはあと何分で考えてほしいと時間を指定して示してくれたので、サポーターや学習者も時間を意識することができた。考える時間を提示して学習者やサポーターに意識してもらうのも、活動を間延びさせないためには大切なのだと気付いた。

今回の授業はテーマが「パーティー」ということで、あまりなじみがない場合は難しいかと感じたが、写真やイラストが多く用意されていて話しやすかったし、自分のことに対する近づけて考えられるテーマや活動もあり、学習者も楽しみながら活動ができたのではないかと感じた。観察者として授業に参加したが、進行役の役割や教材の使い方、教室設計に必要な工夫など学ぶことが多くあった。（松岡咲季）



### 教室活動案（3年生・第2回）

担当	齋藤 陽奈子
トピック	パーティー（中上級②） 結婚式、鍋パーティー
学習者とのコミュニケーション目標	日本とロシアの結婚式の習慣について知り、簡単な比較をする。 「鍋パーティー」の目的や手順を考え、発表する/伝える。
教具・教材 (何をいくつ、どう やって提示するか+ 誰が準備するか、を 明示すること)	結婚式の場面の写真 10枚（4ペア分） 鍋の写真（A3）×6枚 食材リスト（A3）2枚×2枚ずつ B紙×2（予備も用意？） A3の白紙×2枚 A4の白紙 20枚ほど 付箋（3束） カラーペン 3セットほど

### 結婚式

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	教材・注意すべき点
		最初からグループに分かれて座る。 来た人からどこに座るか指示して、分けていく。 ペア×4（それぞれに実習生1人）	
ウォーミングアップ(5分)	活動に入る前に話しやすい雰囲気を作る。この後話すテーマ（結婚式）について、自身の経験を思い出す。	最近結婚式に関する経験について話し合う。最近いつ行ったか、何回行ったか、思い出に残っているものなど。  以下、進行役=進、実習生=実習生、学習者=A,B  進：「今日はまず、結婚式について話します。皆さんには最近いつ結婚式に行きましたか。また、結婚式に何回行ったことがありますか。グループで結婚式に行った経験について話してみましょう。」  3分ほど話してもらう。 例)	ネームタグ

		<p>実：「私は○○といいます。よろしくお願ひします。名前は何ですか。」</p> <p>A：「A です。」</p> <p>B：「B です。」</p> <p>実：「A さん、B さんよろしくお願ひします。二人は最近結婚式に行きましたか。」</p> <p>B：「去年行きました。」</p> <p>実：「そうですか。誰の結婚式ですか。」</p> <p>A：「友達の結婚式です。」</p>	
1・1 ブレインス トーミング (15分)	学習者のレベ ルや語彙の確 認をする。「結 婚式」について 知っているこ とを思い出す。	<p>ロシアの結婚式で何をするか話 し、ざっくりとした結婚式のスケ ジュールについて話す。写真を見 ながら、ロシアではどうなのが(日 本ではどうなのが)について話し 合う。写真にないけどやることも 話し合う。その中で語彙の確認も する。</p> <p>進：「ロシアの結婚式では何をしま すか。今から写真を何枚か配ります。 結婚式のいくつかの場面の写 真です。グループで写真を見なが ら、ロシアの結婚式ですること、 しないことを話しましょう。白い 紙も配ります。他にやることがあ つたら書きましょう。」</p> <p>例)</p> <p>実：「(指輪交換の写真を見せなが ら) ロシアの結婚式ではこれはし ますか。」</p> <p>A：「します。これはなんて言いま すか。」</p> <p>実：「指輪ですね。指輪の交換をし ています。では、これはどうです か。(ケーキ入刀)」</p> <p>B：「しません。何ですか。」</p>	<p>「結婚式」の場面の 写真 10 枚×4 ペア分 ↓ 入場(2 パターン)、披 露宴、指輪交換、ダ ンス、ケーキ入刀、 ロシアのパン、スピ ーチ、帽子、ブーケ トス</p> <p>A4 の白紙をグルー プごとに 5 枚ずつ程 配る。</p> <p>カラー ペンも一緒に 配る。</p> <p>語彙：披露宴、花嫁、 花婿、結婚式場、教 会など</p>

活動の分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	教材・注意すべき点
1・2 進行役を中心としたタスク理解のためのやりとり(2分)	どんなことを話すのか、イメージを持ってもらう。	<p>進行役が日本で周りの人が結婚した際に贈る/贈らないものについて話す。</p> <p>例)</p> <p>進：「みなさんは結婚式に行くとき、プレゼントをあげますか。」 全体で聞く 進：「そうですか。日本でも（は）プレゼントをあげます。日本ではよくお金を袋に入れてあげます。他にも色々なプレゼントをあげます。あげないプレゼントもあります。例えばハサミやナイフです。ハサミやナイフはものを切るために使いますね。なので、ハサミやナイフは縁、人との関係、を切るということを考えてしまうからです。悪いイメージを持つのでプレゼントにはあげません。」</p>	
1・3 グループ or ペアワーク (15分)	知っていることを分かりやすく伝えられる。理由付けができる。分からないことが質問できる。	<p>ロシアの結婚式で贈る・贈らないプレゼントについて、グループでまとめる。その理由も話ながら、紙にまとめる。</p> <p>進：「ロシアではよくあげるプレゼントはありますか。あげないプレゼント、あげると良くないプレゼントはありますか。グループで話してみましょう。紙に書いてください。」</p> <p>5~10 分ほど話して、全体でシェアする。</p> <p>進：「色々な話が聞けてとても面白いです。では、次は皆さんのが結婚するとしたらどんなプレゼントが</p>	A4 白紙

		<p>欲しいか考えてみましょう。その理由も考えてください。最後に少し発表しましょう。」</p> <p>グループごとに話してもらう。様子を見て、5~10分経ったらシェアする。</p>	
1・4 全体シェア or グループシャッフル(5~10分)	ペアで話し合った内容を他の人へ分かりやすく伝える。	<p>1・3の内容を全体で共有。ペアの代表が2分ほどで発表する。</p> <p>進:「では、今からペアで話し合った内容を皆に発表しましょう。」</p> <p>グループごとに簡単に理由と共に発表してもらう。</p>	(1・3で使用したタスクシート)

### 鍋パーティー

活動の分類 (目安時間)	活動の目標	教材の使い方・活動内容 (発話例)	教材・注意すべき点
		まず、ペアを合体させて、4人グループを2つ作る。(実習生が2人ずつ入る)	
2・1 ブレインストーミング (10分)	料理/食べ物/食事の文化について、考えることで続く活動にスムーズに入れるようにする。語彙・レベルの確認。	<p>普段料理をするか、友達と一緒にするか、友達と一緒にご飯食べるか話し合う。</p> <p>何を作った/作るか(どんな料理か)、何が得意か、あまりしない場合は好きな料理(どんな料理か)についてなど。</p> <p>①友達同士で何を作るのか ②親戚で集まったとき一緒に何を作るのか の二つを話し合い、付箋に書き出して貼っておく(A3に)。</p> <p>食材は名前が分からぬものがあったら、付箋に書いて食材リスト</p>	付箋(グループごとに1束)、A3の白紙×2、食材のリスト(絵、A3)×2

		<p>(絵) に貼っていく。</p> <p>例)</p> <p>実①：「皆さんはよく料理しますか。」</p> <p>A：「よくします。」</p> <p>B：「少しします。」</p> <p>C：「あまりしません。」</p> <p>D：「料理すること好きです。」</p> <p>実①：「そうですか。私もたまにします。」</p> <p>実①：「私は友達の家で一緒に料理して、ご飯を食べます。皆さんは友達と一緒に料理をしますか。」</p> <p>A：「寮で一緒に料理します。」</p> <p>B：「友達と料理はあんまりしません。一緒にご飯は食べます。レストランに行きます。」</p> <p>C：「Bさんと同じです。」</p> <p>実：「そうですか。Dさんはどうですか。」</p> <p>D：「友達と一緒に食べます。でも、私が一人で料理します。」</p> <p>実①「そうなんですね。友達とよく作る料理はありますか。」</p> <p>実②：「私はお菓子をよく作ります。」</p> <p>Aさんはどうですか。」</p> <p>A：「○○をよく作ります。」</p> <p>実：「○○はどんな料理ですか。何が入っていますか。」</p> <p>A：「○○にはトマトと魚と...」</p> <p>実：「美味しいですね！」</p> <p>.....</p> <p>実：「では、親戚と集まるときはどうですか。一緒に料理しますか。」</p> <p>B：「料理します。たくさんの料理を作ります。」</p>
--	--	---

		<p>実：「そうですか。私も親戚と集まるときは料理を手伝います。Cさんはどうですか。」</p> <p>C：「Bさんと同じです。親戚と集まるときは特別な料理をたくさん作ります。」</p> <p>実：「例えどんな料理ですか。」</p> <p>C：「○○です。…」</p>	
2-2 進行役を中心としたタスク理解のためのやりとり (3分)	<p>鍋パーティーについて知つてもらう/思い出してもらう。自身の経験と結びつける。</p>	<p>鍋（料理）について、鍋パーティーについて学習者に知ってもらう。まず、進行役が全体で鍋・鍋パーティーについて話す。その後、グループ内で実習生と学習者で、疑問点やより詳しい内容を話す。</p> <p>進：「ロシアの冬は寒いですね。冬は暖かいものが食べたいですね。日本では冬によく鍋を食べます。鍋を知っている人はいますか。鍋は大きな鍋に色々な野菜や魚、肉などを入れてスープで煮た料理です。（写真を見せる）</p> <p>スープの味や入れる材料は自由です。水で煮て、たれに付けて食べることもあります。トマト鍋やカレー鍋は味の付いたスープで煮ます。他にもしゃぶしゃぶやキムチ鍋も人気です。（写真を見せながら）</p> <p>鍋は机に置きます。皆で回りに座って一緒に食べます。（写真を見せる）私は冬は毎週鍋を食べます。友達と一緒に作って食べることもあります。皆で鍋を作り一緒に食べることを鍋パーティーと呼んでいます。</p> <p>鍋と鍋パーティーがどんなものか分かりましたか。今から少しだけグループで話をします。分から</p>	<p>鍋パーティーをしている写真、鍋の写真（色々な種類のもの、6枚ほど）×ぞれぞれ全体用 A3 サイズ</p>

		<p>うことや気になったことを聞いてください。」</p> <p>グループで 2,3 分会話 実習生に分からぬことや気になることを自由に聞いてもらう。</p>	
--	--	--	--

活動分類	活動の目標	教材の使い方・活動内容	教材・注意すべき点
2-3 グループ or ペアワーク (10~15 分)	グループメンバーで話し合い、互いの意見/理由を述べる。	<p>グループで自分たちの鍋パーティーを考える。その目的（誰といつ食べるのか？）、味、材料、おすすめポイントなどを考え、グループで一つの鍋のレシピを完成させる。</p> <p>実習生が語彙（食材など）の補助をする。</p>	食材のリスト（絵・写真）*2-1と同じもの 、鍋のレシピ見本 2 つ×人数分（A4）、B 紙
2-4 全体シェア (10 分)	グループの意見をまとめて、分かりやすく全体に伝える。	<p>全体で、グループごとに考えた鍋パーティーを発表する。自分たちの鍋を食べたいと思ってもらえるように、アピールする。</p> <p>発表後、時間があればグループでもう片方のグループの鍋について話し合う。（相手のレシピを見ながら）どこがいいと思ったか、アドバイス、他意見を自由に話し合う。 付箋に一言ずつコメントを書いて、相手のレシピに貼る。</p>	2-3 で書いたレシピ（A3）、付箋（2-1 で使ったものをそのまま）

## 作成教材





なべ  
キムチ鍋



なべ  
カレー鍋



なべ  
ちゃんこ鍋

### ロシアンルーレットビーフ鍋

なべ  
目的:たのんの人と楽しくごはんを食べる。

味:★★☆食:見た目:★★☆難しさ:★★☆楽しさ:★★★

スープ:トマト味

材料	鮭子
材料	肉
材料	キャベツ
材料	鮭子の皮

材料	アボカド
材料	ピーマン
材料	玉ねぎ
材料	トマト
材料	豚肉
材料	ご飯
材料	チーズ

おすすめポイント:とても盛り上がりります!変な顔の不真や面白い  
動画が盛れます。

### 森のバター鍋

なべ  
目的:友達とおしゃれなごはんを食べる。

味:★★★食:見た目:★★★難しさ:★★☆楽しさ:★★☆

スープ:アボカドクリーム味

材料	アボカド
材料	ピーマン
材料	玉ねぎ
材料	トマト
材料	豚肉
材料	ご飯
材料	チーズ

おすすめポイント:おしゃれな鍋パーティーができます。味がとても美味しいです。かわいいです。最後にリゾットも食べることができます。

3年生会話活動（第4回）

## 教室活動を通して学んだ教案作りの大切さ

松澤 実紀

2017年9月13日（水）10:15～11:50

2年生トピック会話（第4回）「動物・ことわざ」

担当（進行役）：松澤実紀

記録：齋藤陽奈子

参加学生：6名

私は「動物・ペット」をテーマに、中級～中上級者を対象とした教室活動案を作成した。ミニトピックは三つあり、一つめは好きな動物・嫌いな動物、二つめは動物に関することわざ、三つめは日本とロシアのペットショップについて。現地に行って学習者たちと話をしてみると、彼らの日本語のレベルは予想よりも高く、思ったことを自由に述べることができるということがわかった。さらに、同じ「動物」をテーマにした初級の教室活動で、好きな動物・嫌いな動物を取り上げていたので、ひとつめのミニトピックは中級の学習者には簡単すぎるという判断をした。そこで、実際にシベリア連邦大学で行った授業は、二つめの「動物に関することわざ」をメインのトピックとして進めた。

当日の流れでは、ウォーミングアップで好きな動物・嫌いな動物について話した後に、ミニトピック2のことわざに移行した。教案の段階では、ことわざの意味を考えてもらった後で、ことわざに出てくる動物のイメージを日本とロシアで比較してもらおうと考えていた。しかし、授業の前に行った実習生同士の打ち合わせで、ことわざに出てくる動物のイメージを、そのことわざが必ずしも表していることはなく、動物のイメージも個人によって異なるという意見が出た。事前にコツコツ改正を加えながら教案を作り上げたつもりでロシアに来たが、直前になって、教案がそのままでは使い物にならないということに気がついた。この体験から、教室活動案を作成する時に言っていた「関連性」の意味を理解した。教案を作る前段階では、文型や関連性のあるトピックなどを細かく意識して計画していたが、いざ教案を作る段階になった時にはそこへの意識が薄れてしまっていた。会話活動に至る前段階にも反省点が多くった。

進行に関して、時間の区切りについては他の会話活動の振り返りでもよく出てきた課題点だった。学習者にタスクを提示する時、「○分でやってください。」というと、学習者もそれくらいを目安に話を聞く態勢になってくれるが、私は時間の提示をし忘れたので全体的に「もう少しかなあ」と様子をみているうちにズルズルと流れてしまった。ここはしっかりしないと参加者みんなを巻き込むことになってしまうので気をつけたいと思った。

会話活動に関しては、私は学習者に対して暗示的なフィードバックを意識的に行つた。前に立っていると緊張して、次に何をしないといけないか、時間のことなどいろいろ

いろいろ考えがあるので、つい反応が「そうですね。」や「いいですね。」などの一本調子になってしまいそうだったが、そこを、例えば、ウォームアップで動物についてグループで話し合っていた時は、学習者が発した「ブタが嫌い。」と「美味しいくないです。」というふたつの文を、「豚は美味しいくないので、嫌いなんですね。」のように、理由説明の時に使える文型で言い直すように意識した。

ことわざを会話活動で取り上げたことについて、反省点がいくつかある。まず、タスクシートに書かれたことわざを見て、すぐに学習者がそこから意味を考えるのは大変だったと思う。今回はサポートーが各グループにいたため、学習者が意味に近づけるようにサポートーに手助けしてもらったが、明確な指示が出せなかつたため、それぞれのグループで、ヒントの出し方や、正解を発表するタイミングに困ったという意見が授業後の振り返りで出た。他に、ことわざは、その動物の習性などから、似たような状況の人間を表している場合が多い。そのために、ことわざの本来の意味を説明するには何段階か踏まなくてはいけなかつた。具体的には、「虎の威を借る狐」の場合、まずは「威」の説明、虎のイメージ（強い、大きい）、狐は虎の威を借りて何をしているのか、つまり虎の威を借る狐とは人間でいうとどういう人ですか、となる。教案を作っていた段階では、ここまで全く考えてていなかつた。また、根本的な問題として、私たち日本人が日頃ことわざを使っていないのにそれをやさしい日本語で説明するには、「こんな感じの意味」だけでなく、具体的に意味を理解していないといけなかつた。そのためには、出てくることわざについて事前にサポートに入つてもらう実習生に知らせたり、意味を書いたメモを渡したり、もう一工夫しなければならなかつたと思う。

全体シェアについて、ことわざは一人一人にこたえを言ってもらう形でシェアしたが、答え合わせをするだけなら、正解を書いた紙を見せ合うだけでも可能だつた。実際にことわざのような状況を体験したことがあるか、ロシア語にも同じような表現があるか、ことわざに当てはまるような人が周りにいるかなど、学習者の体験に基づく質問で深堀することができればよかつた。

国外実習に行って教壇に立つまでは、それまでの授業で先生方から聞いたことがよくわからなかつた。しかし、今ならその意味を理解できると思う。教案を作るのに何時間もかかるというエピソードも、今回自身が作成した教案が穴だらけだったことから、いろいろなことを想定して、会話活動で実際に自分が前に立つてみることで、今までの国内実習や教授法、教材論などで学んできたことがリアルに体験できた。



[3年生クラス]



[教室活動の様子]

## 実習生からのフィードバックコメント

松澤さんの担当した、「動物」の中上級の授業では、やはり動物のことわざが学習者にとっても、実習生にとっても難しかったと私も感じた。私自身、ことわざは得意でなく、普段はあまり使わないので、事前に意味を確認しないと不安だった。意味は松澤さんが事前に送ってくれたが、辞書的な意味しか確認しなかったため、いざ授業で学習者に説明するとなつたときに、苦戦してしまった。意味だけでなく、どうしてその動物なのか、その成り立ちなども理解しておけば、より分かりやすく、学習者の記憶に残りやすいような説明ができたと思った。サポーターとしての準備が不十分だったと強く感じた授業であった。

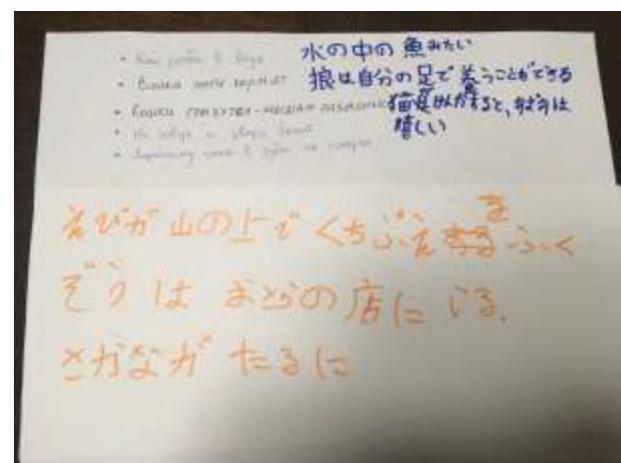
動物のことわざが難しかったことや、グループごとに進度が違つたこともあるが、少しこことわざの意味を考える活動が長くなってしまったのは私も感じた。サポーターとして、進行役に合図したりするなどのサポートをすべきだったと思った。また、ことわざの意味を考えて、確認した後に全体に向けて発表することも合わせて伝えてもらえた方が、活動がしやすかったと感じた。

最初行った動物の好き嫌いについての活動は、少し簡単すぎるかもしれないと授業を行う前は思っていた。しかし、その理由が学習者が持っている動物のイメージに繋がっていたり、語彙の復習になっていたり、動物の絵カードを使うことでより楽しい活動になっていたりした点では意味のある活動になったと感じた。

全体的に松澤さんは明るく元気に活動を進めていたので、内容は難しかったが、学習者も楽しんで活動できたのではないかと思った。また、松澤さんが書いていたようにことわざから学習者の経験に結び付けたりなど、ことわざの意味だけで終わらない活動にできたらより良かったと思った。中上級最後の授業だったが、私自身も学ぶことが多い時間だった。（齋藤陽奈子）



[ことわざの意味をグループで話し合う]



[ロシアのことわざ]

## 教室活動案

進行役	松澤 実紀
参加者	学習者 6 名、 サポーター6 名
トピック	ペット（中級～中上級） ミニトピック 1：ロシア／日本で人気の動物 ミニトピック 2：動物にまつわることわざ・表現
学習項目	理由の説明 「～だから、～です。」「～ので」
教材・教具	ペン、タスクシート、動物の絵カード×4 セット、発表用 A3 用紙×20 枚程度

活動の目標 (目安時間)	教材の使い方・活動内容	教材・注意すべき点
ウォーミングアップ グループ分けをする。 (5)	学習者 2 名とサポーター1 名のグループを作る。 活動するグループで一緒に座る。	学習者の数が各グループに二人ずつになるようにする。
ミニトピック 1-1 (10) 好きな動物、嫌いな動物と、その理由について話す。	タスクシートを埋める。 進行役「みなさん動物（犬／猫／へび／ウサギ／ハムスター／トカゲ／カメ／・・・）が好きですか。好きな動物と嫌いな動物に分けてください。 進行役「どうしてこの動物が好きなんですか？」 学習者「かわいいです。」 進行役「どこがかわいいですか？」 学習者「全部。」 性格、見た目、飼いやすさなどについて聞き出す。 進行役「選んだ動物の好きなところを紙に書いてください。書き終わったら、グループの人に発表してください。隣の人の好きな動物ときらいな動物を聞いてください。」  学習者 a 「b さんの好きな動物は何ですか？」 学習者 b 「犬です。」 学習者 a 「どうしてですか？」 学習者 b 「賢いからです。」	動物の絵カード（初級の借用） タスクシート
ミニトピック 1-2 (5)	進行役「（実習生 1）さんは犬と猫、どちらが好きですか。」 実習生 1 「犬が好きです。」	

表現・語彙の確認。	<p>進行役「なぜですか？」</p> <p>実習生1「猫はアレルギーがあるからです。」</p> <p>進行役「(実習生1)さんは、犬が好きです！犬のいいところはなんですか？」</p> <p>実習生1「犬はとても賢いです。」</p> <p>進行役「(実習生2)さんはどうですか？」</p> <p>実習生2「わたしは猫が好きです。」</p> <p>進行役「(実習生2)さんは、猫が好きです。猫のいいところは何ですか？」</p> <p>実習生2「猫のいいところは、気分屋で飽きないところです。」</p>	
ミニトピック1-3 (15)  犬と猫、それぞれのペットとしてのメリットとデメリットを話し合う。	<p>進行役「次は、犬と猫のいいところと良くないところを考えてみましょう。」「犬のいいところはなんですか？」</p> <p>学習者「」</p> <p>進行役「そうですね。では、犬の良くないところはなんだだと思いますか？」</p> <p>学習者「」</p> <p>進行役「では、猫はどうですか？」</p> <p>学習者「」</p> <p>進行役「そうですね、犬と違って　　ですね。では、猫の良くないところはなんだだと思いますか？」</p> <p>学習者「」</p>	A3×4を4セット
ミニトピック1-4 (10)  1-3の内容を踏まえて、ロシアでは、どちらが人気かを話しあう。	<p>進行役「犬と猫のいいところ、良くないところがわかりましたか？ではロシアでは、どちらがペットとして人気だと思いますか？配った紙にかいてください。選んだ理由も書いてくださいね。」</p> <p>進行役「日本ではどちらが人気だとおもいますか？サポートに聞いてみましょう。」</p> <p>紙に書いて、最後に全体で発表する。</p>	発表用 A3 の紙 (2枚×4 グループ)

### 動物にまつわることわざ・表現

活動の目標 (目安時間)	教材の使い方・活動内容	教材・注意すべき点
ミニトピック2-1 (10)	<p>ことわざを提示する。</p> <p>タスクシートを埋める。</p> <p>進行役「タスクシートに動物を使ったことわざがありま</p>	タスクシート 鶲の写真

ことわざの意味を予測する。	<p>す。それぞれの意味を考えてみてください。」</p> <p>それぞれのグループに全体発表のときに答えてもらうことわざを 2 つずつ伝える。</p> <p>グループで話し合いをする。</p> <p>サポーター「鶴はロシアにもいますか？どんな鳥だと思いますか？」</p> <p>学習者「黒いですか」</p> <p>→タスクシート裏の写真で説明する</p>	
ミニトピック 2-2 (5) 話し合う内容を示す。	<p>進行役「○○さん、『鶴の真似をするカラス』ということわざの意味を知っていますか？」</p> <p>学習者「はい。自分ができないことがあるのに、人の真似ばかりをすると大変なことになる、ということです。」</p> <p>進行役「そうですね。鶴もカラスも黒い鳥です。でも、カラスは泳げません。鶴の真似をしても、カラスは溺れてしまいます。」</p>	
ミニトピック 2-3 (15) ことわざの意味を知る。	<p>ことわざの答え合わせをする。</p> <p>グループで話し合った答えを、1 グループ 2 つずつ発表する。</p> <p>進行役「では、ことわざの意味を確認しましょう。</p> <p>②番のことわざの意味はなんですか？一番前のグループ、教えてください。」</p> <p>グループ 1 「 」</p> <p>進行役「そうですね。ほとんど合っています。」</p> <p>進行役「③番・・・、④番・・・」</p> <p>繰り返す</p>	
ミニトピック 2-4 (10) ロシアのことわざとその意味。	<p>動物にまつわるロシアのことわざを日本のものと比較する。</p> <p>進行役「日本のことわざの意味はわかりましたか？？次はロシアのことわざについて教えてください。」</p> <p>グループでひとつずつ考えて、紙にまとめて発表する。必要であれば、スマホなどで探してもらう。</p> <p>進行役「どんなことわざがありましたか？」</p> <p>グループ A 「～ということわざがあります。」</p> <p>進行役「どういう意味ですか？」</p> <p>グループ A 「～です。」</p> <p>進行役「なるほど！ロシアらしいことわざですね！」</p>	A3 の紙 4 枚 マーカー

## ペット産業(ペットショップ)

活動の目標 (目安時間)	教材の使い方・活動内容	教材・注意すべき点
ミニトピック 3-1 (10)  ペット産業について、学習者の知識を確認する。	進行役「ペットのビジネスはどんなものがありますか？」  学習者「」  進行役「ペットショップはロシアにもありますよね？今日はペットショップの話をします。」	タスクシート
ミニトピック 3-2 (5)  話し合う内容を示す。語彙の確認。	進行役「○○さん、ペットを飼っていますよね。ペットショップに行きますね。そこで何を買いますか？」  「ドッグフードを買います。」  進行役「○○さんはペットショップでドッグフードを買います。他には何を買いますか？」  「ペットの服を買います。」  進行役「○○さんは、ペットショップでペットのための服を買います。」	
ミニトピック 3-3 (15)  日本とロシアのペットショップに売っているものを比べる。	グループ作業。  進行役「写真を見てください。日本のペットショップです。何を売っていますか？」  学習者「ドッグフード」  学習者「ペットのおもちゃ」  進行役「そうですね！では、ロシアのペットショップと、日本のペットショップを比べてグループの人と話してください。」  進行役「日本のペットショップについて、サポーターの人聞いてみてください。」  進行役「ロシアにもあるもの（日本のペットショップと、ロシアのペットショップにあるもの）はどれですか？」  学習者「」  進行役「ロシアのペットショップにないものは何ですか？」  学習者「」  進行役「ロシアのペットショップにしかないものは何ですか？」  学習者「」	発表用 A3 用紙×4
ミニトピック 3-4 (10)	進行役「日本とロシアのペットショップの違いがありましたか？」	

## まとめ

活動の目標 (目安時間)	教材の使い方・活動内容	教材・注意すべき点
まとめ (10)	授業の感想、一番印象に残ったことを記入してもらう。	アンケート用紙

## 作成教材

動物が好きですか。好きな動物と嫌いな動物に分けてください。

すき	きらい	どちらでもない

動物の種カードをみながも分けしてください。

理由を教えてください。

好きな理由と、きらいな理由をひとつずつ教えてください。

動物	好きな/きらい	理由
例) カザガ	すき	かわいい、かわいい
例) ハス	きらい	ぬたくて、臭うるさい

意見を考えてみましょう。

①他の意見をするクラス

②誰にうそ

③井の中の蛙

④火も手けば泥に当たる

⑤井の木屋り

⑥きつねにつままれる



### 3. 日本文化紹介



# 顔文字紹介を通して学んだこと

加藤 志真、簾内 亜里沙、成田 彩夏、松岡 咲季

今回の文化紹介では、身近な日本文化を意識してテーマ選びを行った。具体的には、書道、華道、着付けのような日本文化らしいが生活にはあまり普及していないことではなく、自分たちの実生活で普及していて、紹介したらロシアでも使えるようなことを選んだ。私たちのグループは顔文字をテーマにしたが、ロシアでは一般的ではないかもしれない文化をどのように説明するかが課題だった。例えば笑顔の顔文字(^^)を説明するとき、笑顔の写真を使ってその写真と(^^)はイコールだと言ってしまうと、文化によって笑顔が意味することは違うので誤解を与えててしまうかもしれません。また、同じ笑顔の顔文字を使っても嬉しいとき、怒っているとき、焦っているときなど文脈で意味が変わってしまうので、一概に「嬉しいときにこの顔文字を使いましょう」などと教えてはいけないと思った。しかし、あまりに詳しく説明したり議論してしまうと90分では時間が足らないし、日本語でそこまで話せるかということが問題になった。そこで、今回の文化紹介では敢えて深堀せず表面的な部分を扱うことにした。宮谷先生にご指摘頂いたことだが、教案を考えるときに一度深堀してから、敢えて授業では表面的な部分だけを扱うのと、一度も深堀せずに授業に臨んではしまうのでは授業の質が大きく違ってしまうということが分かった。今回は4人で4つのタスクを分担して考えたが、深堀していなければそれぞれの活動の目的や意味が分からぬままだったと思う。

## [担当学生のコメント]

授業では自分は導入を担当し、学習者に知っている顔文字やロシアの顔文字を描いてもらいどんな時に使うのか聞いた。思ったよりもみんな顔文字を知っていたし、普段から使っている人もいた。顔文字にはそれぞれメッセージがあるということを理解してもらうための活動だったが、そのことは既に知っているようだった。どんな時に使うか全体シェアで聞いたあと、「そうなんですね」と言って終わってしまったが、他のグループで同じ顔文字を書いた人や、同じ場面だが違う顔文字を使う人がいるか聞くなどして、人によって選ぶ顔文字は違うというような、もっと少し踏み込んだ内容までできたらよかったです。しかし、全体的には会話活動より堅くなく、楽しい雰囲気で進められたのでよかったです。(成田彩夏)

文化紹介の活動から学んだことは、学習者に楽しんでもらえるように作った活動が自然と学習者の会話量を増やす要因の一つになっていたということです。文化紹介で私が担当した活動は「顔文字を実際に使ってみる」というパートでした。普段の生活で日本人はどんな風に顔文字を使用しているのかを提示するため、SNSでの写真付きの投稿に顔文字を付けた例の提示、そしてSNSでのメッセージ機能を使った場合はどのように顔文字が使用されているのかを見せ、日本人が顔文字をどんな場面でどんな心境の時に顔文字を使うかなどを見せた上でタスクに移る教案を作成しました。実際

に顔文字を使ってみるタスクでは、ある前提を設け、登場人物間の SNS メッセージのやりとりを考える活動を作成しました。日本文化を楽しんでもらいながら触れてほしいという思いがあったため、このタスクには学習者が楽しめるように工夫しました。例えば、それぞれのグループはタスクで二人の登場人物、太郎と花子の会話を考えるという点では同じですが、グループ毎に別の場面の会話を考えました。そうすることで、発表を聞いたときに最後全体で大きなストーリーになるため、発表中は他のグループの発表をより楽しんで聞くことができるようになっていました。前提の話がラブストーリーになっているのも会話を考える楽しみの一つです。どうやって花子を動物園に誘おうか、どうやって花子に遅刻したことを謝ろうかなどどう工夫するかを考えるのが思わず楽しくなるようにしました。これらの仕掛けを作り実際に活動を行うと、タスクが複雑で学習者が理解するのが難しいのではないかと心配しましたが、実際はグループ内の会話が活発で学習者が登場人物たちの会話を話し合いながら考えている様子を見て安心しました。実際日本語を学び初めて間もない普段授業内で話すことの少ない子がロシア語を使いながら会話に参加する姿や、話の結末をどうするのかサポートとともに笑いながら熱心に考える学習者も見られ、楽しみながら日本語を使うタスクが作成できることを嬉しく感じました。今回の授業を通して考えたことは学習者にとって楽しい、参加したい活動だと自然と日本語を多く話す機会を作ることができることです。またこの様子をみて、改めて語学学習において必要なのは思わず学習言語を使用したくなるような状況を作ることの大切さだと感じました。(加藤志真)

私は SNS で使われる顔文字について紹介するため、写真と文章のみの SNS 投稿画面と顔文字が印刷された顔文字カードを用意し、学習者に SNS の文章に付けたい顔文字を選んでもらいその理由も考えてもらうという活動を中心に行った。1つの投稿に対して5つの顔文字を用意し、グループで話し合ってもらいながら顔文字を選んでもらった。文化紹介には様々な日本語レベルの学習者が参加しており、レベルごとにグループを分けたが、学習者によっては既に多くの顔文字を知っており、顔文字カードを見ながら、この顔文字はこういう相手にこういう時に使いたいという話までしてくれていて驚いた。この活動を振り返って反省することは、SNS の文章の内容確認と説明をグループごとのサポートに頼り切ってしまったため、サポートに大きな負担をかけてしまったことである。日本語がそれほどわからない人にも理解してもらえるような工夫をあらかじめ考えておくべきだったと感じた。また、グループごとに教材を配ったがせっかくレベルごとにグループを分けたのにも関わらず、難易度やタスクの数をグループで同じにしてしまったため、上級者のグループは時間を持て余しているようだった。準備の段階で様々な難易度のタスクを用意しておいたり、その場で進度を見ながら別のタスクを与えたりするなど、どの日本語レベルの学習者にも退屈せずに楽しんでもらえるような教室設計を工夫する必要があったと感じた。

今回の文化紹介を通して、グループ分けの仕方によってその後注意すべき点が変わることを感じた。グループごとにレベルを均等にして様々なレベルの学習者で1つのグループを作った場合には、グループ内で取り残されてしまっている学習者はいないか、話せる学習者の意見だけを聞いていないかに気を配る必要があると感じた。

一方で、レベルごとにグループを区切った場合には、全体を見てタスクの内容や数を調整したり、グループごとにタスクのやり方を変えるなどの工夫が必要だと感じた。  
(松岡咲季)

文化紹介活動では、私のグループのトピックは「顔文字」でした。元々は日本の若者文化というテーマで、そこからこのトピックに辿り着きました。しかし、顔文字といつてもスマートフォンになってからは絵文字やスタンプが主流になり、使う人と使わない人の差が大きいです。人によって使用する顔文字が持つ $+ \alpha$ の表現の意図が僅かに異なっており、このようなことを踏まえて教案を作成しました。

私は文化紹介活動の最後のまとめ部分を担当し、顔文字とは何か、使用例、SNSで見られる顔文字、実際に顔文字を使ったストーリー作成という段階を経て、学びを生かすまとめを考える必要がありました。実際にSNSへ投稿するという目標で教案を作成し、もし電子機器を使用しない人がいるかもしれないと考え、チエキも用意していました。私のグループは文化紹介活動の3回目で、前の2回の活動を経て、人数も年齢層も日本語レベルも毎回異なるロシア人が来ることがわかつっていました。そのため、まとめの内容をグループメンバーと共に考え直し、チエキを用いて参加者の写真を撮り、顔文字を使った活動の感想を書いてもらうことに変更しました。日本語に興味があるロシア人が来てくれたこともあり、「顔文字」を全く知らない人はいなかつたように思います。ですが、日本語は少しだけ話せるけれど、こちらの言っている日本語を聞き取って理解することができない人や反対に理解できるけど話せない人も多かったように感じました。そのため、各活動内容が本当に伝わっているのかどうか、私がわからず、理解しているロシア人に何度も同じ説明をしてしまっていたかもしれません。また、私は全体のグループの進捗状況を把握することに努めました。ストーリー作成の時は、他の実習生との活動内容の意思疎通が不十分であったため、こちらが意図した活動内容でなかったグループがありました。各グループの状況を把握していたため、そのグループの活動を生かしながら、ストーリーの軌道修正を進行側でスムーズにできた点は良かったと思います。しかし、文化紹介活動について日本人側がもっと流れを共有しておくべきだったと反省しています。(簾内亜里沙)





# オノマトペ絵本

齋藤 陽奈子、中村 茉穂、松澤 実紀

私たちのグループでは、オノマトペを紹介した。動物の鳴き声やものの音のクイズ、オノマトペのみの4コマ漫画から物語を考える、絵本にオノマトペをつけてもらうという3つの活動を行った。持参した絵本は、元々の絵本をリメイクしたもので、1ページにつき2、3文程度のひらがなの分かち書き文章に直し、初級の参加者にも対応できるように工夫した。さらにセリフやオノマトペを書き込めるように、吹き出しを付け加えた。

文化紹介の教案は、ひらがなが読める程度の初級の参加者を対象として作成したが、当日の参加者の日本語能力はとても幅広く、日本語が話せる人もいれば、ロシア語や英語しか話せない人もいた。事前の打ち合わせでも、日本語が話せない人がいたらどのように対応するのかを話し合ったが、メリットとデメリットを考えて最終的に結論が出ないままだった。

絵本にオノマトペをつける活動で、私がサポートしたグループは読み書きができる参加者が2人と、日本語が全く話せない参加者が1人の合計3人だった。日本語が話せなくても、英語を話すことができたので全体を進めるときは英語で、読み書きは日本語で行った。ここでの反省点は、作業に気を取られてしまい、絵本作りを時間いっぱいまでやることになってしまったことである。当初の予定では、絵本を完成させたあとにアンケートを取り、私たちのフィードバックにつなげる予定だった。さらに、まとめとして、日本語の表現にはオノマトペがたくさんあること、使う場面などを紹介したかった。これができなかつたため、参加してくれたみんなが、「日本語の中のオノマトペ表現を紹介する」というこの活動の趣旨を理解してくれたかが不明のままである。

また、最初に行った動物の鳴き声クイズの全体シェアは回答を叫んでもらうという方法で行ったが、動物の日本語の名前を知らない参加者がいたのでロシア語で答えてもらったが、私がロシア語の名前を知らないので、毎回微妙な空気になってしまった。事前にどの動物の鳴き声クイズを行うか決まっていたので、自分で調べておくべきだったと思っている。

## [担当学生のコメント]

この活動から考えたことは、参加者の能力によって、現地の言葉で話したい人と、日本語をたくさん使いたい人は分けてグループを構成したほうがよいということである。活動がスムーズに進むうえに、参加者は自分より日本語レベルの高い人を気にすることなく気持ちよく発言できると思う。日本人のサポーターについては、活動の内容しか説明しておらず、私たちが作成した最後の活動で使用する絵本の吹き出しの種類の違いについては説明しなかったために、当日少し混乱した人がいた。活動をサポートする人にも、スムーズな活動のために事前の説明が必要だと思った。（松澤実紀）

文化紹介では、オノマトペを紹介し、最終的には絵本にオノマトペをグループごとに付けてもらう活動を行った。出発直前に参加者が 25 人程だと知るまでは、15 人程の参加者を想定し、活動の準備を行っていた。そのため、グループの分け方や全体共有のしかたなど、直前に少し考え直さなければならない部分もあった。また、オノマトペは言語の一部であるという点で、日本語が分からぬ参加者が楽しめない可能性もあると感じたため、どの日本語レベルの人でも参加し、楽しめるよう、工夫をする必要がある活動だった。

私たちの文化紹介は、文化紹介が開催された初日であったこともあり、聞いていた通り 25 人程参加者がいた。実際その場でその人数を見るととても多く感じ、まとめられるか不安があった。最初に動物の鳴き声クイズを行ったが、盛り上がったため、導入としては良かったのではないかと感じた。しかし、一番後ろの方の様子を見ると、紙に答えを書いていない参加者も何人かいた。答えが分からなかっただけかもしれないが、やはりあの人数の中の後ろの方は活動に参加しきれていないような気がした。会話の授業同様、文化紹介でも進行役の立つ位置や机の配置、グループの分け方は大事だと改めて感じた。

今回文化紹介を行い、一番反省した点は準備不足だったということである。準備やグループメンバーとの打ち合わせをもっとしっかりとすることで、改善できたと感じた点がいくつかある。例えば、自分が進行役として前に立ち進行したとき、どうしたらよいのか戸惑っている様子が少し表に出てしまい、硬くなってしまった点である。教室活動案通りに進むとは限らないが、もう少ししっかりと教室活動案を作成し、その内容を頭に入れておくことで、自信を持って進行できたのではないかと思った。また、グループで 4 コマ漫画を読んでもらっているときや最後の絵本作成のときには、グループ間で進度に差があり、次の指示を待っているだけのグループが出てしまった。いつ、どう活動を切ったらいいのか迷っている間、時間の調整をサポーターに委ねてしまっていた。もう少しこのような場合に進行役として何ができるか話しておくべきだったと感じた。

反省する点は多くあったが、今回の活動を楽しんでくれていた参加者が多かった。日本語がほとんどできない人への対応をしっかりと考えておくことや、人数や日本語レベルをしっかり考えたグループの分け方をすることでより楽しんでもらえたのではないかと思った。（斎藤陽奈子）

文化紹介のテーマを決める段階では、最初はかるたをテーマにし、内容をオノマトペにしようという考えだったが、最終的にオノマトペを知るということが大きな目的となり、オノマトペ絵本の作成がテーマとなった。そのため、日本語学習者でなければ楽しめなかつた内容になってしまった。実際に文化紹介に来ていた参加者は、日本語学習者だけではなく、外国人と話してみたかった人や友達の連れ添いで来た人など様々であった。グループの中で日本語を学んでいるロシア人が翻訳をしてくれているところもあったが、グループの中で細かい説明をしてくれるサポーターが日本語で話すため、議論は日本語で行われることが多かったと思う。なかなか議論に参加できていないロシア人に議論はロシア語でもいいことを伝えると、積極的に発言してくれた

ので、グループ活動の際にサポーターの参加度をもう少し抑えるよう伝えてよかったですかもしれない。また、テーマを決める際にあまり日本語に頼りすぎないものの方がよいと思った。グループごとにロシア語の通訳者を付けるわけにいかないので、「日本語が読めなくても体験できるもの」か「日本語のできるロシア人を巻き込んでロシア語で活動できるもの」に焦点を当てて考える必要があった。

準備段階の反省としては、しっかりと活動の中で使う教材を事前に作っていなかった点が挙げられる。絵本の作成に必死になっていたので、4コマ漫画でのオノマトペ紹介の内容が文化のグループ内でもあまり共有できておらず、当日参加者からオノマトペの意味を聞かれたときにすぐに対応できていなかつたと思う。例えば、「ガミガミ」や「シーン」といった音ではないオノマトペの説明に困る実習生がいたと思うので、状況を表すオノマトペは控えた方が良いことや、どのように説明したら理解しやすいなど、事前に話し合えればよかった。しかし、手書きで描いた4コマ漫画はなかなか人気があったので、現地に着いてから作成した即席のものになってしまったが、参加者が楽しんで取り組めるものができた良かった。

当日の進行役としては、誰がどこの部分を担当して進行するかを決めたが、思いのほかグループ活動が盛り上がり、全体発表がしっかりと行えなかつた。4コマ漫画の発表中でも、ざわざわしている雰囲気があつたので全体がまとまつておらず、グダグダしたまま絵本の作業に入つてしまつた。また、時間配分が上手くできず絵本の発表が行えなかつたので、全体的にまとまりなく終わつてしまつたと思う。(中村茉穂)



## 4. プロジェクトワーク



# 共同作業のポイントと異文化理解を通して学んだこと

成田 彩夏

私は、日本語専攻4年生のクリスティーナと一緒にイントロダクションとガイド（便利なアプリ紹介、注意点、ロシア語の挨拶）を担当した。クリスティーナはおとなしい性格でこちらの意見に対しあまり反対意見や反論はしなかったが、しっかり自分の意見を持っていた。イントロダクションの作成では、成果物のターゲットを定める大切さを学んだ。一緒にイントロダクションの文章を考えるとき最初はなかなか書く内容が決まらなかったが、若者でクラスノヤルスクやロシアについてあまり知らない日本人向けのパンフレットというターゲットをはっきりと伝えたら、スムーズに文章が書きあがった。さらに、ロシア事情に詳しくない人にとって役立つ情報を積極的に出してくれるようになった。例えば飲み水について、最初クリスティーナは、クラスノヤルスクの水道水はきれいで飲用できる（現地人は水道水を飲んでいる）と言っていたが、日本人にはクラスノヤルスクの水道水が合わない人もいると伝えると、安いおすすめのペットボトルの水を紹介してくれた。

2人で一つの文章を仕上げるときに、話し合った内容を日本語にして、また話し合い、その内容を日本語にするという作業を繰り返しているととりとめのない文がいくつも連なったような文章になってしまった。そこで、大体書く内容が決まった後に、それらのとりとめのない文をどのような順に並べるかを話し合い、また内容を削ったり補ったりした。2人で一つの文章を書くときに、実際どの方法が効率的なのかは分からぬが、今回は初めに書きたいことを洗い出し、後からそれらの順番を整理したら時間内に比較的余裕を持って書き終えることができた。

全体を通して実感したことは、ロシア人と日本人、現地人と外国人観光客で見るポイントが全然違っているということだった。現地の人が見てほしいと思うポイントと観光客が見たいと思うポイントは必ずしも一致しないし、現地の人だからこそ気が付かない魅力的な場所や不便さがあるのだと思った。また、距離や時間の感覚もロシア人と日本人で全く違うこと（ロシア人にとって徒歩30分、車で1時間は結構近い距離など）も、その場所を観光パンフレットに取り上げるかどうかを左右した。どの人の目線で見るかによって、同じ場所や同じ物事でも違って見えるということを今回改めて感じた。しかし、牛の血で作ったお菓子など10ヶ月間の留学では知りえなかつたディープな現地人ならではの情報も知ることができて楽しかった。



# 学生の意欲を持続させながら活動する難しさ

簾内 亜里沙

プロジェクトワークでは、シベリア連邦大学の学生と「クラスノヤルスクの日本人向けパンフレットの作成」を行った。計6回の活動であったが、第1回目では、プロジェクトワークの趣旨を理解してもらうことができなかつた。導入として、「旅行する時に、事前に何を調べるか」ということについて話し合つたが、私の連想した旅行と学生の連想した旅行に大きな違いがあつたのではないかと思う。第2回目で、ようやく「クラスノヤルスクに日本人を呼ぶ」ということまでは理解してもらつたと思う。学生の挙げた日本人ターゲットは、漫画家、環境に詳しい人・技術者、学生や若者など様々で、観光目的で呼ぶのか、ビジネス目的で呼ぶのか、それさえも自分たちで考えなければならないと漸く気付き始めていた。この時、私は環境問題が深刻で環境関連に詳しい人を呼びたいと真剣に語る学生と話しており、他の学生と違う路線だったので、多数決で若者に決まった時、彼女がプロジェクトに関してやる気を失わないかとても心配した。第3回目に、少し趣向を変えて、日本人である実習生が旅行で何を目的とするかを提示して、その項目に該当するクラスノヤルスクのものを挙げてもらった。日本人向けパンフレットであるから、まず日本人が何に興味を示しているのかを理解してもらうことを第一にするべきだったと感じた。インスタ映えする写真を撮りたいという意見にロシアの学生は理解するのが大変そうで、文化の違いが大きく、この違いについて最初に相互理解が必要だったと思う。

第4回目からは6つのトピックに分かれて活動を行い、私は「楽しむところ」というトピックでロシア人学生(女)とペアになった。様々なフェスティバルを列挙してもらい、そのフェスティバルの内容を詳しく聞きながら、日本人の若者が旅行する時期と重なる開催期間のもの、イベント内容がクラスノヤルスクでなければならないのかと気にしながら選択したのだが、その時も学生のやる気を失わせないか注意しながら言葉を選んで会話をしていた。日本人向けだからといってこちらの意見を一方的に押しつけてはいけないし、だからといって薦められるままに選択してはいけない。これが最も難しかつたと思う。



私は、学生に挙げてもらったイベントから日本人の興味を引きそうなものの選択とそのイベントに関する正しい情報を聞き出すことを心掛け、パンフレットの文章も学生にロシア語で下書きをしてもらい、口頭で日本語訳してもらい、なるべく学生の日本語を用いつつも、意味を変えないように言葉を換えたりして作成した。振り返ってみると、学生の意欲を削がないように神経質になりすぎていたし、情報に関しては学生に頼り切つてしまっていたように感じる。何も知らないなりに、もっと自発的に調べて、自分からも新しい情報を提供するという姿勢を持つべきだったと思う。

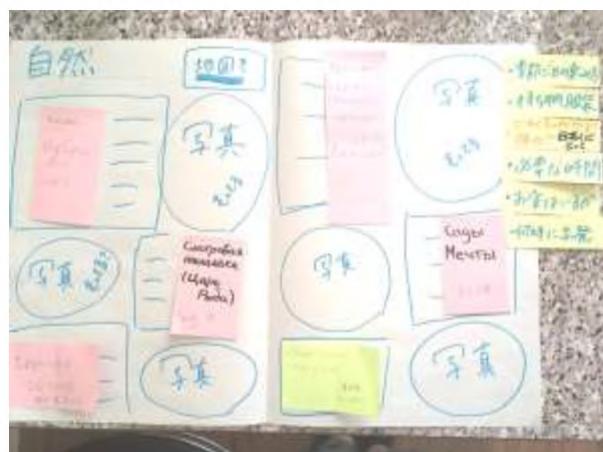
# プロジェクトワークを振り返って

齋藤 陽奈子

今回プロジェクトワークではクラスノヤルスクに来る日本人のためのパンフレットを作成した。最初は私たち実習生も何をするのかいまひとつ理解できておらず、最初の授業を終えた後はパンフレットを完成させることができるのが不安だった。最初にパンフレットの具体的なターゲットを考えた。学生たちで作成するということで、学生向けが良いという意見が多く、日本人学生向けに作成することになった。その中でも、クラスノヤルスクを目的としてロシアに来る人だけでなく、シベリア鉄道で旅をしている学生がクラスノヤルスクに寄ってみたくなるようなパンフレットを作成することを目指した。以前私が参加したプロジェクトワークは、ターゲットが外国人であったため、彼らがどんなもの求めているのか考える必要があった。今回のターゲットの日本人学生ということで、自分も当てはまるため、どんなものが求められているかは分かったが、それをロシア人学生に伝え、理解してもらうことが大変だった。

具体的な内容が決まった後は、私は自然スポット担当グループの一員として、内容を考えて行った。ロシア人学生一人と実習生二人のグループで、まずはどの場所をピックアップするのか考えて行った。クラスノヤルスクの人たちは散歩やウォーキングなどが好きで、また自然も豊かな地域であるため、候補となる場所はたくさんあがつた。その中から6カ所ほどにまず絞ったが、ロシア人学生が一人で場所をさらっと決めてしまい、実習生はあまり意見を出さずに進んでしまった。候補に出ていた場所についてはロシア人学生の方が良く知っており、私たちはほとんど何も知らないため、口出しはあまりせずに任せてしまっていた。ロシア人学生はどこを載せるべきなのか、意見をはっきり持っていて、それにこだわっている部分があった。そのため、この段階からもっとはっきりとこちら側の意見も伝え、候補の場所がどんなスポットなのか聞きだしたりすべきだったと反省した。場所が決まった後は、それぞれの場所について載せる内容について考えた。ここでははっきりと日本人側の意見も伝えるようにしたが、中々伝わらなかったり、納得してもらえないことも多かった。最終的には遠くて行きにくい場所は、ロシア語が分からぬ日本人学生にとっては行きにくいということくらいしかちゃんと伝わっていなかつたかもしれない。しかし、こちらの意見を押し付けずに、理解してもらったり、伝えたりする難しさを感じることができ、良かったと思った。

時間がもっとあったら、まだまだ改善したかった部分はあったが、海外で日本語を学んでいる学生と一緒にパンフレットを作成するという経験は、日本ではできない貴重なものとなった。



# ロシアの学生とのプロジェクトワークを通じて学んだこと

中村 茉穂

クラスノヤルスクの日本人向け観光パンフレットの作成ということで、1回目はロシアの学生にプロジェクトの目的を伝えることに焦点を当てて行った。しかし、クラスノヤルスクの観光パンフレットを作るということは伝わったが、「日本人向け」ということが上手く伝わらなかった。私も一緒にプロジェクトを行う参加者であるのに、自分の意見をあまり話せなかっただけで、一番大切なところが伝わらなかったのだと思う。2回目は全体でターゲットは誰かということを確認できたので、項目ごとに担当を分け、スムーズに次の活動に移れた。私は3年生のアリョーシャと「建物・博物館」についてのページを担当した。どの場所をガイドブックに載せるのかを決めるとき、様々な博物館や美術館が候補として挙げられていた。クラスノヤルスクらしい博物館といえば、その土地で生まれた芸術家の博物館だと言われたが、有名なロシア人の記念館は日本人にとってなじみが少ないためあまり興味がないということを最初にしっかりと伝えた。そして、日本人がどのような場所に行きたいと思っているのかを伝えると、すぐに掲載場所を決めることができた。

アリョーシャと説明文を確認するときに、日本人にとってどのような内容がガイドブックに書いてあると興味を引くのかという点で、例えば面白い写真が撮れる場所とか恋人たちに人気の場所といった、場所の説明だけでなくその場所の楽しみ方もいた方がいいという意見を言ったところ、他の場所でのロシア人なりの楽しみ方を載せても面白いのではないかという意見が出てきた。日本人向けのパンフレットだったので現地の人の楽しみ方にはあまり焦点を当てていなかったが、せっかくクラスノヤルスクに来たなら現地の人の楽しみ方を体験するのも面白そうと思い、説明文として掲載することにした。

プロジェクトの活動は全て日本語で行ったのだが、アリョーシャは日本語でもたくさん意見を言ってくれた。日本人向けのパンフレットだからと言って、日本人の私の意見に合わせるだけでなく、しっかりとロシア人なりの意見も聞くことができ、お互いの考え方の違いを知ることができた。特にアリョーシャは自分の意見をしっかりと言ってくれたので、私も負けないように意見を言うように意識した。日本人だけならば、よく他人の意見に合わせようとしてしまうので、今回は現地の学生とプロジェクトを行えて自分の意見を言うことの重要性を痛感した。



# プロジェクトワークをふりかえって

加藤 志真

プロジェクトワークを通して学んだことは、旅行先で求めるお土産のニーズには日本人とロシア人では違いがあり、パンフレット作りではその事実を知った上でお互い協力する必要があったことです。今回、日本人向けのパンフレットの中でもターゲットの読者は若者に決まり、早速各トピックに担当を振り分け、各チームどんな情報をパンフレットに入れるかの話し合いが始まりました。

ペアの学習者と私が担当したのは買い物・お土産で、最初話し合いはそれほど難しくないと思いました。なぜなら内容もある程度限定されているトピックであるが故、話し合いはまとまり易いと考えたからです。しかし実際話し合いが始まると、学習者と私は互いが提案する案に疑問を抱きました。それは、双方が欲しいと考えるお土産の例に共感ができなかったからです。例えば、お土産として学習者が提案したものはクラスノヤルスクと地名がデザインされているペンやマグネットでしたが、それらは私にとって魅力的ではありませんでした。

プロジェクトワーク後、実習生のミーティングで各担当の進行状況を共有すると、他の実習生も同じ壁にぶつかっていることに気付きました。そこで初めて日本人が旅行先で魅力的に感じるものと、ロシア人の視点は違うのではないか、その違いを知つてもらう必要があるという結論に至りました。そして実習生がそれぞれ旅先で知りたい情報を意見として出し合い、資料として学習者に提示することに決まりました。この日が週最後のプロジェクトワークだったこともあり、私はホームステイ先で週末を過ごしました。ホストの家で見た物は、冷蔵庫のドアに貼られていた数えきれないほどの海外の地名が入ったマグネットでした。マグネットの中には友人からのお土産もあるそうで、改めてマグネットなどのグッズはロシア人にとって人気の土産だということを実感し、ペアの学習者がなぜお土産の例にペンなどを提案したのかが理解できました。

週明けのプロジェクトワークで、日本人の旅先で求める情報がまとめられた紙を読むと、学習者は驚いた様子でした。そこにはお土産は特別な物である必要はなく、お菓子でも普通のスーパーに売っているものを買いたい、ペンやキーホルダーといったものには魅力を感じられないなどと書いてあったからです。日本人の若者の声を読んでから、学習者からは日本人の視点を考慮した提案が多くなり、パンフレットに載せたくなる情報が自然と出てくるようになりました。現地での買い物は大型のショッピングモールの他に町の至る所にあるスーパーの情報を載せるのはどうか、薬屋さんに売っている手軽なバラ売り菓子の情報など現地に長く住んでいる人ならではの情報が出てくるようになり、パンフレットに載せる紹介文を書き終えることができました。



# 異文化を持つ仲間とプロジェクトをする中で感じたこと

松岡 咲季

プロジェクトワークでは、クラスノヤルスクを訪れる日本人のためのガイドブックを作成した。具体的なターゲットや内容の構成、紹介するものや場所もすべてシベリア連邦大学の学生と私たち実習生とで一から話し合いながら決定していった。初めの授業では、具体的なターゲットや目的が想像できていなかったためか、日本人が知りたいと思う情報や行きたいと思う場所よりもロシア人がおすすめしたいものや場所を中心に話が進んでいくようであった。その後、具体的にターゲットを決め、実際にターゲットにも含まれる私たち実習生がどのようなことに興味があるのかという意見を伝えていくと、ロシア人学生から知りたい情報を少しずつ引き出せるようになったと感じた。

私はシベリア連邦大学4年生ともう1人の実習生と一緒に「自然」ページを担当した。「ターゲットはクラスノヤルスクを訪れる日本人の若者である」という共通の認識を持っていたが、ロシアの学生と日本の学生では感覚が大きく異なっていた。例えば、交通手段についてである。教えてくれる自然の場所は町の中心地から離れていることが多く、私は行き方や移動時間がとても気になった。ロシアの学生は移動手段としてタクシーを使うこととバスと徒歩の組み合わせを教えてくれたが、ロシア語のわからない日本人の若者にとってはタクシーの使用はハードルが高いし、バスと徒歩での移動は時間がかかるため行くのをやめてしまうのではないかと考えられた。このことを伝えると町中にあり比較的行きやすい自然の公園を教えてくれた。ほかにも、ロシアの学生の意見と私たちの考えをうまくすり合わせていくのに苦労した点が多くあった。

このプロジェクトワークを通して、異文化の人と一緒に話し合いながら何かを決定して進めていくことの難しさを体感した。私は自分の意見や考えを強く持ち相手に伝えることが苦手で、プロジェクトの中でも意見をどのように伝えたらよいのかがわからず何度も反省する場面があった。それぞれにしっかりと意見や考えを持ちそれを伝えていかなければ、せっかくの異なる視点や考え方、立場や情報が生かされないと感じた。自分の意見ばかりを押し通すのではなく相手の意見に流されるのではなく、異なる感覚や視点を持っているということを理解したうえで、お互いの意見をしっかりと伝え合い異なる意見や持っている情報をどのように生かしていくかが大切なではないかと感じられた。



# イメージを共有することの大切さ

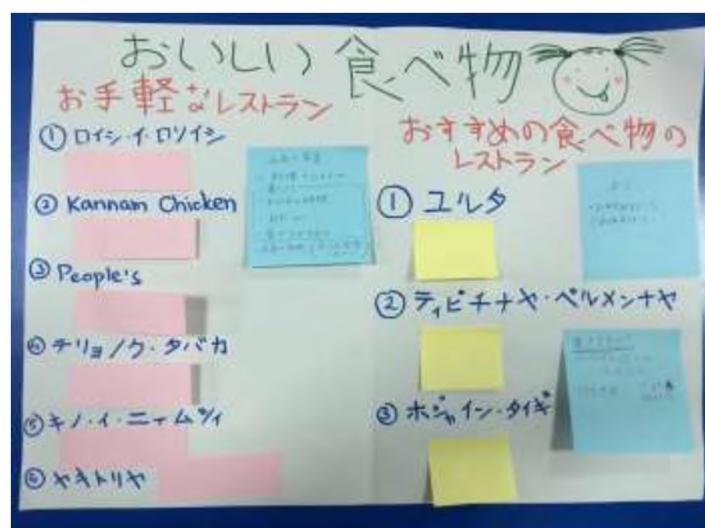
松澤 実紀

わたしは「食べ物」を担当した。現地の学生のペアがいなかったので、他の実習生のように異文化の衝突などは特におこらなかった。他のテーマの学生が、空いた時間に、必要な情報が足りているか、なにかヘルプがいるならメールしてね、などと声をかけてくれて嬉しくなった。途中から、やりたいこと、書きたいことが盛りだくさんで、何を優先すれば良いのかわからなくなってしまった部分があった。また、現地の学生と一緒に作業を進めていく中で、日本人を対象としたガイドブックだと理解した上で、現地学生が持ってきててくれた案を、実はあまり興味がなくても取り入れたことが誰しもあったのではないかと思う。やはり、ペアになって作業を行うときには、一方的に1人が自分の案をぐいぐい押してばかりいると関係性が悪くなりそうなときがある。面白いガイドブックのために必要な情報と、ペアの学生との関係性をバランスよく保つのは大変だったと思う。国民性もあり、性格は色々なので、お互いいつもとは違う性格の人と接し、新しいやり方を経験できてよかったです。

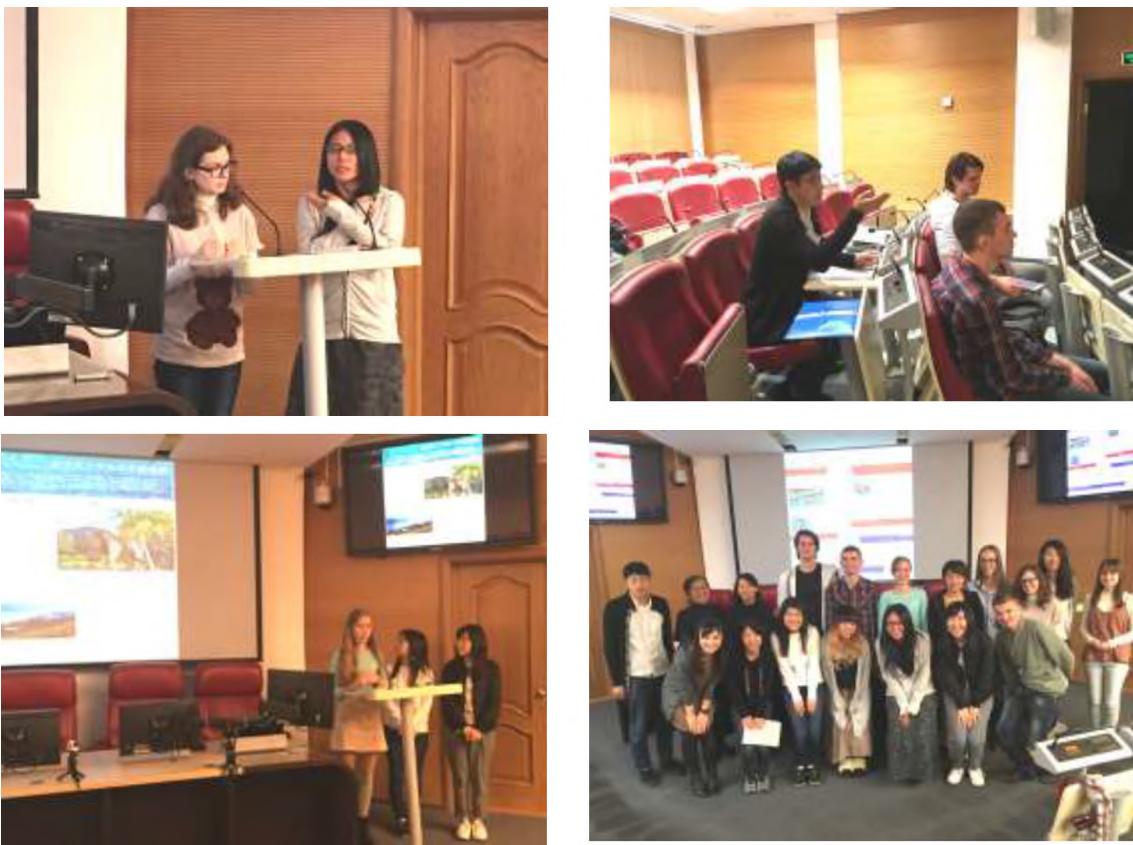
初回の授業で、「ガイドブックを作ります。対象は日本人です。」ということを理解してもらうのがこんなに大変だと思っていた。具体的なイメージが伝わると、学生たちは自主的に動いてくれたので、具体的にどのようなものを作るのかをイメージできるように説明することが大切なのだとわかった。

テーマが決まってからは、ペアに分かれて作業を進めていたので、学校で発表する時までお互いの内容を知らなかった。参加してくれた現地の学生たちは、授業の時間外にも話し合いなどをしてくれていたみたいだが、私たちにまでその内容は伝わってこなかった。その上、私たちは私たちで夜に振り返りを行っていたので、現地学生とうまく情報交換ができたらよかったです。また、私たち日本人のふりかえりは、内容のシェアではなかったので、内容のシェアもその時同時に言えばよかったです。

ガイドブックの完成形を現地の学生と一緒に見届けることができなくて残念だった。限られた時間と情報の中で、自分が欲しい情報は何なのか突き止め、その情報を探し出し、まとめるこの大変さをプロジェクトワークの活動を通して実感した。



## [成果発表会の様子]



## [作成した冊子の一例]

**クラスノヤルスクへようこそ**

あなたを魅了するもうひとつのロシア  
シベリアの首都  
クラスノヤルスク

**知ってると安心のクラスノヤルスク**

**サバイバル・ロシア語会話**

**クラスノヤルスクで買う**

**クラスノヤルスクで楽しむ**

**シベリアの首都**

各ページはロシア語で書かれていますが、日本語訳文が付いています。



## 5. それぞれの学び



# 振り返りの大切さ

成田 彩夏

今回の実習で身に付いたのは、うまくいったことや反省点を次に生かして改善していく習慣と、自分の話す日本語を意識することだと思う。

授業後すぐに(遅くともその日の夜に)振り返りをしてその授業で分かったことや、うまくいったこと、反省点を振り返りでもう一度思い出すことで、次の授業でどのように動いたらよいかイメージができたし、うまくいった点は定着しやすかった。現場で進行役やサポーターをするのも良い経験だったが、その後の振り返りでその経験での学びが何倍にもなったように感じた。自分が進行役でないときでも、その回の進行役についてみんなで気が付いたことを言い合うことで、何かあったときの対処の仕方や授業の進め方のコツが分かった。印象に残っていることは、全体シェアの仕方だった。あるグループから得た回答を他のグループに聞いてみるなど、毎回の授業ごとに新しい発見や方法が見つかった。また、グループ分けの仕方や机の配置を事前に考えておくだけでなく、欠席者がいる場合や新規の学習者が来た場合などのことも考慮し複数の案を用意しておくなど、教室作りの面でもコツが分かった。サポーターや観察者についても、全体シェアで発言しても良い、観察者もグループに入っても良い、その際目線を学習者に合わせるなど毎回改善点があり次の授業で実践できた。さらに、人によって感じることや意見が違い一人では気が付かなかつたことや新しい意見が多く聞けたので、振り返りで他の実習生と話し合うこともとても勉強になった。

もう一つ、今回の実習では自分が話す言葉のコントロールを意識した。最初は、なるべくやさしい単語を使ったり、文を短く切ったりして話すよう意識していた。話すときの単語や文の構造をやさしくすれば学習者とコミュニケーションがとりやすくはあるが、学習という側面で見ればそれが必ずしも学習者のためになるとは限らないと分かった。実際に会話する中で、こちらの使った単語や文の構造を学習者が真似て使うのを見て、学習者の少し上のレベルの単語や文の構造を使って話すのが最も学習者のためになるということが改めて分かった。学習者にとって難しすぎる単語や文法を使っても伝わらないが、簡単すぎるともためにならないということはしっかり意識しなくてはならないと思った。

進行役やサポーターをしながら知った日本語の授業で気を付けることだけでなく、振り返りを次の授業に活かすという習慣など、今回の実習で学んだことを今後の国内実習で活かしていきたい。





## 事前に多くの選択肢を用意することの重要性

簾内 亜里沙

2週間のロシアでの国外実習は、授業を行うだけでなく共同生活であったため、本当に様々なことに気を付けて毎日を過ごしていました。

事前の会話活動の教案作成は、ペア相手がいないため、自分の都合の良い時間に作成することができましたが、文化活動の方はグループで行うため、メンバーのスケジュールに大きく左右されました。今回のメンバーは特に私生活のリズムが異なり、授業外で会うことができず、ほとんどの話し合いをSNSで行いました。教案を作成する上ではとても困りましたが、メンバーの生活リズムや何に時間を割いているのかを知る上では良かったのではないかと思います。

実習中は2人1部屋(3人1部屋)で生活しましたが、生活環境がかなり整っており、不要なストレスを溜めずに済んだと思います。特に私が共同生活に向いているタイプではないので、同室だったメンバーには感謝しかありません。ローマ字語圏ではない国で、言葉もろくにわからないにも関わらず、快適に過ごせたのは住環境と留学経験者が2人もいたことが大きかったと思います。



また、活動自体については、教室形態が日本と大きく異なったことや学習者の性格によるグループ分けなど、日本では全く想定していなかった状況を経験しました。前日の夜に決めたことを授業直前に変更したこともあります。進行役、サポートー、観察者と3つの役割をこなしましたが、どの役割をしていても自分自身について考えさせられました。正直、学習者に寄り添いすぎなんじゃないかと思うくらい教案作成ではやり直しをしていましたが、実際にやってみると、それくらいしておかないと現場が回らないと感じました。何パターンも自分の選択肢を増やすことの重要性をようやく理解できました。

国外実習のプログラムは国内の準備段階からスタートが遅れていたと思います。ここまでグループやペアで協力して教案を作成することは思っておらず、直前にスケジュ

ールの変更は難しかった人もいたはずです。ですが、直前まで授業活動を緻密にイメージできなかつたため、もっと早く準備するべきだったとも強く言えません。学習者の日本語レベルに関しても、本当に直前に知らされたため、そこから大きな修正は難しかつたです。最初から言われていたことですが、臨機応変な対応と、どんな状況でも対応できるように選択肢を多く用意しておくことが大切だと思いました。



## 実習を振り返って

斎藤 陽奈子

今回の国外実習は、準備の段階では不安な点も多く、やり切れるのか心配だったが、振り返るとあっという間で、さまざまなことを体験できた実習であった。

授業に関しては、国内実習では教室活動案を作成することはあっても、実際に授業を行つたことはなかつたため、ほんとうにやり切れるのかと思っていた。しかし、不安はあっても現地の学生たちと話すことや学生たちからロシアのことなどを学ぶことができ、楽しんで活動をすることができた。会話の授業でも文化紹介でも反省点はとてもたくさんあるが、海外で日本語を学んでいる学生と関わる機会は中々ないため、とても貴重な体験となつた。

2週間ロシアで生活をして、一番大きく感じたのは言語の壁である。実際に行く前は、少しロシア語の勉強をしていけたらと思っていたが、余裕がなく結局ロシア語はゼロの状態で出発してしまつた。文字も読めず、英語を話せる人もあり多くなかつたため、得られる情報が少なかつた。スーパーへ行つても何か分からぬばかりだつたり、会計をするのも一苦労であった。今まで英語や日本語が全然通じないとどれだけ大変なのか今回は特に実感した。しかし、反対に言葉が分からなくても伝えようしたり、聞き取ろうとすると意外と何とかなることもあるということも感じた。今回この実習で、ロシア語が分からなくても敢えてロシアに行ってみることで、普段の自分よりは積極的になれたのではと思った。

今回はホームステイを経験することもでき、学生以外のロシア人の方と交流するこ

ともできた。私の場合は、あまり観光っぽいことはしなかったが、伝統的なロシアの家や習慣に触れることができた。ホームステイに行かなければ食べることのなかった食べものも頂き、すごく色々な体験が詰まった二日間であった。

今回の実習では、実習に参加しなければ中々行くことのなかった場所に行くことができ、そこで日本語を学んだり、日本に興味を持ってくれている人々に出会うことができとても嬉しく感じた。最初は国外実習に参加するか迷ったが、思い切って参加して良かったと心から思える二週間であった。



## 現場で感じしたこと

中村 茉穂

実習を通じて、目的を明確にすることの大切さを改めて実感することができた。国外実習に参加するかどうかを決める時、最初はロシアに行くことができることに魅力を感じて、あまり深く考えずに参加を決意した。そのため、参加を決めたが特に何も考えず、国内実習の課題をこなすだけであった。

いざ国外実習の準備や打ち合わせが始まると、文化紹介では何をすればいいのか、教室活動案の良い方法はないのかなど、悩むことが多くあった。参加を決意する前や、参加すると決意した後になるべく早くからどんなことをやってみたいのか具体的に様々なイメージを持つべきだった。日ごろから国外実習で活かせるものはないのかを意識できていれば、国内実習でも何かヒントを得ることができたと思う。自分の教室活動を振り返っても、学習目標として挙げていたことが後付けのようになってしまったので、実際の教室活動では目標としていたことを行うことができなかつた。どうし

てその活動を行うのかということを常に考えて行動することが大切だと感じた。

そして、実習を通して学習者との触れ合いの楽しさを実感することができた。長久手の教室で実際に学習者と会ってはいたが、自分が中心となって学習者とたくさん話すという経験は今までできていなかった。今回はシベリア連邦大学の2年生と3年生のクラスを担当し、ある程度日本語も話せるレベルだったので、授業以外でも日本語で話しかけてくれる学習者も多かった。授業後に「楽しかったです」と言ってくれる学習者もあり、私はそれがとても嬉しかったので、日本語教育に関わることの楽しさを味わうことができた。また、私が2年前に留学していた大学の学生だったので、当時の日本語レベルよりもはるかに上手に日本語が話せるようになっており、学習者の成長を感じることができた。学習者は真剣に授業に取り組んでくれたので、もっとわかりやすく、楽しめる教室活動を考えてあげたいと思うようになった。その分、準備は大変になると思うが、今後学習者に日本語を教える機会があれば、しっかりと悩んで良い活動ができるように工夫したい。



## 国外実習をふりかえって

加藤 志真

国外実習全体を通して気付いたのは、国内での授業準備から現地での授業、ふりかえりのミーティングやレポートと常に多くのことを学ぶ機会が設けられていたことです。そして結果的に日本語を教える経験を通して様々なことを学ぶことができ、充実

した実習に参加することができたということです。

この国外実習に向けての準備が始まった頃、現地で実習生は日本語の授業を2回ずつ担当するといわれ、最初にイメージしたのは教室活動案を準備して日本語を教えに行くというものでした。そして授業は日本語の文法や語彙について予め準備したものと、学習者とタスクを通して学び日本語の力をつけるいわゆる日本語の義務教育に近いものを想像していました。しかし、実際授業を自分たちで組み立てるとなった時、最初にトピックを設定するところから始まり、そのトピックからどんな会話ができるのかブレインストーミングを行い、会話の中から学習項目を決めコミュニケーション目標と合わせながらどんな授業を組み立てるか考えていくなど、型にはまつた授業などでは全くありませんでした。授業をひとつ考えるだけでトピックから作るミニトピックが教室活動をするにあたって適切かどうか、教室活動の流れはスムーズかなど段階を踏んでいきながら授業を作ると、想像以上に時間がかかりました。前期の最初から国外実習に参加する学生同士集まりながら授業作成を進めていたものの、出発前の一週間は何日も大学に通い自分の作る授業を修正したり、目的に合わせて活動内容を変えたり、困ったときには他の実習生に相談したりなど限られた時間の中で準備を続けて現地の大学に向かいました。

現地で授業を始めると自分の担当以外でもサポーター役を通して学習者の情報を掴んだり、授業に参加する一人としてタスクの時間が短かったか、指示は明確だったなどの常に多くのことを見ながら授業に参加する必要がありました。また、進行役とサポーター役以外では観察者役としてクラス全体についてのフィードバックを行う担当もあり、ふりかえりのミーティングとレポート含めて授業を通してどんな学びが得られたのか、自分がどう感じたのかを記録に残す作業を行いました。また、授業担当者は、現地にいる間に学習者がどんな学生なのか情報が得られたからこそ必要な授業の変更点などが出てきた場合も柔軟に対応して当日に備えるので、授業に対する完成度も求められました。実際に自分の授業を行うと、サポーターとして授業に参加するのとは全く異なっていたため、改めて授業を進めるには先のことを考える必要性や、全体シェアをいかに有意義な物にするかを考えるなど異なる視点での学びがありました。

こうして2週間の間でしたが現地では毎日学習者に気付かされたり、実習生同士の話し合いで発見する学びなど充実していました。そして、今回の国外実習をふりかえって、この経験を少しでも後期の授業や地域の日本語教室に活かせると、実習で学んだことが活きてくると思いました。





## 実習を通して学んだ意識化することの大切さ

松岡 咲季

今回の国外実習で学んだことは、何に対しても意識的に工夫することの大切さである。例えば学習者にとってインプットとなる自分の発話や教材を配るタイミング、学習者への話の振り方や全体の巻き込み方、理解度の確認の仕方や説明の方法など、1つの授業を行う中でも想像以上に多くのことを意識的に工夫する必要があるということを痛感した。

具体的に、私が授業で進行役を担当した際にもっと考えるべきだったと感じたことは、教材を配るタイミングと理解度を確認するための声のかけ方である。私は教材として日本の給食風景の写真を用いたが、写真の説明やそれを用いて行う活動の指示をする前に写真を配ってしまった。その結果、学習者の注意が写真のほうに移ってしまい説明と指示が行き届きにくくなってしまったので、写真を配るタイミングを工夫すべきだったと反省した。また、学習者の理解度や進度を確認する際に何気なく「わかりましたか。」「終わりましたか。」と尋ねてしまっていたが、これはコミュニケーションのための発話ではなく授業のための発話であり、学習者にとってもプレッシャーになってしまう。「わかりましたか。」と尋ねるのではなく、新出であった語彙や表現を使って学習者自身のことを聞き、学習者の返答から理解度を測るなどの工夫が必要だと知った。このように、授業をコントロールしたりより実際のコミュニケーションに近い形で活動をしたりするために、1つ1つの行動や言葉選びを意図を持って行うことが大切であるとわかった。

実際に教室活動を行ってみると「意識する」ということが難しく、後から意識できていなかった改善点に気が付くことが多くあった。その点で、今回の実習では教室



活動やプロジェクトの後に、毎回振り返りのミーティングを全員で行い情報共有や意見交換を行っていたので、授業で感じた疑問やうまくいかなかつたことなどを全員で話し合ったり先生からアドバイスをもらったりして、次の授業で「意識すること」につなげられていたように感じられる。教室活動案を作る過程で意識すべきこともたくさんあったが、実際に授業を行う際に現場レベルで考え、工夫することも重要であるということが、今回の実習を通して痛感した。



## 日常の発言に注意することの大切さ

松澤 実紀

私は実習全体を通して、三つのことを学んだ。

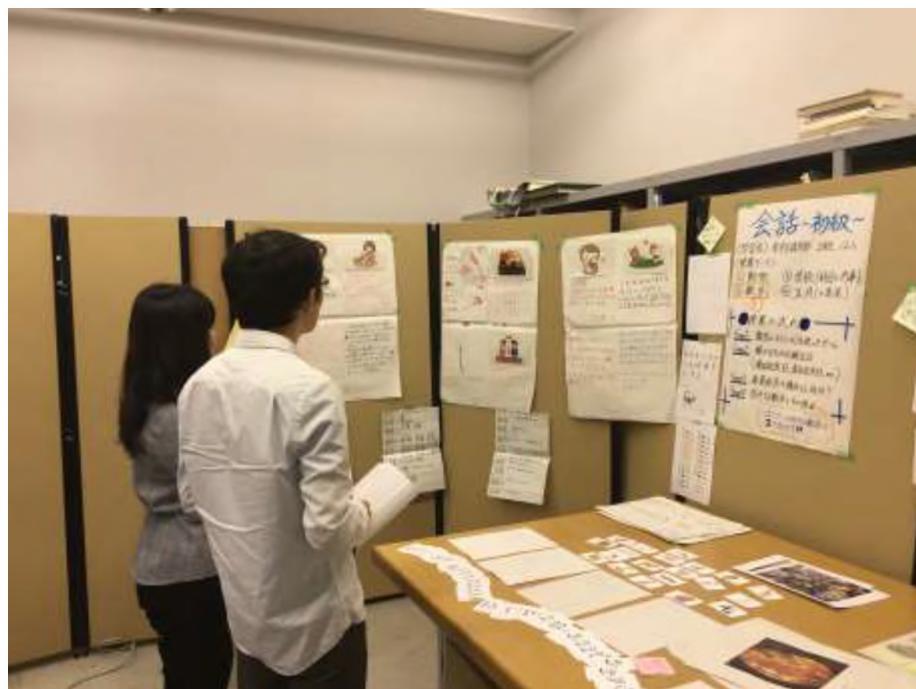
一つ目は、学習者について知ること、学習者の情報がいかに大切かということを学んだ。今までの授業や、長久手の土曜日教室で、何度も「学習者について知りたい」と思う気持ちが大切だということを言われてきたが、今回の実習をもってその本当の意味を理解することができた。学習者の情報とは、日本語のレベルに関すること、性格、家族構成など学習者が活動の中で話してくれたことすべてがのちに重要な「情報」となりうる。学習者に関する情報は、教室で活動を行う準備の段階でも、活動中にも役に立つ。例えば、教室活動の中でグループ分けをしたいと思った時に、この学習者とこの学習者は日本語レベルに差がありすぎるから違うグループにしようとか、学習者の性格を考慮してグループを工夫したりする場面が、実習中に何度もあった。活動中であれば、「そういえば○○さん、漫画が好きでしたよね。」などといって何か新しい話を始める時の導入になったり、話を深堀する際の会話のヒントとなったりもした。

二つ目は、教室活動案の重要性について学んだ。会話活動においても、文化紹介においても、教案と違うところがいくつかあり、とっさになんとか対処することができなかった。自分の性格上、予想外のことが起きると、なんとかする力はまだまだなく、焦って頭の中が真っ白になってしまう。教案通りに行くとは限らないからこそ、教案を元に、予想していた人数と違ったり、学習者が興味を示さなかったり、時間が足りなくなったりした時の対処法を考えておく必要があると思った。

三つ目は、自分が毎日話している日本語がいかに「言語化」されていないのかということを学んだ。「言語化すること」については、自身が一番苦戦したところだと感じている。「なんか」「みたいな」「～的な」のようなあいまいな言葉を用いている時、相手と自分の間に共通に知識があることを前提に話していたり、相手が雰囲気で理解してくれるだろうといって頼っている姿勢が見られる。実習中には、ジェスチャーや絵で説明を済ませてしまった場面が何度もあった。言語化に関しては、学習者と私の会話だけでなく、他の実習生に自分が感じたこと、当日の流れを説明する際にも欠けていた。「(学習者)さんは～なのかなあ、みたいな…」などと言って他の実習生が補足してくれたり何か発言してくれるのを待ってしまう自分がいた。「言語化」は、日々意識していないとできるようにならないと思う。だからこの実習で気がついたことを忘れないようにメモしておこう。



## 6. 归国報告会



# 帰国報告会アンケート結果

日時：2017年11月3日 11:00～16:00

場所：H棟003教室

来場者：約90名（名簿記入あり：65名）

アンケート回答者：58名



## 1. 来場のきっかけ

- たまたま通りかかった 34人
- 実習参加者から聞いた 10人
- 知り合いから聞いた 8人
- ポスターで見た 2人
- 卒業生からFacebookで連絡をもらった 1人
- 大学Webサイトで知った 1人

## 2. 説明はわかりやすかったか

とてもよく分かった	だいたいわかった	どちらとも言えない	ちょっとわかりにくかった	わかりにくかった
53	4	0	1	0

## 3. 展示の感想(抜粋)

- ✓ オノマトペ絵本などの教材、よかったです
- ✓ 1周まわってみるとところが良かった
- ✓ 海外の写真や本が組み込まれていておもしろかったです。入学したら、私もやってみたいです
- ✓ 楽しく日本語を学んで、子どもたちや色々なところで日本語のよいところを伝えてほしいと思います
- ✓ 実習参加の方から詳しい話を聞くことができて、勉強になりました
- ✓ 来年国外実習に行けるように学びます！
- ✓ 活用された資料など、実物が見れて、わかりやすかった
- ✓ 実習で使った教材を見せていただいて参考になりました。グリとグラをオノマトペの観点から使用したことを伺いました
- ✓ 知らなかった文化の違いを見たり聞いたりできて楽しかったです。言葉の壁がある中で教えるのは大変だと思いますが、交流を通じて思い出がつくれるのは素晴らしいことだと思いました
- ✓ 説明がわかりやすく、楽しくお話しできました！
- ✓ なかなか知ることのできない情報を知っておもしろかったです
- ✓ 日本語教育について少しわかりました



- ✓ 文化紹介のところで、LINE の内容の会話とか、若者らしさが出る企画でよかったです。日本の文化や生活習慣を再発見することができました
- ✓ 他の国の人々に、日本語を教えるのは大変そうだなと思った。教え方にいろんな工夫があって面白かったです！
- ✓ ロシアの人の発想や言葉選びがすごい面白かったです！！
- ✓ ボルシチがおいしそうだった！！
- ✓ ロシアでの実習がとても楽しそうだと思いました。実習の様子がよくわかる展示で、楽しく拝見させていただきました。映像もあるとよいかも
- ✓ 日本語を通して、日本の良さを世界の人々がさらに理解してくれるためにも、続けてください
- ✓ ロシアと日本の懸け橋になっていると思いました
- ✓ もう少し長く居れると、もう少しつつこんだ教育ができるのではと思いました
- ✓ わかりやすくて良い展示です。動画がもっと多いとさらによかったかな





# 2017 年度日本語教育実習（国外）報告書

2018 年 3 月 20 日発行

発行：愛知県立大学日本語教員課程

編集：宮谷敦美・東弘子

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3

愛知県立大学

Tel. +81-561-64-1111

E-mail: [nihongo@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:nihongo@for.aichi-pu.ac.jp)

本報告書は、平成 29 年度愛知県立大学諸実習経費により刊行された。